

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第173集

岩村田遺跡群  
西八日町遺跡V・VI

長野県佐久市岩村田西八日町遺跡発掘調査報告書

2010. 3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第173集

岩村田遺跡群  
西八日町遺跡 V・VI

長野県佐久市岩村田西八日町遺跡発掘調査報告書

2010. 3

佐 久 市  
佐久市教育委員会



H17-17



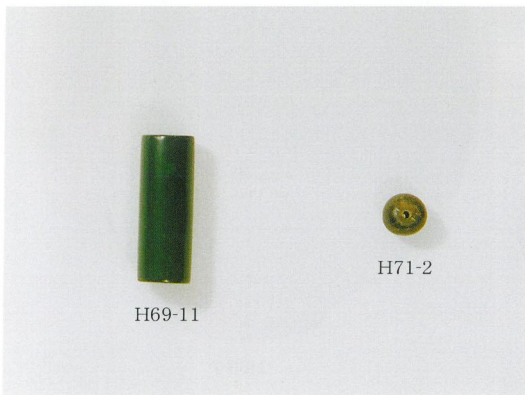
西八日町遺跡V H17土製品



H69-13

H76-11

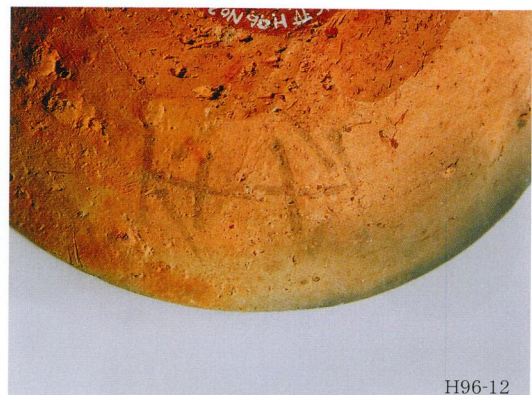
西八日町遺跡V H69・H76石器



H69-11

H71-2

西八日町遺跡V H69・71玉類



H96-12

西八日町遺跡VI H96墨書



H95-1



H96-16



H102-1

西八日町遺跡VI H95・96・102墨書



H96-21

D29-10



西八日町遺跡VI H96勾玉・D29石鏃



H95

H101

D26



西八日町遺跡VI H95・101・D26古銭



H69-7

西八日町遺跡V H69土師器

## 例 言

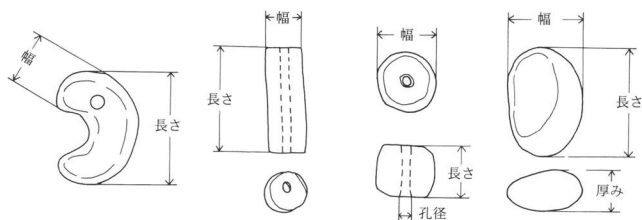
1. 本書は佐久市建設部都市計画課による、佐久都市計画事業岩村田相生町南土地区画整理事業用地内区画道路整備（S2-165-2・S2-162-2）に伴う岩村田遺跡群 西八日町遺跡V・VIの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市中込3056 佐久市建設部都市計画課
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
4. 遺跡名及び発掘所在地  
 岩村田遺跡群 西八日町遺跡V（INC V）  
                   佐久市岩村田2130-6、2130-10、2192-1、2194-1  
 岩村田遺跡群 西八日町遺跡VI（INC VI）  
                   佐久市岩村田2127-7・10、2128-2・3
5. 発掘担当者 現場作業 平成19・20・21年度 上原 学  
                   整理作業 上原 学
6. 本書の編集・執筆は上原が行った。
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略称は以下の通りである。  
 H-竪穴住居址    F-掘立柱建物址    M-溝状遺構    D-土坑    P-ピット
2. スクリーントーンの表示は以下の通りである。



3. 挿図の縮尺は以下の通りである。  
 遺 構    竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑 1/80    溝状遺構 1/200・160・120・80  
           単独ピット 1/80  
 遺 物    土師器・須恵器・灰釉陶器・その他の土器 1/4    石・石器類1/4・1  
           鉄製品1/4    玉類1/1
4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6. 土層・土器色調は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは小グリッド4×4mである。
8. 住居址の区割りは上を北とし、北東隅から逆時計廻りとし、4区画（I・II・III・IV）に分割した。
9. 遺物観察表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存高を示す。
10. 本文中の時代区分のうち、5世紀末～6世紀初頭とした住居址については、全体図では、古墳時代中期とした。
11. 玉類・石製品の計測は次のとおりである。



# 目 次

例言・凡例  
目次

## 第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 立地と経過	1
第 2 節 調査体制	3
第 3 節 遺構・遺物の概要と基本層序	4

## 第 II 章 西八日町遺跡 V の遺構と遺物

第 1 節 竪穴住居址 (H)	7
H 2 号住居址 - 7	
H 3 号住居址 - 7	
H 7 号住居址 - 8	
H 17 号住居址 - 9	
H 18 号住居址 - 11	
H 20 号住居址 - 12	
H 22 号住居址 - 12	
H 31 号住居址 - 13	
H 32 号住居址 - 15	
H 39 号住居址 - 15	
H 46 号住居址 - 16	
H 48 号住居址 - 17	
H 68 号住居址 - 17	
H 69 号住居址 - 18	
H 70 号住居址 - 20	
H 71 号住居址 - 21	
H 73 号住居址 - 22	
H 76 号住居址 - 23	
H 78 号住居址 - 25	
H 80 号住居址 - 25	
第 2 節 掘立柱建物址 (F)	26
F 4 号掘立柱建物址 - 26	
F 18 号掘立柱建物址 - 27	
F 20 号掘立柱建物址 - 27	
F 23 号掘立柱建物址 - 27	
第 3 節 溝状遺構 (M)	28
M 3 号溝状遺構 - 28	
M 4 号溝状遺構 - 28	
M 5 号溝状遺構 - 28	
M 6 号溝状遺構 - 28	
M 7 号溝状遺構 - 29	
M 10 号溝状遺構 - 29	
第 4 節 土坑 (D)	30
D 11 号土坑 - 30	
D 14 号土坑 - 30	
第 5 節 ピット (P)	30
写真図版	

## 第 III 章 西八日町遺跡 VI の遺構と遺物

第 1 節 竪穴住居址 (H)	47
H 95 号住居址 - 47	
H 96 号住居址 - 48	
H 97 号住居址 - 50	
H 100 号住居址 - 52	
H 101 号住居址 - 52	
H 102 号住居址 - 53	
H 104 号住居址 - 55	
第 2 節 掘立柱建物址 (F)	55
F 28 号掘立柱建物址 - 55	
F 30 号掘立柱建物址 - 55	
第 3 節 溝状遺構 (M)	56
M 14・15 号溝状遺構 - 56	
第 4 節 土坑 (D)	56
D 26 号土坑 - 56	
D 27 号土坑 - 56	
D 28 号土坑 - 56	
D 29 号土坑 - 57	
D 31 号土坑 - 58	
D 32 号土坑 - 58	
第 5 節 ピット (P)	58
第 6 節 古銭	60
写真図版	
抄録	

## 図版目次

### 図目次

第1図	岩村田遺跡群西八日町遺跡 V・VI位置図(1:100,000) .....	1
第2図	岩村田遺跡群 西八日町遺跡V・VI調査区 位置図(1:5,000) .....	2
第3図	基本層序模式図 .....	4
第4図	西八日町遺跡V・VI遺構配置図 .....	5.6

### 西八日町遺跡V図版

第5図	H2号住居址遺構・遺物実測図 .....	7
第6図	H3号住居址遺構・遺物実測図 .....	8
第7図	H7号住居址実測図 .....	8
第8図	H7号住居址遺物実測図 .....	9
第9図	H17号住居址遺物実測図 .....	9
第10図	H17号住居址遺構・遺物実測図 .....	10
第11図	H17号住居址遺物実測図 .....	11
第12図	H18号住居址実測図 .....	11
第13図	H20号住居址実測図 .....	12
第14図	H22号住居址実測図 .....	12
第15図	H22号住居址遺物実測図 .....	13
第16図	H31号住居址遺構・遺物実測図 .....	14
第17図	H32号住居址遺構・遺物実測図 .....	15
第18図	H39号住居址実測図 .....	16
第19図	H46号住居址遺構・遺物実測図 .....	16
第20図	H48号住居址実測図 .....	17
第21図	H68号住居址遺構・遺物実測図 .....	17
第22図	H69号住居址実測図 .....	18
第23図	H69号住居址遺物実測図 .....	19
第24図	H69号住居址遺物実測図 .....	20
第25図	H70号住居址遺構・遺物実測図 .....	21
第26図	H71号住居址遺構・遺物実測図 .....	22
第27図	H73号住居址遺構・遺物実測図 .....	23
第28図	H76号住居址実測図 .....	23
第29図	H76号住居址カマド実測図 .....	24
第30図	H76号住居址遺物実測図 .....	24
第31図	H78号住居址遺構・遺物実測図 .....	25
第32図	H80号住居址遺構・遺物実測図 .....	26
第33図	M2号遺構F4号掘立柱建物址遺構・遺物実測図 .....	26
第34図	F18号掘立柱建物址実測図 .....	27
第35図	F20号掘立柱建物址実測図 .....	27
第36図	F23号掘立柱建物址実測図 .....	27
第37図	M3号溝状遺構実測図 .....	28
第38図	M4号溝状遺構実測図 .....	28
第39図	M5号溝状遺構実測図 .....	28
第40図	M6号溝状遺構実測図 .....	29
第41図	M7号溝状遺構実測図 .....	29
第42図	M10号溝状遺構実測図 .....	29
第43図	D11・14号土坑実測図 .....	30
第44図	ピット実測図(1) .....	30
第45図	ピット実測図(2) .....	31
第46図	ピット実測図(3) .....	31

### 西八日町遺跡V表

第1表	H2号住居址遺物観察表 .....	7
第2表	H3号住居址遺物観察表 .....	8
第3表	H7号住居址遺物観察表 .....	9
第4表	H17号住居址遺物観察表 .....	11
第5表	H22号住居址遺物観察表 .....	13

第6表	H31号住居址遺物観察表 .....	15
第7表	H32号住居址遺物観察表 .....	15
第8表	H46号住居址遺物観察表 .....	17
第9表	H68号住居址遺物観察表 .....	18
第10表	H69号住居址遺物観察表 .....	20
第11表	H70号住居址遺物観察表 .....	21
第12表	H71号住居址遺物観察表 .....	22
第13表	H73号住居址遺物観察表 .....	23
第14表	H76号住居址遺物観察表 .....	25
第15表	H78号住居址遺物観察表 .....	25
第16表	H80号住居址遺物観察表 .....	26
第17表	F4号掘立柱建物址遺物観察表 .....	27

### 西八日町遺跡V写真図版

図版一	.....	33
	西八日町遺跡V調査区東側周辺全景(北東から)	
	西八日町遺跡V調査区中央周辺全景(南から)	
図版二	.....	34
	西八日町遺跡V調査区西側周辺全景(北東から)	
	西八日町遺跡V調査区西側周辺全景(南東から)	
図版三	.....	35
	H2号住居址全景(南から)	
	H2号住居址遺物出土状況	
	H2号住居址カマド(南から)	
	H3号住居址全景(南から)	
	H3号住居址カマド(西から)	
	H3号住居址カマド掘方(西から)	
	H3号住居址掘方全景(南から)	
	H7号住居址全景(北から)	
図版四	.....	36
	H7号住居址掘方全景(北西から)	
	H17号住居址全景(南東から)	
	H17号住居址遺物出土状況	
	H18号住居址全景(東から)	
	H20号住居址全景(北から)	
	H22号住居址全景(北東から)	
	H31号住居址全景(南から)	
	H31号住居址カマド(南から)	
図版五	.....	37
	H31号住居址カマド掘方(南から)	
	H31号住居址掘方全景(南から)	
	H32号住居址全景(南から)	
	H32号住居址遺物出土状況(南から)	
	H32号住居址掘方全景(南から)	
	H39号住居址全景(東から)	
	H39号住居址掘方全景(東から)	
	H46号住居址全景(南から)	
図版六	.....	38
	H46号住居址カマド(南から)	
	H46号住居址カマド掘方(南から)	
	H46号住居址掘方全景(南から)	
	H48号住居址全景(南東から)	
	H68号住居址全景(南から)	
	H68号住居址掘方全景(南から)	
	H69号住居址全景(北から)	
	H69号住居址掘方全景(南から)	
図版七	.....	39
	H70号住居址全景(南から)	

H70号住居址掘方全景（南から）	
H71号住居址全景（南から）	
H71号住居址カマド（南から）	
H71号住居址カマド掘方（南から）	
H71号住居址掘方全景（南から）	
H73号住居址全景（東から）	
H73号住居址カマド（北から）	
図版八	40
H73号住居址カマド掘方(東から)	
H76号住居址全景（南から）	
H76号住居址カマド（南から）	
H76号住居址掘方全景（南から）	
H78号住居址全景（東から）	
H78号住居址掘方全景（東から）	
H80号住居址全景（南西から）	
H80号住居址掘方全景（南西から）	
図版九	41
F 4号掘立柱建物址全景（北から）	
F 18号掘立柱建物址全景（北から）	
F 20号掘立柱建物址全景（東から）	
D 11号土坑全景（南西から）	
D 14号土坑全景（北から）	
図版十	42
M 3号溝状遺構全景（南から）	
M 4号溝状遺構全景（南から）	
M 5号溝状遺構全景（南から）	
M 6・7号溝状遺構全景（南から）	
図版十一	43
H 2・3・7・17号住居址遺物	
図版十二	44
H22・31・32・46・68・69号住居址遺物	
図版十三	45
H69・70・71・73・76号住居址遺物	
図版十四	46
H76・78・80号住居址、F4号掘立柱建物址遺物	

#### 西八日町遺跡VI図版

第47図 H95号住居址遺構・遺物実測図	47
第48図 H96号住居址実測図	48
第49図 H96号住居址遺物実測図	49
第50図 H96号住居址遺物実測図	50
第51図 H97号住居址遺構・遺物実測図	51
第52図 H100号住居址遺構・遺物実測図	52
第53図 H101号住居址実測図	52
第54図 H101号住居址遺物実測図	53
第55図 H102号住居址遺構・遺物実測図	54
第56図 F28号掘立柱建物址実測図	55
第57図 F30号掘立柱建物址実測図	55
第58図 M14・15号溝状遺構実測図	56
第59図 D26・27・28号土坑実測図	56
第60図 D29号土坑遺構・遺物実測図	57
第61図 D31・32号土坑実測図	58
第62図 ピット実測図(1)	58
第63図 ピット実測図(2)	59
第64図 古銭	60

#### 西八日町遺跡VI表

第18表 H95号住居址遺物観察表	48
-------------------	----

第19表 H96号住居址遺物観察表	50
第20表 H97号住居址遺物観察表	52
第21表 H100号住居址遺物観察表	52
第22表 H101号住居址遺物観察表	53
第23表 H102号住居址遺物観察表	54
第24表 D29号土坑遺物観察表	58
第25表 古銭観察表	60

#### 西八日町遺跡VI写真図版

図版十五	61
西八日町遺跡VI東側調査区全景（南から）	
西八日町遺跡VI西側調査区全景（東から）	
図版十六	62
H95号住居址全景（東から）	
H95号住居址カマド（南から）	
H95号住居址カマド掘方（南から）	
H95号住居址掘方全景（東から）	
H96号住居址全景（南から）	
H96号住居址カマド（南から）	
H96号住居址カマド石材状況	
H96号住居址カマド掘方（南から）	
図版十七	63
H96号住居址掘方全景（南から）	
H97号住居址北側調査区全景（南から）	
H97号住居址南側調査区全景（南から）	
H97号住居址カマド（南から）	
H97号住居址カマド掘方（南から）	
H97号住居址北側調査区掘方全景（南から）	
H97号住居址南側調査区掘方全景（南から）	
H100号住居址全景（西から）	
図版十八	64
H100号住居址掘方全景（北西から）	
H101号住居址全景（南から）	
H101号住居址カマド（南から）	
H101号住居址掘方全景（南から）	
H102号住居址全景（南から）	
H102号住居址掘方全景（南から）	
H104号住居址全景（南から）	
H104号住居址カマド火床（南から）	
図版十九	65
F28号掘立柱建物址全景（南から）	
F30号掘立柱建物址全景（南から）	
F30号掘立柱建物址全景（東から）	
D26号土坑全景（西から）	
D27号土坑全景（北から）	
D29号土坑全景（南から）	
D31号土坑全景（南から）	
D32号土坑全景（東から）	
図版二十	66
M14・15号溝状遺構全景（北から）	
西八日町遺跡VI調査風景（南東から）	
西八日町遺跡VI調査風景（南西から）	
西八日町遺跡VI表土除去作業（西から）	
図版二十一	67
H95・96・97・100号住居址遺物	
図版二十二	68
H101・102号住居址、D29号土坑遺物	



# 第 I 章 発掘調査の経緯

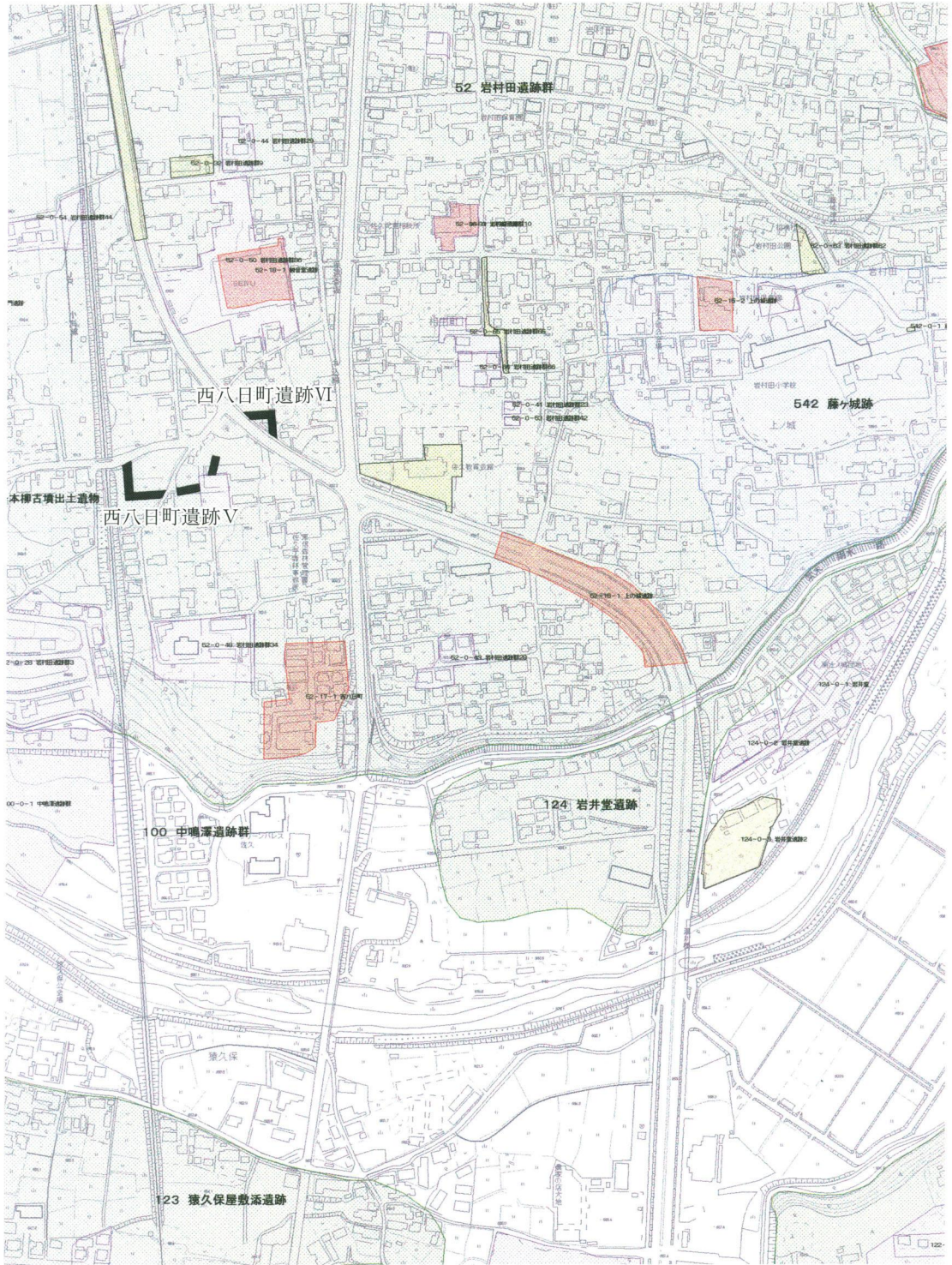
## 第 1 節 立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市岩村田に所在し、佐久地域特有の浅間の麓から放射状にのびる浸食谷である田切りに挟まれたおよそ南北方向の台地上に広く展開する。今回の調査対象となった西八日町遺跡は、田切りに挟まれた台地の南端に近く、北方に聳える浅間山の麓に源を発す湯川の右岸段丘上に位置する。標高は701m内外を測り、湯川との比高差は22m内外である。周辺地域の地盤は浅間山の降下火山灰と砂礫層で水はけが良く、安定しており、古くから生活の場として利用されている。また、本遺跡が含まれる岩村田遺跡群周辺は縄文時代に始まり、弥生・古墳・奈良・平安時代の原始・古代から、現在に残る岩村田の町並みの基礎ともなった中世城郭である大井城（北から石並城・王城・黒岩城）、近世末に築城された藤ヶ城跡まで幅広い時期の遺跡が存在する複合遺跡で発掘調査も数多く行われている。

今回、佐久市建設部都市計画課による佐久都市計画事業岩村田相生町南土地区画整理事業用地内道路整備工事が行われることとなり、事前に文化財保護協議を行った結果、佐久市教育委員会が主体となり、遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を実施する運びとなった。



第 1 図 岩村田遺跡群 西八日町遺跡 V・VI 位置図 (1:100,000)



第2図 岩村田遺跡群 西八日町遺跡V・VI調査区位置図 (1:5,000)

## 第2節 調査体制

平成19年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清  
事務局 社会教育部長 柳沢 義春  
社会教育部次長 山崎 明敏  
文化財課長 中山 悟 (4～6月)  
森角 吉晴 (7月～)  
文化財調査係長 三石宗一  
文化財調査係 並木節子 (10月～) 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿  
羽毛田卓也 富沢一明 神津格 上原学 出澤力  
調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子  
  
調査担当者 上原学

平成20年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清  
事務局 社会教育部長 内藤 孝徳  
社会教育部次長 柳澤 本樹  
文化財課長 森角 吉晴  
文化財調査係長 三石 宗一  
文化財調査係 並木節子 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也  
富沢一明 神津格 上原学 出澤力  
調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子  
  
調査担当者 上原学

平成21年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清 (4～5月)  
土屋盛夫 (5月～)  
事務局 社会教育部長 内藤孝徳 (4～6月)  
工藤秀康 (7月～)  
社会教育部次長 金澤英人 (4～6月)  
文化財課長 森角吉晴  
文化財調査係長 三石宗一  
文化財調査係 並木節子 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也  
富沢一明 神津格 (4～9月) 上原学 井出泰章 (10月～)  
出澤力  
調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子  
  
調査担当者 上原学

調査員 (平成19～21年度)

浅沼勝男 浅沼ノブ江 阿部和人 安藤孝司 岩崎重子 江原富子  
柏木義雄 小幡弘子 堺益子 里見理生 田中ひさ子 土屋武士  
中嶋フクジ 萩原宮子 比田井久美子 広瀬梨恵子 細萱ミスズ

武者幸彦 柳沢武 横尾敏雄 依田美穂 依田三男 渡邊久美子  
渡辺長子 渡辺学

### 第3節 遺構・遺物の概要と基本層序

#### 西八日町遺跡V

調査遺構 竪穴住居址 20軒（古墳前期1 古墳中期1 古墳後期10 奈良4 平安4）  
掘立柱建物址 4棟  
溝状遺構 7条  
土坑 2基  
単独ピット

出土遺物 土師器（坏・高坏・甕・甑）  
須恵器（坏・蓋・甕・壺）  
石製品・石器（搗臼・砥石・擦石・敲石・有孔軽石製品〈紡錘車？〉・  
有孔土製円盤・石鏃）  
玉類（白玉・管玉・土玉）

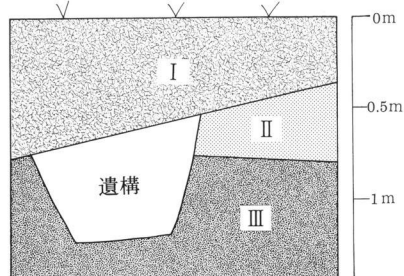
#### 西八日町遺跡VI

調査遺構 竪穴住居址 7軒（古墳後期1 奈良1 平安5）  
掘立柱建物址 2棟  
溝状遺構 2条  
土坑 6基  
単独ピット

出土遺物 土師器（坏・碗・甕）  
須恵器（坏・甕・蓋）  
鉄製品（釘・刀子・不明製品）  
石製品・石器（搗臼・敲石・石鏃）  
土製品（紡錘車）  
玉類（勾玉）

#### 基本層序

I層は耕作土または埋土で層厚は40～60cmを測る。II層は浅間山の噴出等によって堆積したローム層で存在しない地域も認められ層厚は0～30cmを測る。III層は湯川層の砂層で何重にも厚く堆積している。こうした状況から歴史的な生活状態を考えると、調査区一帯は水はけも良く安定した住みやすい土地であったと考えられる。遺構確認は基本的にII層上面であるが、地域によってはロームの堆積が薄く耕作土直下がIII層の湯川層になる地域もあり、こうした地域での遺構確認は砂層のIII層上面となる。



第3図 基本層序模式図



第4図 西八日町遺跡V・VI遺構配置図

岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅴ

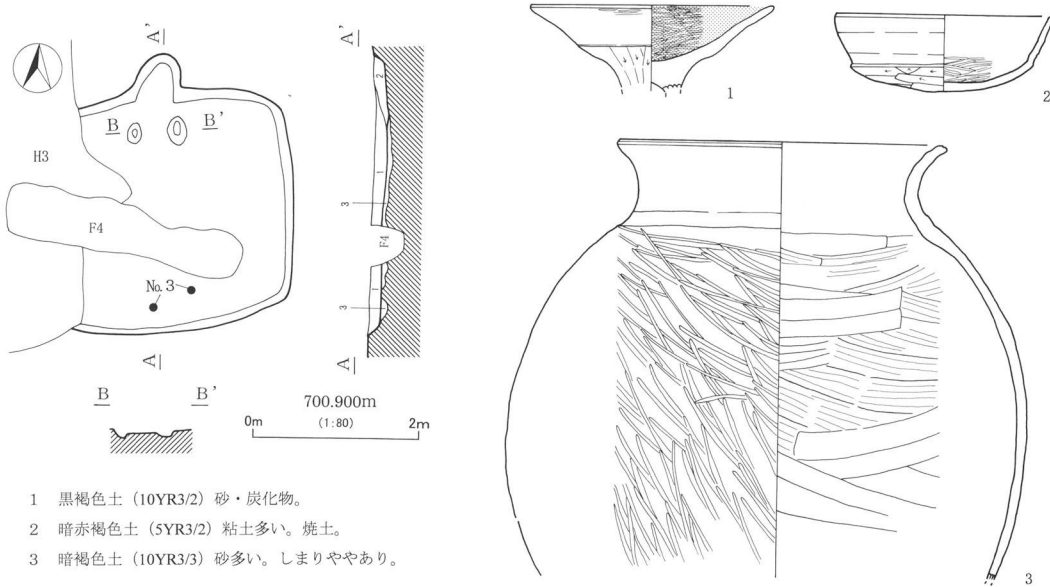
## 第Ⅱ章 西八日町遺跡Vの遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居址 (H)

#### H 2号住居址

遺構は29-こグリッドに位置し、F 4・H 3に切られる。平面形態はやや東西に長い隅丸長方形と思われる。規模は残存規模で東西2.6m、南北2.7m、確認面から床面までの深さは最大で16cmを測る。覆土はカマド部分を除き黒褐色土の単層である。床面は硬質で壁際の溝及びピットは確認できなかった。カマドは北壁のほぼ中央に構築されているが破壊が著しく、北壁外への張り出しと構築時の小ピットが認められる程度である。掘方は厚さ5～8cmの砂混じりでしまりのある暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕が出土した。土師器模倣坏及び高坏の坏部形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 砂・炭化物。
- 2 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土多い。焼土。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂多い。しまりややあり。

第5図 H 2号住居址遺構・遺物実測図

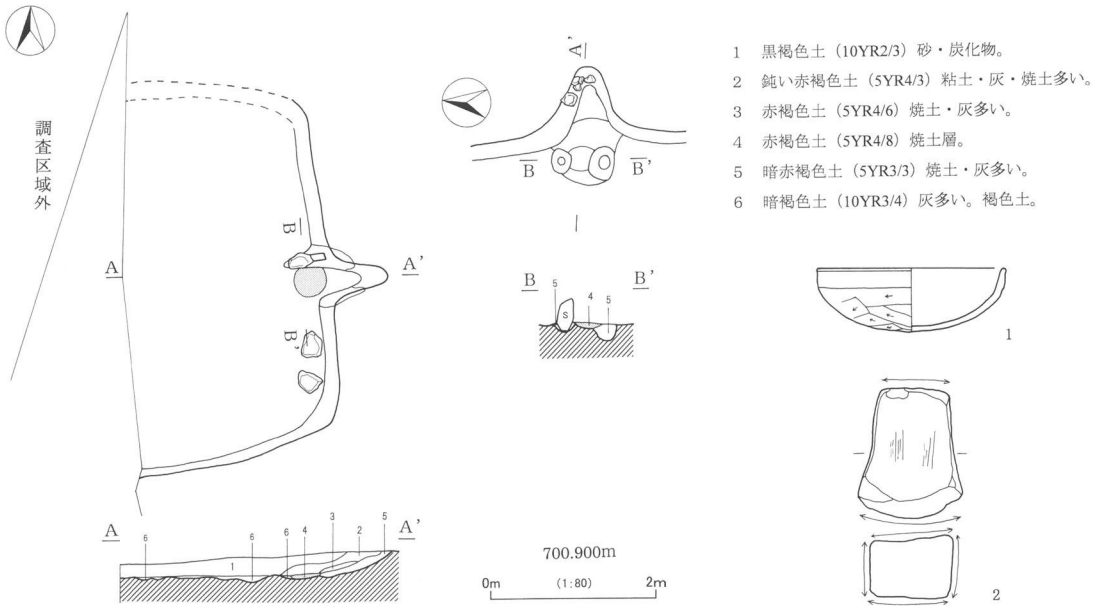
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様		残存率・部位	色調等
						外	内		
1	土師器	高坏	[15.0]	—	<5.2>	坏部外面ヘラミガキ・底部ヘラケズリ	内面ヘラミガキ・黒色処理?	坏部60	外面10YR5/4鈍い黄褐色・10YR3/2黒褐色
2	土師器	坏	13.4	丸底	4.7	外面口縁横ナデ・底部ヘラケズリ	内面横ナデ・ヘラミガキ	80	外面10YR2/3黒褐色 内面10YR5/3鈍い黄褐色
3	土師器	甕	20.3	—	<26.6>	外面ヘラケズリ・ミガキ	口縁横ナデ 内面ハケ目	60	内外面10YR7/4鈍い黄褐色

第1表 H 2号住居址遺物観察表

#### H 3号住居址

遺構は30-こグリッドに位置し、H 2・17を切る。平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。調査規模は東西2.4m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。床面はやや硬質で、壁際の溝、ピットは確認できなかった。カマドは東壁のやや南寄りに位置し、壁外に張り出した煙道部と粘土・石材で構築された袖の一部が残存していた。火床には径40cm、厚さ5cmの焼土が堆積していた。掘方は5cm内外と浅く、灰を含む暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕・坏、砥石が出土した。小破片が大半を占める。古墳時代後期のH 2を切り、底部丸底の土師器坏の存在から、古墳時代後期としたい。



第6図 H3号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[11.6]	丸底	3.9	外面口縁横ナデ・底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ・やや摩耗	35	内外面7.5YR5/6明褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
2	砥石	8	6.4	4.2	301.86	砥面6

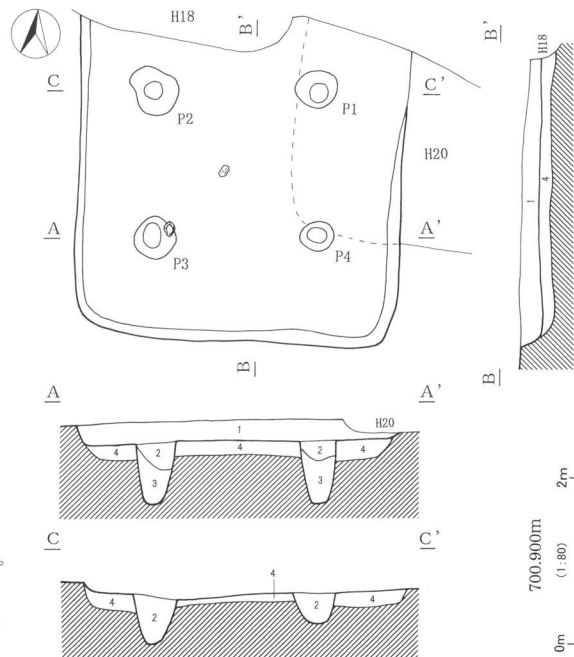
第2表 H3号住居址遺物観察表

### H7号住居址

遺構は29-くグリッドに位置し、H17を切り、H18・20に切られる。平面形態はやや隅丸の方形と考えられる。調査規模は東西3.9m、南北3.4m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。床面はやや硬さを持ち、壁際の溝は認められない。ピットは支柱穴が4個確認でき、深さは70cm内外を測る。カマド等は確認できなかった。掘方は15~20cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

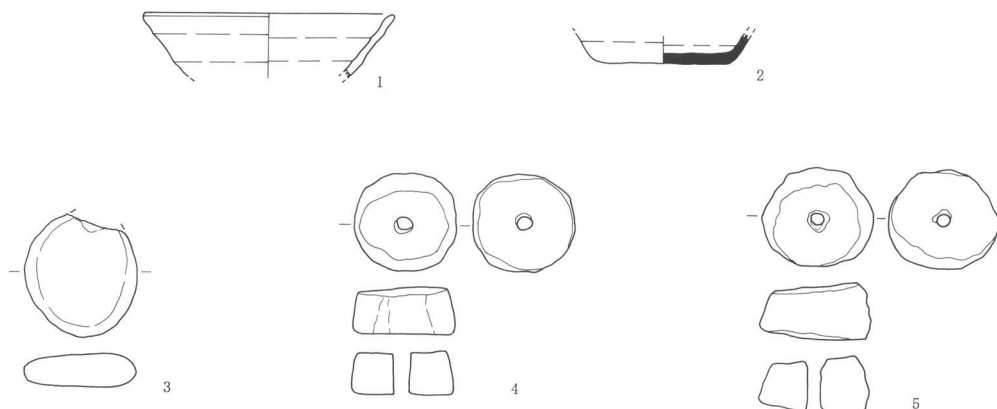
遺物は土師器の坏、須恵器の坏、石製品が出土した。本住居址は底部回転ヘラケズリの須恵器坏の存在から奈良時代、8世紀としたい。

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂少量。
- 3 黒褐色土 (2.5Y3/2) 砂主体。褐色土。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石。



第7図 H7号住居址実測図





第8図 H7号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[15.4]	—	(3.9)	内外面クロコナデ	口縁破片	内外面10YR8/3 浅黄褐色
2	須恵器	坏	—	[8.4]	(1.8)	体部クロコナデ 底部回転ヘラ切り	底部70	外面10YR7/1灰白色 内面2.5Y8/1灰白色

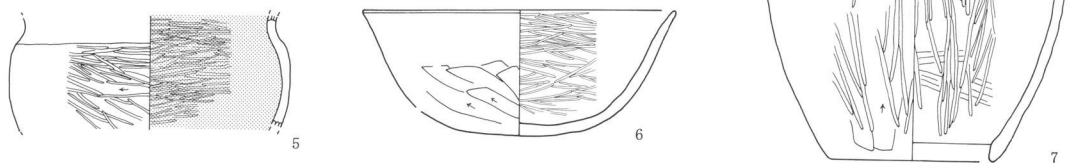
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
3	擦石	7.6	6.8	2.1	143.12		5	紡錘車?	6	6.8	3.4	35.42	軽石製 孔径0.85
4	紡錘車?	6	6.3	2.9	42.76	軽石製 孔径0.95							

第3表 H7号住居址遺物観察表

### H17号住居址

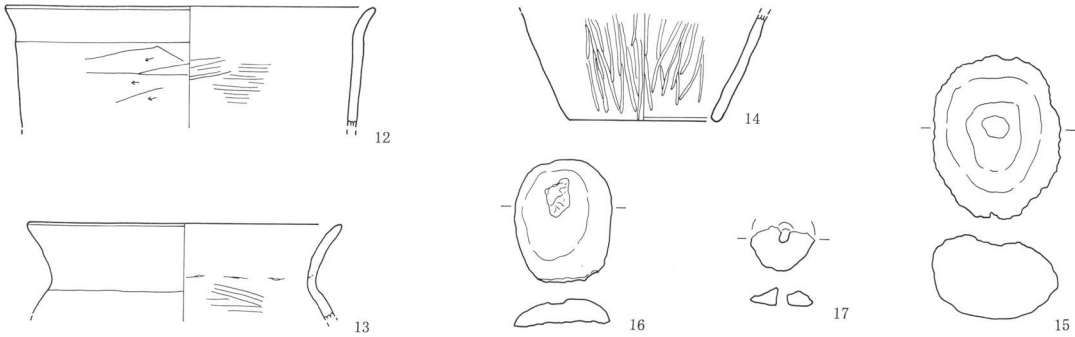
遺構は30-けグリッドに位置し、H3・7・18・22に切られる。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西5.2m、南北5.4m、検出面から床面までの深さは最深で35cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積である。床面は全体に貼り床され硬質である。壁際の溝は確認できなかった。ピットは6個認められP1~4が支柱穴、P5が入口に関すると思われる。北西コーナーには径70cm、深さ20cmの浅い土坑が存在する。カマドは認められなかった。H18に完全に破壊されたと考えられる。掘方は4cm内外の貼り床直下が直接地山の砂層になる部分と暗褐色土が埋め込まれた部分が存在する。

遺物は土師器の坏・甕・鉢・甑、須恵器の蓋・高坏・壺・甕、石製品が出土した。坏及び胴上部に最大径のある甕の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



第9図 H17号住居址遺物実測図





第11図 H17号住居址遺物実測図

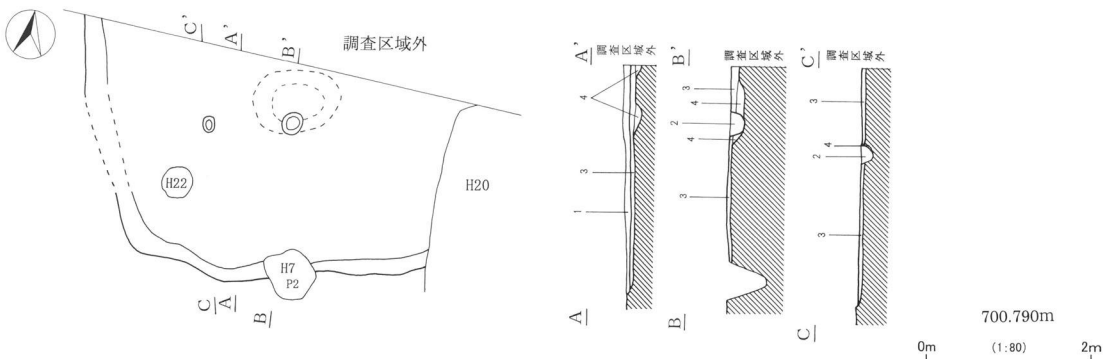
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	蓋	-	-	(2.0)	ロクロナデ	天井部破片	内外面5Y6/1灰色
2	須恵器	高坏	-	-	(4.9)	ロクロナデ	頸部破片	内外面5Y6/1灰色
3	土師器	坏	[12.8]	丸底	(3.8)	口縁横ナデ・ミガキ 外面ヘラケズリ・ミガキ 内面ミガキ・黒色処理	口縁~底部破片	外面10YR6/3鈍い黄橙色
4	土師器	甕	[14.4]	-	(7.5)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面クシ状ヘラナデ	口縁~胴部破片	外面5YR5/4鈍い赤褐色
5	土師器	甕	-	-	(6.9)	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ 内面ヘラミガキ・黒色処理	胴部破片	外面10YR8/4浅黄橙色 内面黒色
6	土師器	鉢	[19.2]	やや丸底	7.7	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	内外面5YR6/3鈍い橙色
7	土師器	甕	-	[9.8]	(15.0)	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ 内面ハケ目・ヘラミガキ	底部~胴部破片	外面7.5YR8/3浅黄橙色
8	土師器	甕	19.5	-	(12.3)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面クシ状ヘラナデ 9と同一個体?	口縁~胴部	内外面7.5YR6/3鈍い褐色
9	土師器	甕	-	6.1	(15.3)	外面ヘラケズリ 内面クシ状ヘラナデ 底部ヘラケズリ 8と同一個体?	底部~胴部	内外面7.5YR6/3鈍い褐色
10	土師器	甕	20.3	-	(27.2)	口縁横ナデ・輪積み痕 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	外面10YR7/4鈍い黄橙色
11	土師器	甕	20.2	-	(17.8)	口縁輪積み痕・横ナデ 外面ヘラケズリ 内面クシ状ヘラナデ	50	外面10YR6/4鈍い黄橙色
12	土師器	甕	[22.8]	-	(7.4)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁破片	内外面7.5YR6/4鈍い橙色
13	土師器	甕	[19.4]	-	(5.9)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面クシ状ヘラナデ	口縁破片	外面5YR7/6橙色
14	土師器	甕	-	[9.2]	(6.6)	内外面ミガキ 底部単孔	底部破片	内外面7.5YR6/4鈍い橙色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
15	凹石	9.9	7.9	5.3	361.48	軽石製
16	敲石	7.5	5.9	1.7	87.89	

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
17	紡錘車	[2.8]	3.9	1.1	6.53	孔径0.65

第4表 H17号住居址遺物観察表

H18号住居址



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 地山砂・小石多く含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 柱痕。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 地山砂・フワク混在。しまりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 掘方。

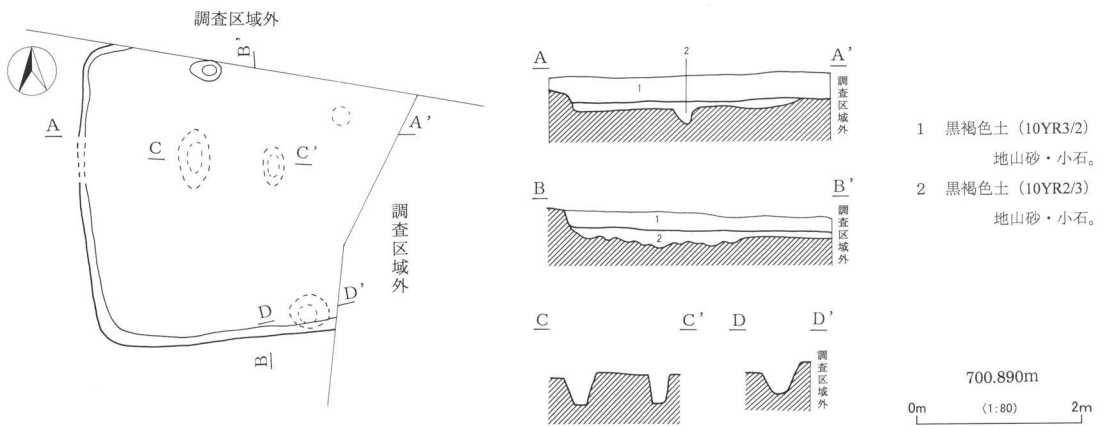
第12図 H18号住居址実測図

遺構は29-くグリッドに位置し、H20に切られ、北側は調査区域外となる。平面形態は全体の調査状況から東西に長い隅丸長方形である。調査規模は東西3.6m、南北2.4m、検出面から床面までの深さは5cmと浅い。覆土は黒褐色土の単層である。床面は薄く貼り床され、床の直下は砂質の地山になる。壁際の溝及びピットは確認できなかった。

遺物は土師器の坏・甕片が出土したが量は少ない。薄手の甕及び坏の形状から平安時代としたい。

#### H20号住居址

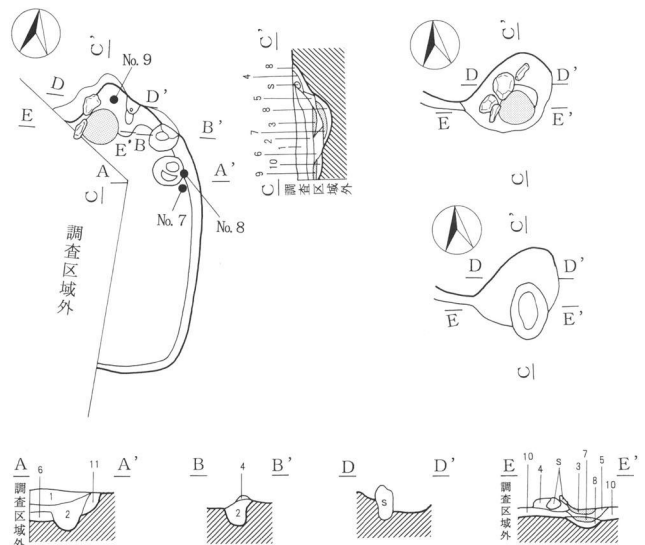
遺構は28-くグリッドに位置し、H7・18を切り、東側は区画整理調査分となる。平面形態は東西方向に長い隅丸長方形である。調査規模は東西3.2m、南北3.2m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。(区画整理調査分を含めた規模は東西4.0m、南北3.6m)床面はやや硬く、壁際の溝は認められず、床面上で支柱穴らしきものは確認できなかったが、掘方によって遺構の中央付近に2個のピットが存在した。住居の掘方には厚み5cm内外の黒褐色土が埋められていた。遺物は土師器の坏・甕等の破片が出土した。口縁「コ」の字状の土師器甕が出土していることから平安時代としたい。



第13図 H20号住居址実測図

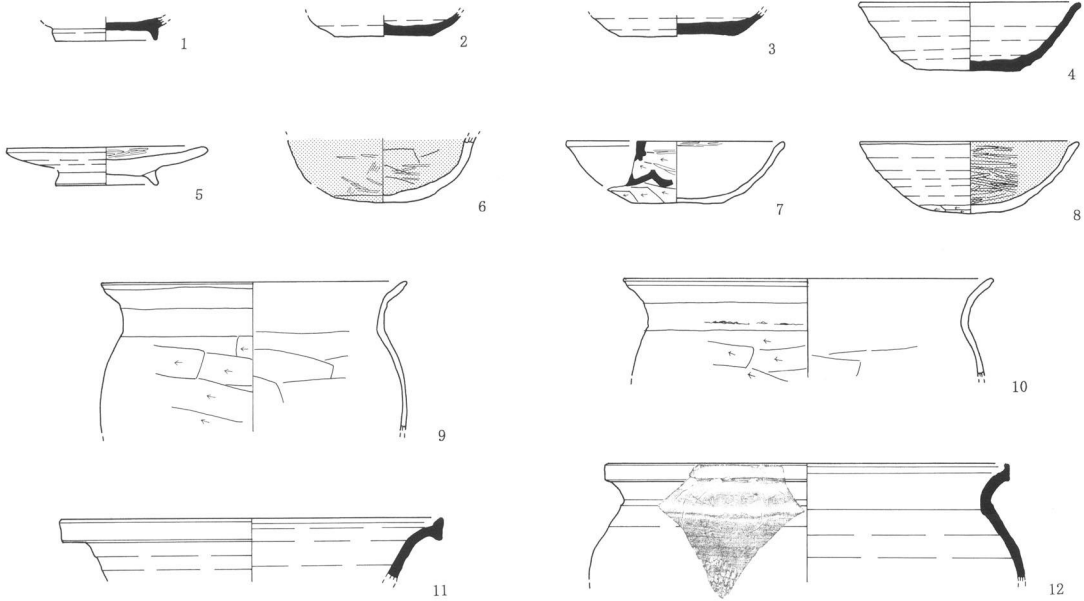
#### H22号住居址

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 地山砂・小石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 1層より明るい。
- 3 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土・粘土。
- 4 黒褐色土 (7.5YR3/2) 粘土質。
- 5 暗褐色土 (7.5YR3/4) カマド掘方。
- 6 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘質土。(貼り床)
- 7 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土。
- 8 黒褐色土 (7.5YR2/2) 粘質土含む。(下の焼土の掘方)
- 9 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘土質焼土。
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 地山砂多量。しまりあり。
- 11 暗褐色土 (10YR3/3) 地山砂。



第14図 H22号住居址実測図

遺構は30-cmグリッドに位置し、西側は区画整理調査分となる。平面形態は調査状況から隅丸の方形又は長方形と考えられる。調査規模は東西1.0m、南北3.0m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。(区画整理調査分を含めた規模は東西4.0m、南北3.0m) 床面は硬く、北東コーナーにピット2個が認められたが用途は不明である。カマドは北壁の東寄りに位置し、両袖の一部と火床が残存していた。火床には径35cm、厚さ5cmの焼土が堆積していた。遺物は土師器の坏・甕等の破片が出土した。甕の口縁形状から9世紀前半、平安時代としたい。



第15図 H22号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	灰種陶器	皿	-	6.2	(1.5)	高台貼り付け みこみ部全面に灰釉	底部・高台100	外面2.5Y7/2灰黄色
2	須恵器	坏	-	6	(1.5)	ロクロナデ 底部回転系切り	底部50	外面2.5Y7/1灰白色
3	須恵器	坏	-	[7.2]	(1.6)	ロクロナデ 底部回転系切り 火だすき	底部25	内外面5Y5/1灰色
4	須恵器	坏	13.8	6.4	4.2	ロクロナデ 底部回転系切り	60	内外面2.5Y7/2灰黄色
5	土師器	皿	[12.3]	6.3	2.3	ロクロナデ 底部回転系切り後高台貼り付け 内面ミガキ	30	外面7.5YR7/6橙色
6	土師器	坏	-	丸底	(4.1)	外面ヘラケズリ 内面ミガキ 内外面黒色処理	底部~体部	内外面7.5YR2/1黒色
7	土師器	坏	[13.5]	5.7	3.8	ロクロナデ 底部・体部下半ヘラケズリ 体部外面墨書	60	内外面2.5YR6/3鈍い褐色他
8	土師器	坏	13.5	6.5	4.4	ロクロナデ 底部ヘラケズリ 内面黒色処理	80	外面2.5YR6/6橙色
9	土師器	甕	[18.8]	-	(9.1)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 武蔵甕	口縁~胴部破片	内外面7.5YR6/3鈍い褐色
10	土師器	甕	[22.8]	-	(6)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 武蔵甕	口縁~胴部破片	内外面2.5YR6/4鈍い褐色他
11	須恵器	甕	[23.6]	-	(3.9)	口縁折り返し ロクロナデ	口縁破片	外面2.5Y6/1黄灰色他
12	須恵器	甕	[25]	-	(7.2)	口縁折り返し ロクロナデ	口縁破片	外面10Y5/1灰色

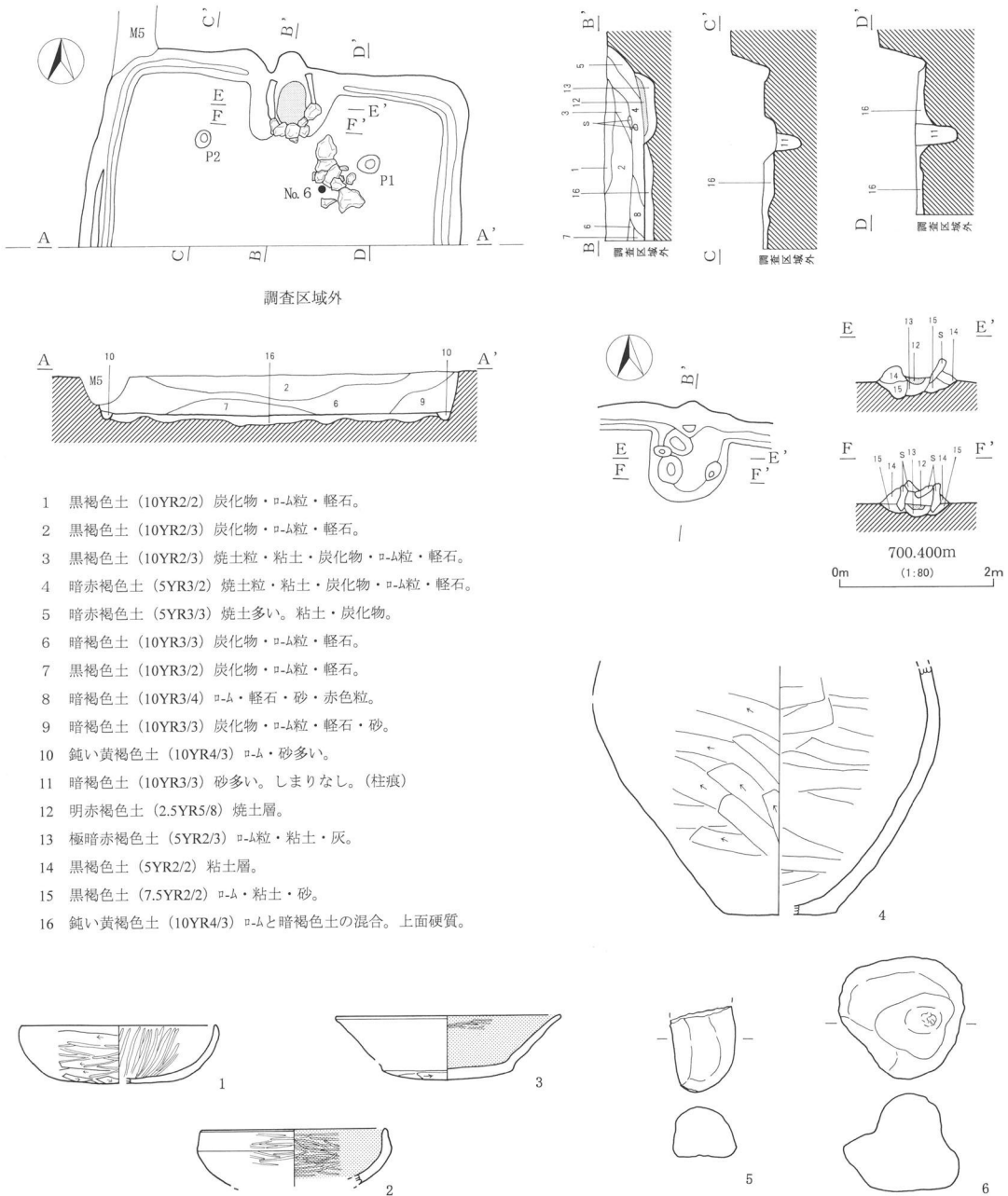
第5表 H22号住居址遺物観察表

H31号住居址

遺構は45-cmグリッドに位置し、M5に切れ、H32を切る。平面形態はやや隅丸の方形である。調査規模は東西4.8m、南北2.5m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積である。床面は硬質で貼り床され、壁際に溝が巡る。ピットは主柱穴が2個認められた。ピットの深さは床面から50cm内外を測る。カマドは北壁中央に構築されている。袖は火床を挟み込むよう

に北壁から内側に80cm程度延び、粘土で構築されている。内壁部には石材を埋め込み、焚き口部には崩落しかけた天井石が残存していた。火床は長径60cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、煙道は火床から45°の傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は上面硬質で鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・石製品が出土した。坏体部の形状から古墳時代後期、6世紀としたい。



第16図 H31号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[13.2]	丸底	(3.8)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ・ミガキ 内面放射状ミガキ	口縁~底部破片	外面2.5YR6/6橙色
2	土師器	坏	[12.2]	-	(3.7)	口縁横ナデ・ミガキ 外面ヘラケズリ・ミガキ 内面ミガキ・黒色処理	口縁破片	外面2.5YR6/6橙色・黒色
3	土師器	坏	[14.9]	8.6	4.2	外面ヘラケズリ・黒色 内面ヘラミガキ・黒色処理	60	内外面黒色
4	土師器	甕	-	7.5	(16.3)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	50	外面2.5YR6/6橙色

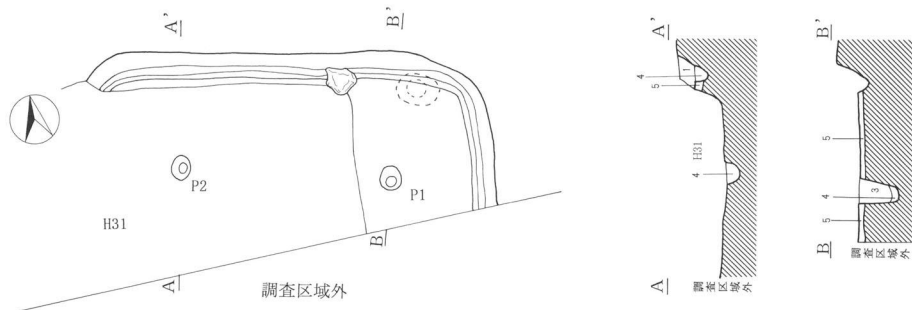
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
5	敲石	5.7	4.25	3.5	107.04	端部に敲打痕	6	スタンプ状石製品	8	8.3	6.4	248.24	下部擦面

第6表 H31号住居址遺物観察表

### H32号住居址

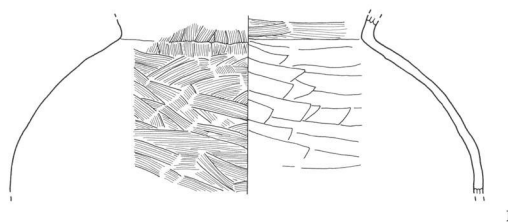
遺構は44-そグリッドに位置し、H31に切られ、南側は区画整理調査分となる。平面形態は残存した状況から隅丸方形と考えられる。調査規模は東西4.6m、南北2.0m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。(区画整理調査分を含めた規模は東西5.0m、南北6.2mを測る)床面は貼り床され硬質で、壁際に溝が巡る。ピットは支柱穴が2個、壁際に1個認められた。支柱穴の深さは床面上から50cm内外を測る。また、区画整理調査分の南東コーナー付近に径1m、深さ60cmの土坑が掘り込まれている。カマドは存在しなかった。遺物の特徴から炉が使用された時期である可能性が伺える。掘方は貼り床のみであった。

遺物は土師器の坏・甕・高坏が出土した。土師器甕の特徴から古墳時代前期としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物・ $\alpha$ - $\text{M}$ 。
- 2 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) しまりなし。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)  $\alpha$ - $\text{M}$ ・軽石・砂。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 砂主体。暗褐色土。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)  $\alpha$ - $\text{M}$ と暗褐色土の混合。上面硬質。

700.400m  
0m (1:80) 2m



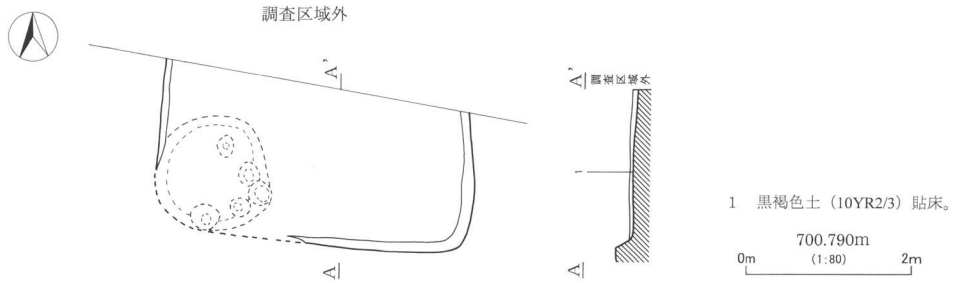
第17図 H32号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	-	-	(10.7)	外面クシ状へらによるナデ 内面ヘラナデ	胴上部破片	内外面7.5YR5/4鈍い褐色・黒色

第7表 H32号住居址遺物観察表

### H39号住居址

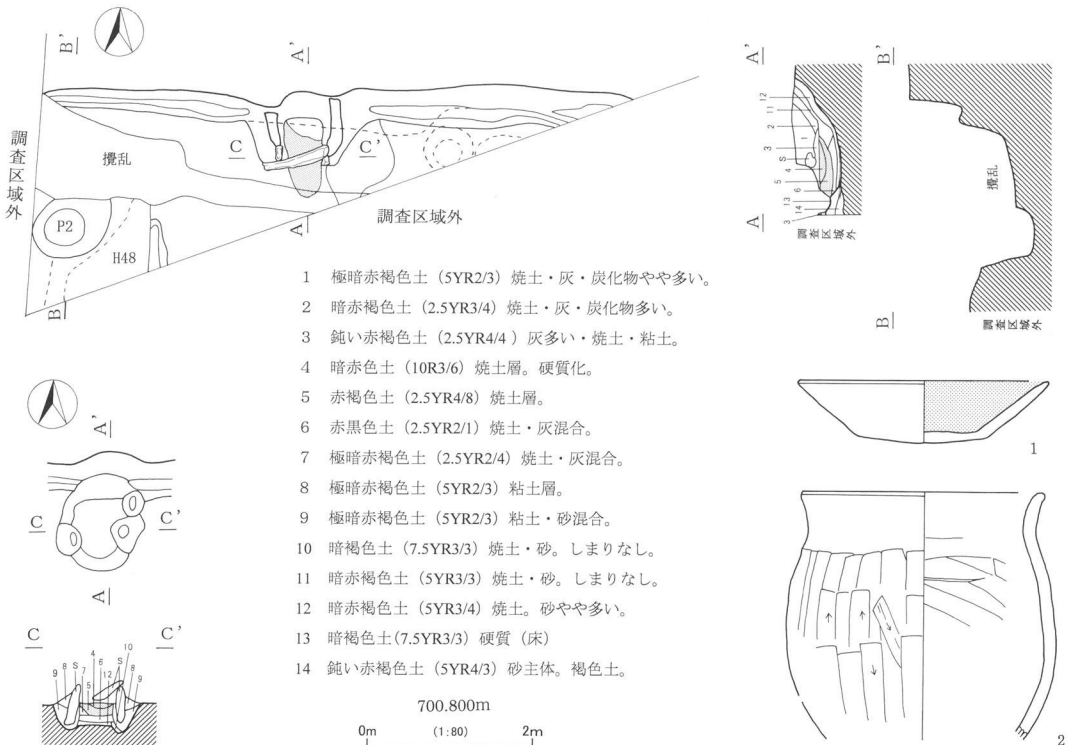
遺構は29-きグリッドに位置し、北側は調査区域外となる。平面形態は調査状況から隅丸の方形又は長方形と考えられる。調査規模は東西3.6m、南北1.8m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。床面はやや硬質である。壁際の溝及びピットは確認できなかった。掘方は南西コーナー付近が深く掘り込まれた状況で黒褐色土が埋め込まれていた。北側道路部分で出土した遺物から平安時代としたい。



第18図 H39号住居址実測図

H46号住居址

遺構は36-セグリッドに位置し、H48に切られる。南側の大半は区画整理調査分となり、西側は調査区域外となる。平面形は方形で、調査規模は東西7.6m、南北の最大は2.0m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。全体では8mを越える大型の住居址である。(区画整理調査分を含めた規模は東西7.6m、南北8.6mを測る)床面は硬く壁際に10cm程度の溝が掘り込まれているが一部は攪乱に破壊されている。カマドは北壁の中央に構築され、両袖及び焚き口部から煙道への立ち上がりが残存していた。袖は粘土を使用し、北壁から70cm程度内側に延びている。先端には石材が埋め込まれ、焚き口部の天井石が認められた。火床には焚き口前部まで広がった焼土が堆積し、煙道部へは40°の角度で内湾気味に検出面へ立ち上がる。住居の掘方は中央部は貼り床程度と浅く、周辺部は貼り床直下に厚さ20cmの砂と褐色土の混合土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・甕が出土した。丸底気味の底部から大きく開く坏の特徴から古墳時代後期、6世紀としたい。



第19図 H46号住居址遺構・遺物実測図



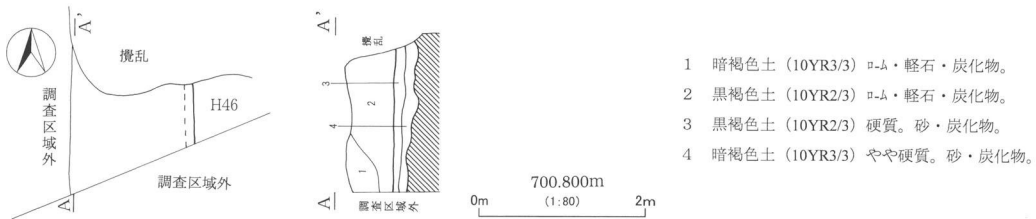
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	15.6	[8.2]	3.8	外面ナデ 底部ヘラケズリ 内面黒色処理	60	外面7.5YR5/3鈍い褐色 内面黒色
2	土師器	甕	15.2	—	(15.1)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	内外面7.5YR6/6橙色

第8表 H46号住居址遺物観察表

### H48号住居址

遺構は37-セグリッドに位置する。H46を切り、北側は攪乱に破壊され、西側は調査区域外となる。平面形は貼り床の残存状況から隅丸の方形又は長方形と考えられる。調査規模は東西1.5m、南北3.0m、深さは床面の範囲のみ確認できたが西側断面から50cm内外と考えられる。床面は硬く貼り床されている。床面上でピット、カマド等は確認できなかった。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏が出土した。量は少なく破片が大半を占める。底部ヘラ調整された須恵器坏から奈良時代、8世紀としたい。

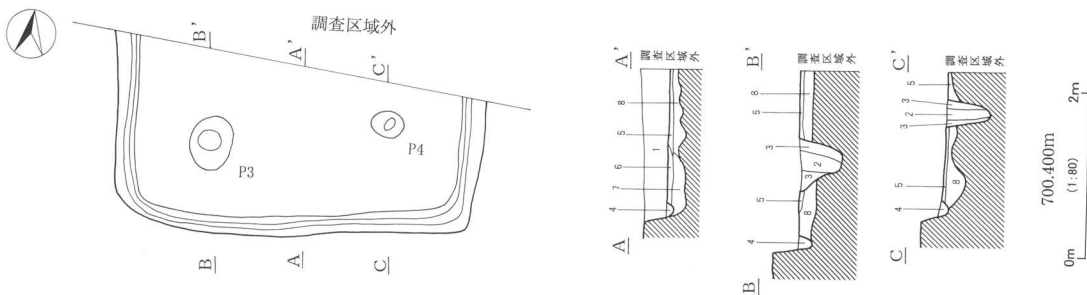


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ㊦・A・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) ㊦・A・軽石・炭化物。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質。砂・炭化物。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) やや硬質。砂・炭化物。

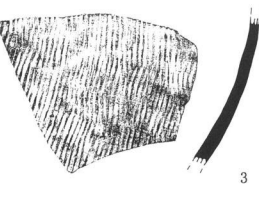
第20図 H48号住居址実測図

### H68号住居址

遺構は41-セグリッドに位置し、H69を切る。北側は区画整理調査分となる。調査規模は東西4.2m、南北2.2m、検出面から床面までの深さは32cmを測る。(区画整理分を含めた規模は東西4.2m、南北4.7mを測る。) 覆土は黒褐色土の単層である。床面は硬質で壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは支柱穴が2個確認でき、深さは55cmを測る。掘方は中央に比べやや周辺部が深く掘り込まれていた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・甕が出土した。遺物の特徴から8世紀後半、奈良時代としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ㊦・A・砂・軽石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石。しまりなし。
- 3 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。しまりなし。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂やや多い。しまりなし。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質 (床)
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物・硬質 (床)
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石。やや硬質。
- 8 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。暗褐色土。



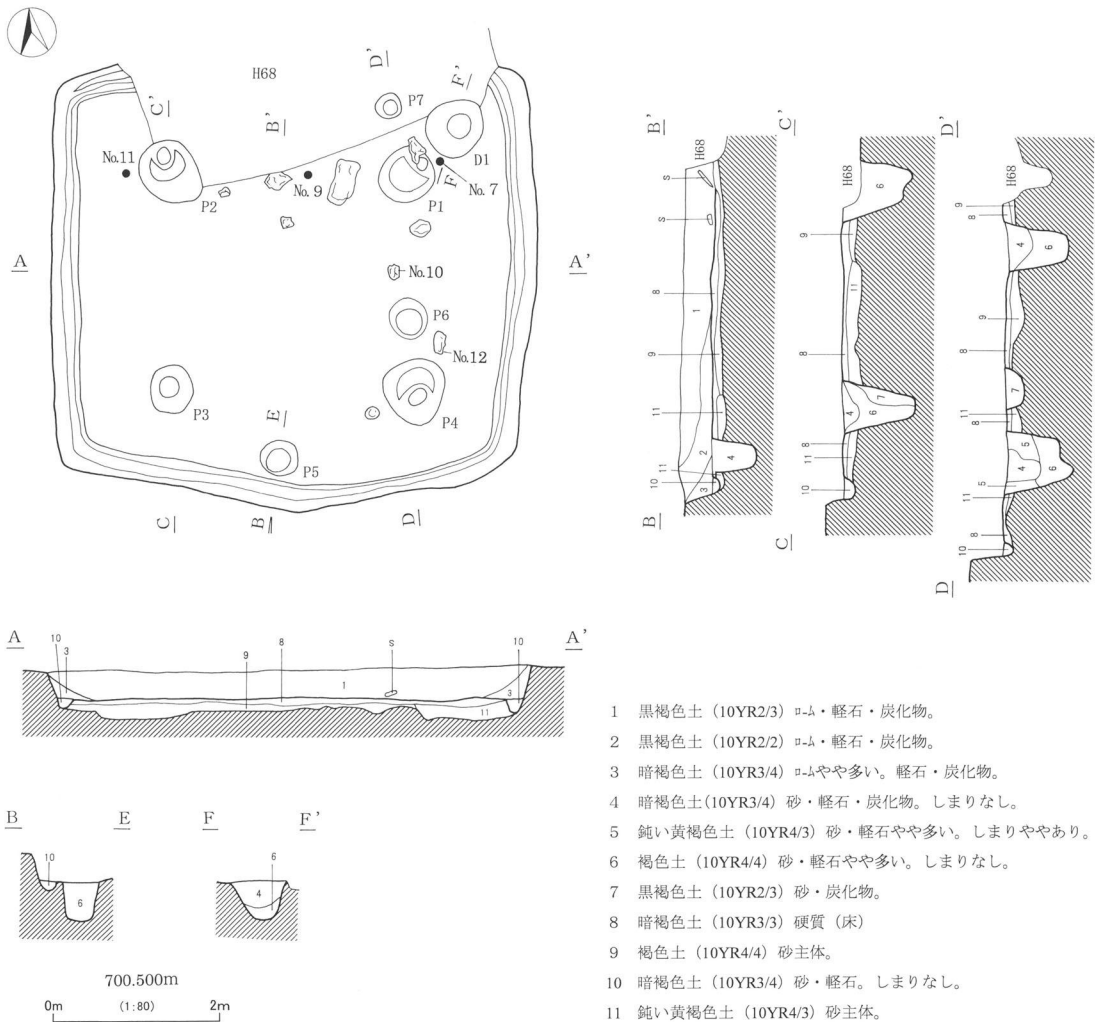
第21図 H68号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	坏	-	[8.6]	(2.0)	内外面口クロナデ 底部回転糸切り	底部周辺破片	内外面5Y8/1灰白色
2	須恵器	坏	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁破片	内外面5Y5/1灰色
3	須恵器	甕	-	-	-	外面叩き	胴部破片	内外面5Y5/1灰色

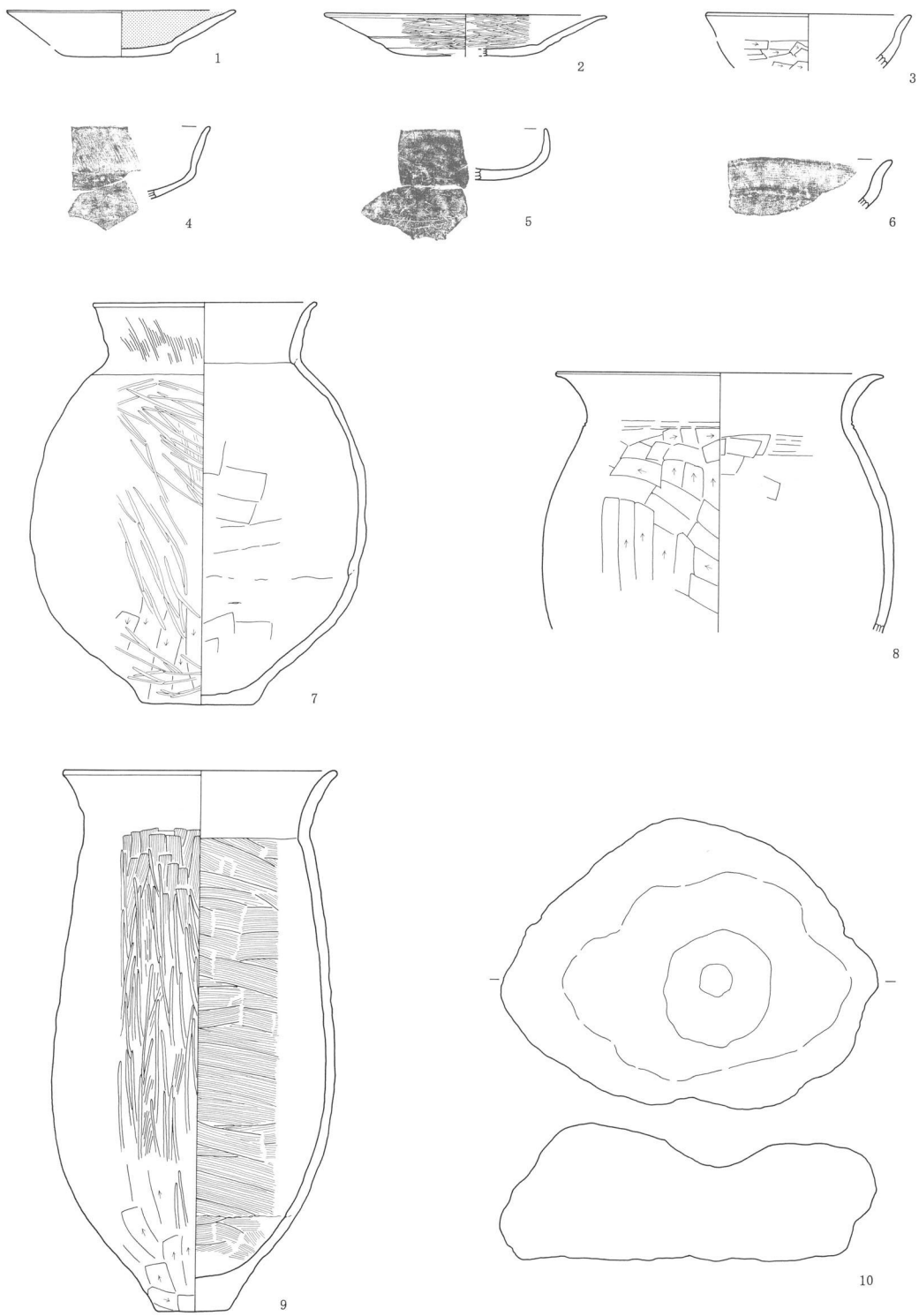
第9表 H68号住居址遺物観察表

H69号住居址

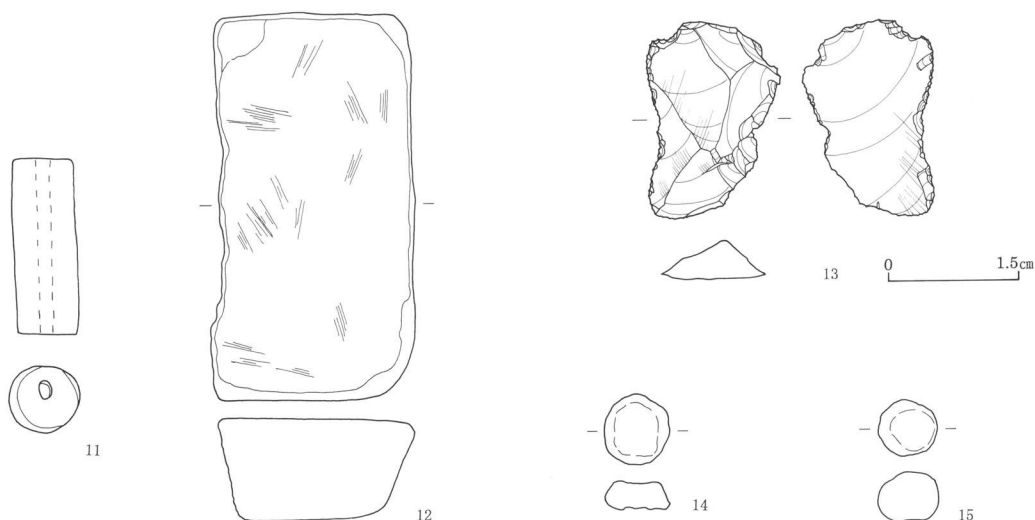
遺構は41-セグリッドに位置し、H68に切られる。規模は東西5.6m、南北5.0m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。平面形態は方形である。床面は貼り床され全体に硬質で、壁際に幅10cm程度の溝が巡る。ピットは7個確認できP1～4が主柱穴、P5が入口に関係すると思われる。北東コーナーには径70cm、深さ60cmの土坑が存在する。カマドは確認できなかったことからH68に破壊されたと考えられる。住居の掘方は5cm厚の貼り床直下に5～10cmの厚みで砂主体の褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・甕、凹石、台石、管玉、磨石が出土した。5世紀末とみられる土器もみられるが、土師器坏の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



第22図 H69号住居址実測図



第23図 H69号住居址遺物実測図



第24図 H69号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	16	丸底	3.2	口縁横ナデ・ミガキ 底部ヘラケズリ 内面黒色処理	40	外面7.5YR6/4鈍い橙色・黒色
2	土師器	坏	[19.6]	[11.0]	2.9	外面ミガキ 底部ヘラケズリ 内面ミガキ	30	内外面2.5YR5/6明赤褐色
3	土師器	坏	[14.2]	-	(3.8)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁破片	内外面5YR5/2鈍い赤褐色
4	土師器	坏	-	-	-	口縁斜めミガキ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	口縁~底部破片	内外面10YR7/3鈍い黄橙色
5	土師器	坏	-	-	-	口縁ミガキ 外面ヘラケズリ 内面ミガキ	口縁破片	内外面7.5YR6/6橙色
6	土師器	坏	-	-	-	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁破片	内外面5YR4/1褐色
7	土師器	甕	15.7	7.8	28	口縁横ナデ・ハケ目 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	90	外面7.5YR7/6橙色
8	土師器	甕	[23.0]	-	(18.1)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	25	外面5YR5/2灰褐色他
9	土師器	甕	19.1	5.1	37.6	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後縦ミガキ 内面柔痕残るヘラナデ	80	外面10R5/3赤褐色

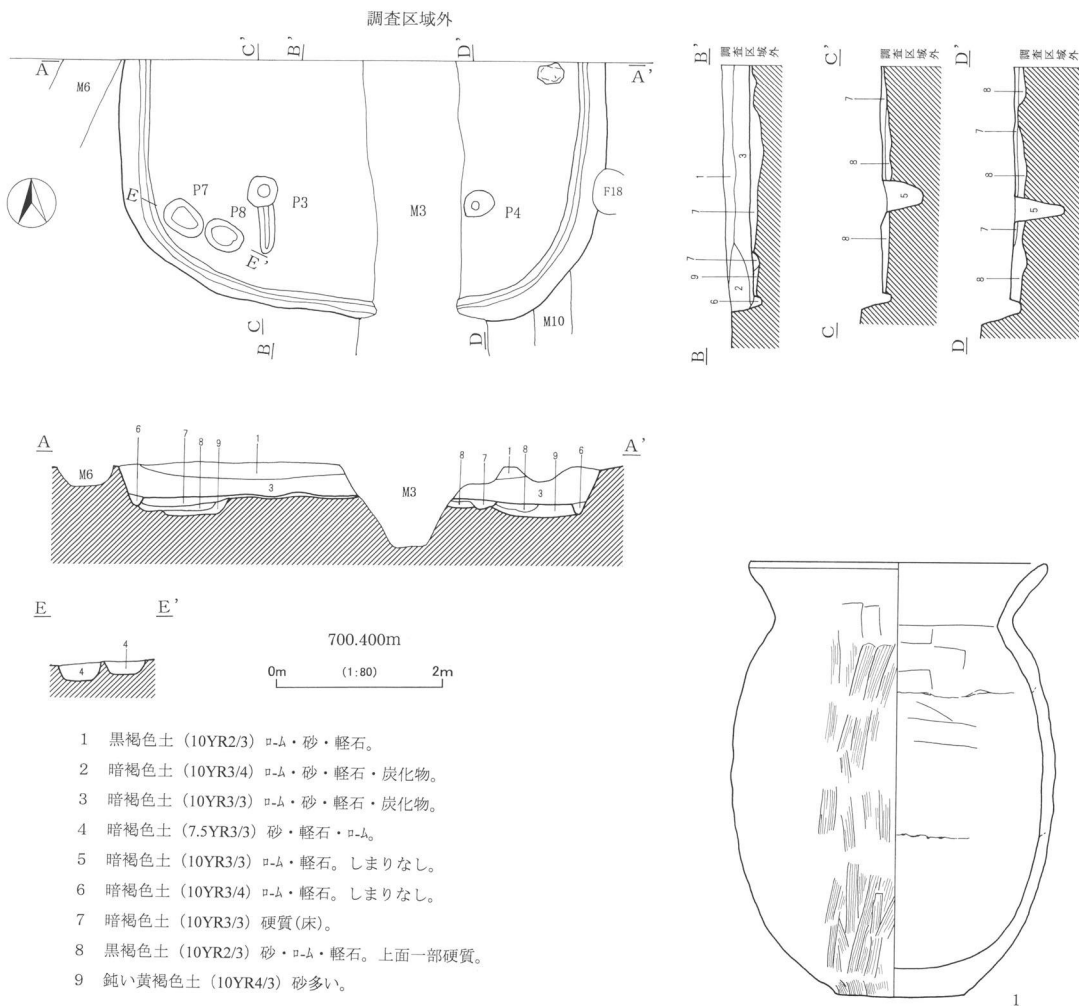
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
10	凹石	20.3	26.3	10.1	3880	凹径8.2 凹深3.2	13	スクレイパー	4.55	3.05	1.1	12.1	黒曜石製
11	管玉	1	1.05	2.7	5.22	孔径0.2	14	円盤状 石製品	4.3	4	1.9	39.11	上面窪み
12	台石	23.8	12.6	6.6	3970	表面擦痕	15	球状 軽石製品	3.5	3.7	3	18.56	擦らしき 平坦面あり

第10表 H69号住居址遺物観察表

### H70号住居址

遺構は47-セグリッドに位置し、M3・10、F18号掘立柱建物址ピットに切られ、北側は区画整理調査分となる。調査規模は東西5.6m、南北3.0m、検出面から床面までの深さは36cmを測る。(区画整理調査分を含めた規模は東西5.6m、南北5.2mを測る)平面形態は隅丸の方形である。床面は硬質で壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは主柱穴が2個、南西コーナーに用途不明のピット2個が存在した。P3から南壁に向かって幅15cm内外の溝が存在する。間仕切りに関する可能性が考えられる。掘方は中央が浅く、周囲を深く掘り下げた状態であった。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土したが小破片が大半で、形状の残るものは土師器の甕1点である。土師器甕の形状から古墳時代後期、6世紀としたい。



第25図 H70号住居址遺構・遺物実測図

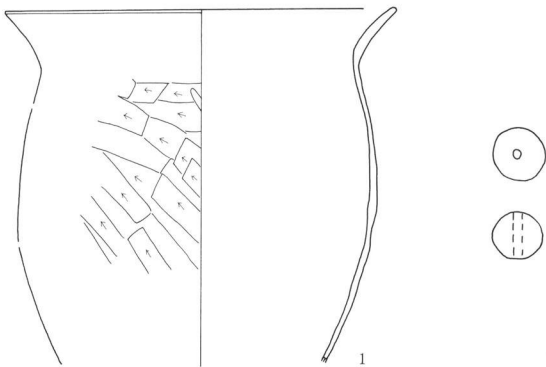
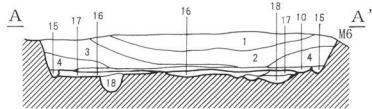
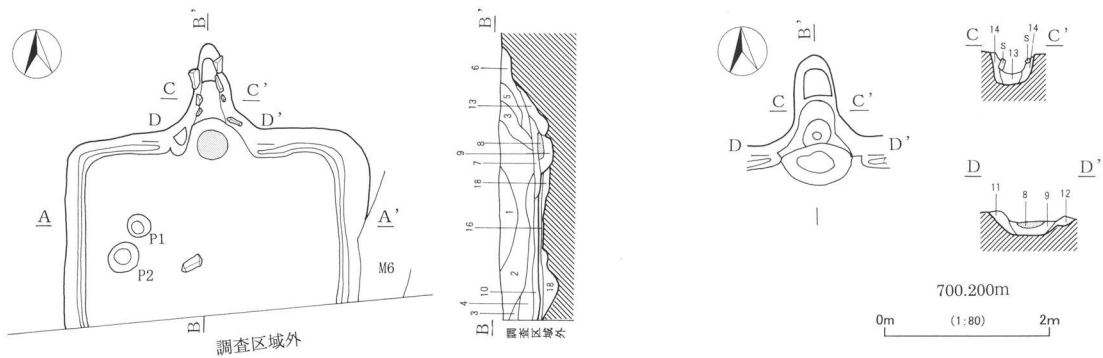
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	18.5	7.8	26.7	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	95	外面5YR4/2灰褐色

第11表 H70号住居址遺物観察表

### H71号住居址

遺構は49-ソグリッドに位置し、H73を切る。南側の一部は区画整理調査分となる。平面形は東西方向に長い隅丸長方形である。調査規模は東西3.3m、南北2.3mで、検出面から床面までの深さは36cmを測る。(区画整理調査分を含めた規模は東西3.3m、南北3.0mを測る) 覆土はすり鉢状で自然堆積と考えられる。床面は硬質で、床面直上に3cm内外の厚みで炭化層が存在する。壁際には幅10cm内外の溝が巡る。ピットは2個確認できたが支柱穴であるかは不明である。カマドは北壁中央に構築され袖は完全に破壊され消滅している。火床と煙道部が残存していた。火床には径35cm、厚さ7cmの焼土が堆積し、煙道部は30°の傾斜で立ち上がり、途中40cmの平坦部をもち検出面に立ち上がる。掘方は部分的には深く掘り込まれているが全体的には10cm程の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土した。本住居址は土師器甕の口縁の形状が「コ」の字に変化する前段階であることから奈良時代、8世紀としたい。



- 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 礫・軽石。
- 2 暗褐色土 (7.5YR3/3) 礫・軽石。
- 3 褐色土 (7.5YR4/3) 礫やや多い。軽石。
- 4 褐色土 (7.5YR4/4) 礫やや多い。軽石。
- 5 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土層。灰・焼土。
- 6 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・粘土・灰・焼土。
- 7 灰褐色土 (5YR4/2) 灰・粘土多い。焼土少量。
- 8 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。
- 9 暗赤褐色土 (5YR3/2) 砂・礫・焼土少量。
- 10 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物・砂・礫。
- 11 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土層。焼土。
- 12 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土・炭化物・砂。
- 13 暗赤褐色土 (5YR3/3) 焼土・粘土・炭化物。
- 14 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石・礫。ややしまりあり。
- 15 暗褐色土 (10YR3/3) しまりなし。
- 16 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質 (床)
- 17 黒褐色土 (10YR2/3) やや硬質。
- 18 暗褐色土 (10YR3/4) 砂やや多い。

第26図 H71号住居址遺構・遺物実測図

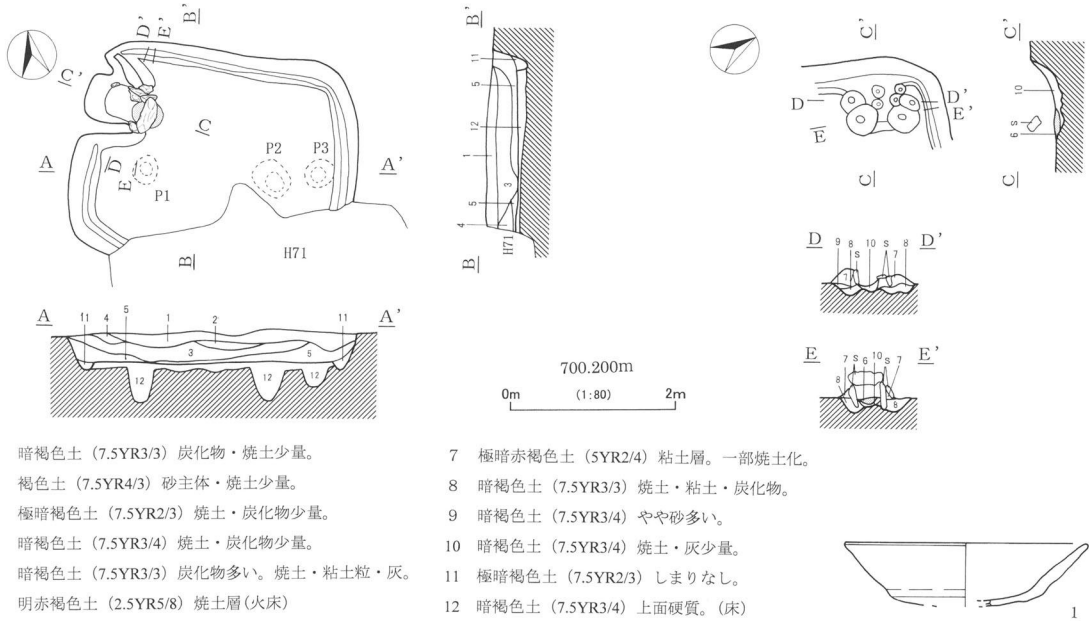
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	24.1	—	(21.8)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	60	外面2.5YR5/4鈍い赤褐色
番号	器種	径cm	厚さcm	孔径cm	重量g	備考		
2	土玉	0.8	0.7	0.18	0.52			

第12表 H71号住居址遺物観察表

### H73号住居址

遺構は49-ソグリッドに位置し、H71に切られる。平面形は残存状況から東西方向に長い隅丸方形と考えられる。規模は東西3.2m、南北2.5m、検出面から床面までの深さは40cmを測る小型の住居址である。床面は貼り床され、壁際に幅15cm程度の溝が巡る。ピットは床面上では確認できなかったが、掘方から3個のピットが認められた。小型であることからP1及びP2又はP3のいずれかが支柱穴である可能性が考えられる。カマドは珍しく西壁に構築され、袖及び火床が残存していた。袖は粘土で構築され西壁から住居内に70cm延びていた。両袖先端の焼き口部及び北袖の内壁部に石材が埋め込まれ、焼き口部の天井には長方形の石材が架けられていた。火床には径35cm、厚さ6cmの焼土が堆積しており、火床から壁方向に30cmの位置で50°の傾斜をもって検出面に立ち上がる。住居の掘方は8cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕が出土したが出土量は少ない。丸底気味の底部から段を持った後大きく開き口縁にいたる坏の形状及び切り合い関係から6世紀、古墳時代後期としたい。

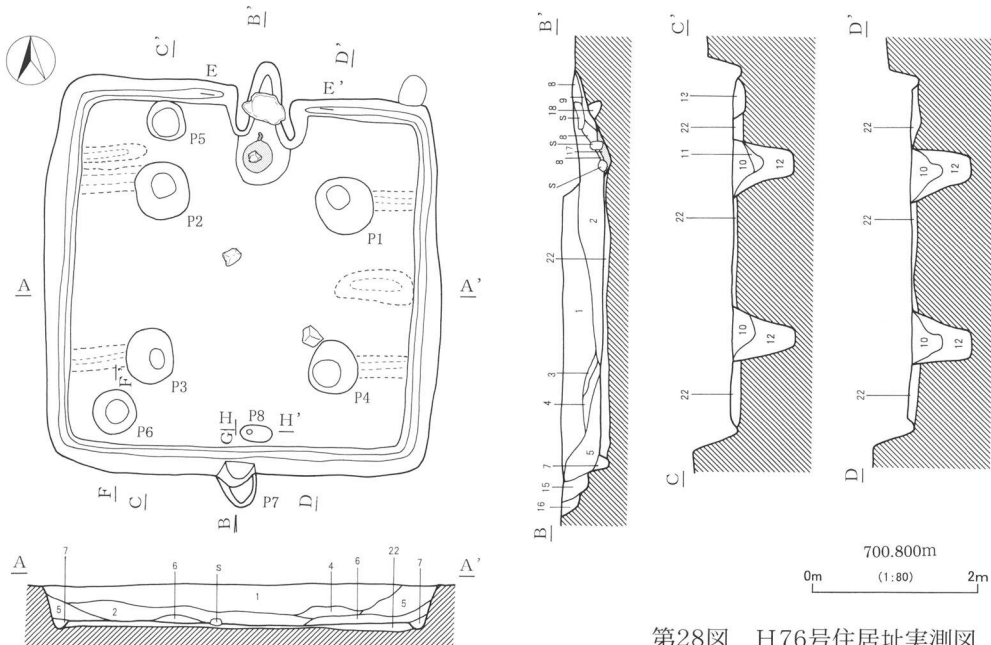


第27図 H73号住居址遺構・遺物実測図

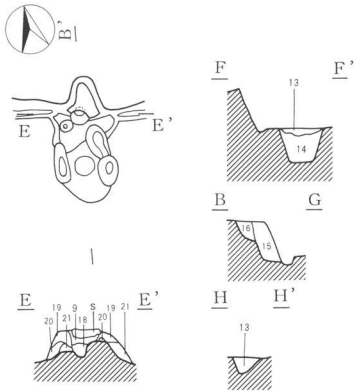
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	15.1	丸底	(3.8)	口縁横ナデ 外面体部から底部ヘラケズリ 内面摩耗	70	外面7.5YR7/3鈍い橙色

第13表 H73号住居址遺物観察表

H76号住居址



第28図 H76号住居址実測図

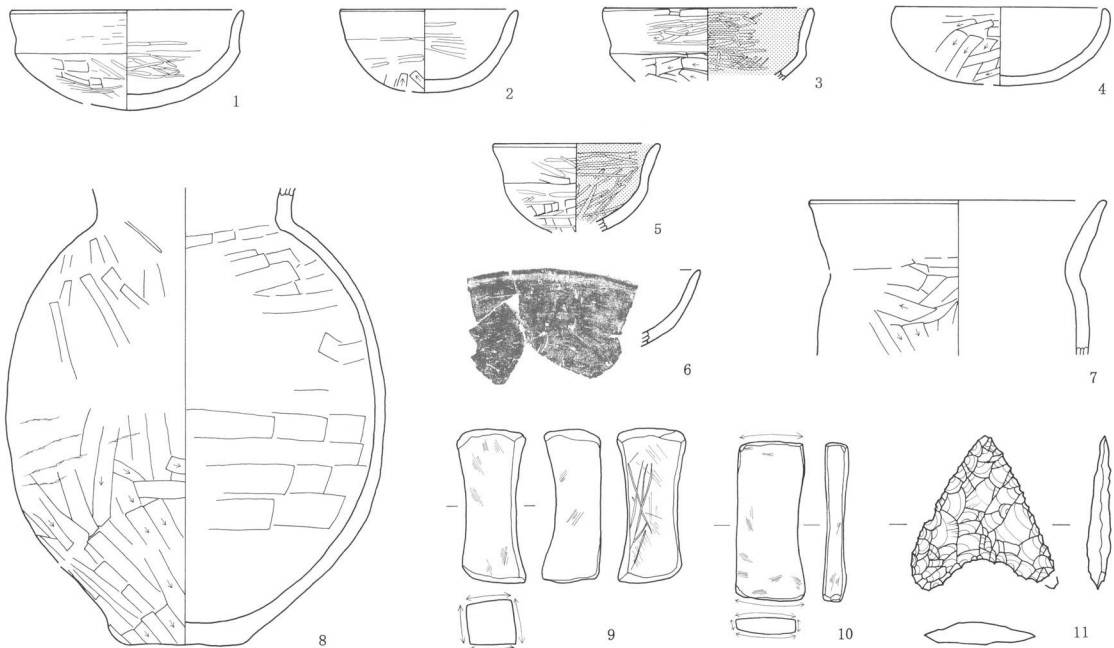


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロームやや多い。
- 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームやや多い。  
焼土・粘土。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) ローム・軽石少量。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) ロームやや多い。  
砂・軽石。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) ローム・軽石少量。
- 6 黒褐色土 (5YR2/2) 粘土・焼土・灰少量。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。しまりなし。
- 8 赤灰色土 (2.5YR4/1) 粘土層。
- 9 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土・灰・粘土。
- 10 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 炭化物・砂。
- 11 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体。しまりなし。
- 12 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。しまりなし。
- 13 暗赤褐色土 (5YR3/3) 焼土・灰。
- 14 褐色土 (7.5YR4/3) 砂多い。炭化物。
- 15 黒褐色土 (10YR2/3) ローム・軽石。
- 16 暗褐色土 (10YR3/3) ローム・軽石。
- 17 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土層 (火床)
- 18 赤黒色土 (2.5YR2/1) 粘土層。一部焼土化。
- 19 黒褐色土 (5YR3/1) 粘土層。
- 20 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土層。
- 21 褐色土 (7.5YR4/4) ローム主体。
- 22 暗褐色土 (10YR3/3) 硬質。(床)

第29図 H76号住居址カマド実測図

遺構は35-すグリッドに位置し、北東コーナー付近をD14に切られる。平面形は方形である。規模は東西4.3m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。覆土はすり鉢状に堆積した自然堆積である。床面は貼り床され硬質で、壁際に幅10cm程度の溝が巡る。ピットは8個確認でき、P1~4が主柱穴である。床面で確認できなかったが掘方時に主柱穴から壁に向かって延びる溝が存在した。間仕切りに関する溝の可能性が伺える。カマドは北壁の中央に構築されている。両袖と火床から煙道に延びる立ち上がり及び天井石が一部残存していた。両袖は北壁から内側に50cm程度延び天井石が1枚架けられていた。火床は残存した袖の更に内側に存在し、火床部分に支脚石が埋め込まれていた。火床には径40cm、厚さ8cmの焼土が堆積し、火床から煙道へは20°の緩やかな傾斜で検出面へ立ち上がる。掘方は5~10cm厚の貼り床のみ認められた。

遺物は土師器の坏・甕・砥石が出土した。丸底及び模倣坏の形状から6世紀前半、古墳時代後期としたい。



第30図 H76号住居址遺物実測図



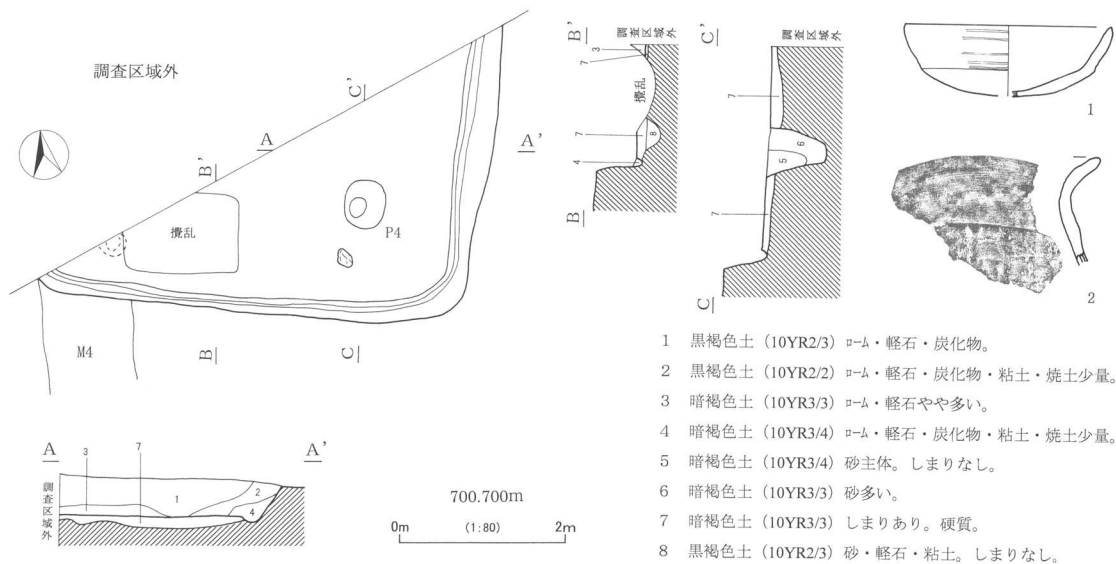
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	14.4	丸底	6.1	口縁横ナデ 体部～底部ヘラケズリ・ミガキ 内面ミガキ	50	内外面2.5YR4/6赤褐色
2	土師器	坏	11.2	丸底	5.1	口縁横ナデ・ミガキ 体部～底部ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	50	内外面2.5YR6/8橙色
3	土師器	坏	[12.6]	丸底	(4.5)	口縁横ナデ・ミガキ 体部～底部ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ・黒色処理	口縁破片	外面10YR6/4鈍い黄橙色
4	土師器	坏	[13.0]	丸底	(4.8)	口縁横ナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～底部破片	内外面7.5YR4/2灰褐色
5	土師器	坏	[10.4]	丸底	(5.3)	口縁ミガキ 体部～底部ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ・黒色処理	口縁～底部破片	外面2.5YR6/6橙色
6	土師器	坏	—	丸底	(4.7)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ後ミガキ	口縁～底部破片	内外面7.5YR7/6橙色
7	土師器	甕	[18.4]	—	(9.5)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁85	内外面5YR6/6橙色
8	土師器	甕	—	7.4	(28)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	60	外面2.5YR6/6橙色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
9	砥石	9.5	4.2	3.5	187.24	紙面4
11	石鏝	2.35	2.2	0.354	1.27	黒曜石製

第14表 H76号住居址遺物観察表

### H78号住居址

遺構は33-レグリッドに位置し、H80を切り、北側は区画整理調査分となる。調査規模は東西5.0m、南北の最大で3.2m、検出面から床面までの深さは48cmを測る。(区画整理調査分を含めた規模は東西6.0m、南北6.2mを測る。)床面は硬質で壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは主柱穴が1個確認できた。掘方は10～15cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・甕が出土した。土師器模倣坏の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



第31図 H78号住居址遺構・遺物実測図

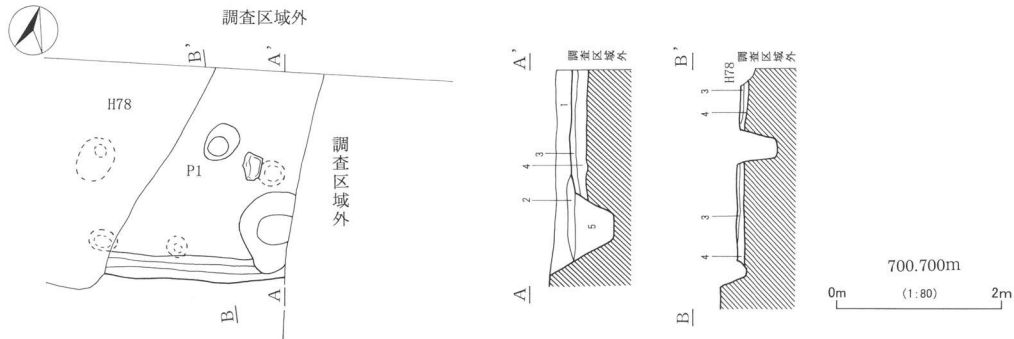
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[12.6]	丸底	4.3	口縁横ナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	内外面10YR7/3鈍い黄橙色
2	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁破片	内外面10YR7/3鈍い黄橙色

第15表 H78号住居址遺物観察表

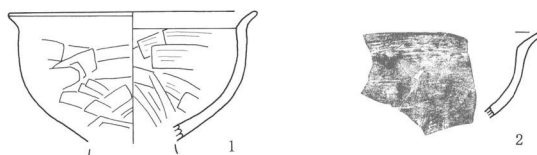
### H80号住居址

遺構は32-レグリッドに位置し、H78に切られる。調査規模は東西2.2m、南北2.5m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。床面は硬質で壁際に幅15cm内外の溝が巡る。ピットは深さ50cmの主柱穴らしきピットが1個確認できた。掘方は10cm内外の厚みで砂主体の褐色土が埋め込まれてい

た。遺物は土師器の甕・坏が出土した。本調査地域では小破片のみであるが、古墳時代後期6世紀と考えられるH78に切られ、土師器坏の口縁端部が僅かに反る形状から5世紀後半、古墳時代中期としたい。



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) やや硬質 (床)
- 4 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) しまりなし。



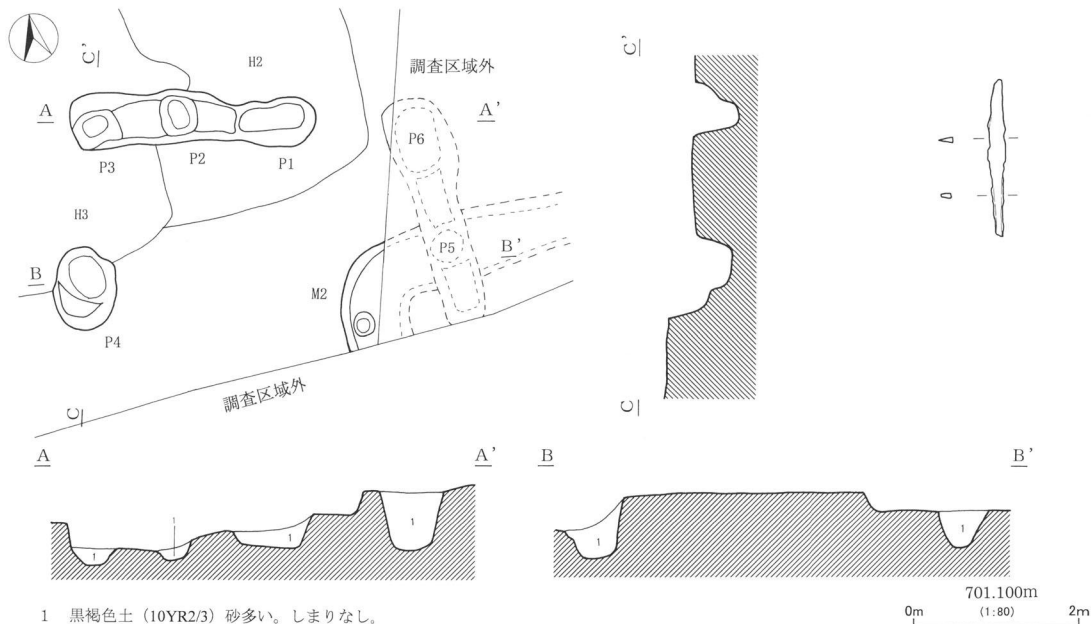
第32図 H80号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏or高坏	[15.4]	-	(7.9)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	内外面7.5YR5/3鈍い褐色他
2	土師器	坏	-	-	-	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面放射状ミガキ	口縁破片	内外面2.5YR6/6橙色

第16表 H80号住居址遺物観察表

## 第2節 掘立柱建物址 (F)

### F 4号掘立柱建物址



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂多い。しまりなし。

第33図 M2号遺構、F4号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

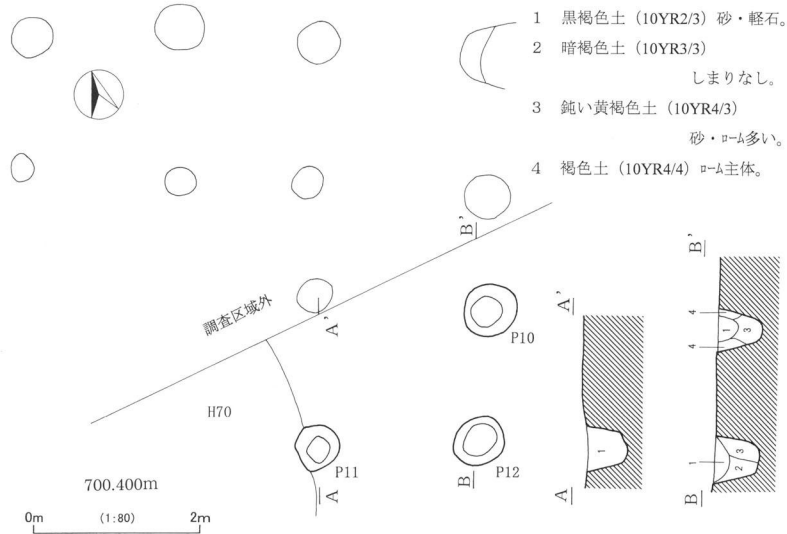
遺構は30-こグリッドに位置し、H2・3、M2を切る。北側及び東側のピットは溝持ちで、3本のピットの存在が伺われる。南側の調査区域外に一部が入り込むため全体の規模は不明である。古墳時代後期の住居址を切ることから、これ以降の遺構と考えられる。

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	刀子	9.6	1.1	0.3	6.9	

第17表 F4号掘立柱建物址遺物観察表

F18号掘立柱建物址

遺構は46-せグリッドに位置し、H70・M3と切り合い関係にある。中世と思われるM3に切られ、古墳時代であるH70との新旧は確認できなかった。このことから中世以前の遺構であると思われる。本調査区域では3個のピットが存在するが、北側で行った調査を含めると3×3間である可能性が考えられ、規模は東西6.2m、南北5.4mを測る。

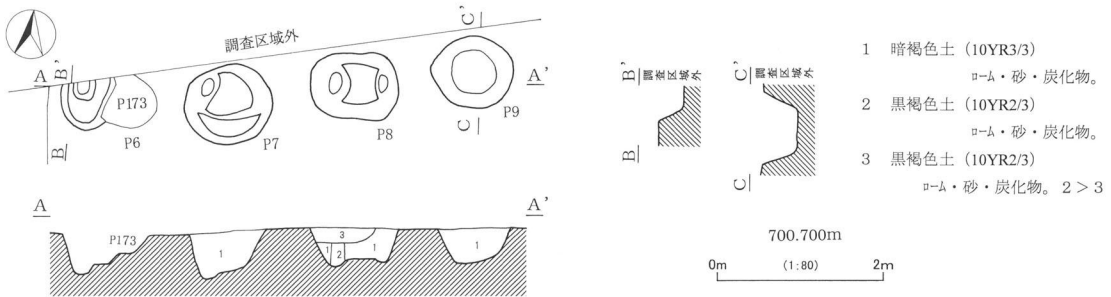


- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) しまりなし。
- 3 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂・ロ-ム多い。
- 4 褐色土 (10YR4/4) ロ-ム主体。

第34図 F18号掘立柱建物址実測図

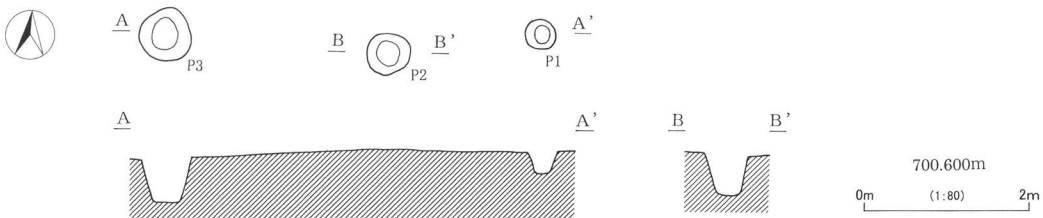
F20号掘立柱建物址

遺構は37-すグリッドに位置する。本調査区域内では4個のピットが存在するが、北側で行った調査を含めると2×3間と考えられ、規模は東西5.5m、南北4.6mを測る。



第35図 F20号掘立柱建物址実測図

F23号掘立柱建物址



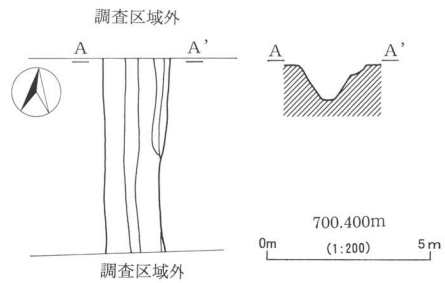
第36図 F23号掘立柱建物址実測図

遺構は44-セグリッドに位置し、南側はH31・32と切り合い関係にある。新旧は確認できなかった。ピットは3個認められ、東西は2間と考えられる。時期は不明である。

### 第3節 溝状遺構 (M)

#### M3号溝状遺構

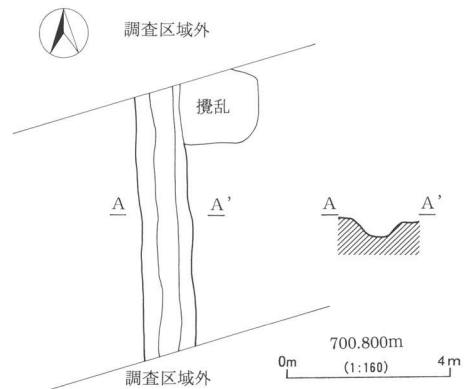
遺構は47-セグリッドに位置し、H70・F18を切る。調査区域内での規模は長さ6.0m、確認面での最大幅2.0m、底最大幅50cm、検出面からの深さは1.2mを測る。周辺の調査状況から南北方向に長く延びると考えられ、本遺跡内では最大の溝状遺構である。本遺構の延長線上である北側では中世の土鍋片が出土していることから、中世の遺構としたい。



第37図 M3号溝状遺構実測図

#### M4号溝状遺構

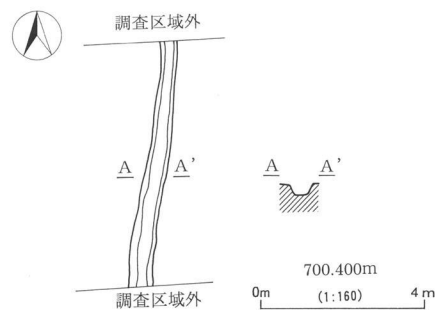
遺構は34-すグリッドに位置する。調査区内での規模は長さ8.0m、確認面での最大幅1.5m、底最大幅70cm、確認面からの深さは50cmを測る。周辺の調査状況から時期は、中世と考えられる溝を切ることから中世以降の溝状遺構としたい。



第38図 M4号溝状遺構実測図

#### M5号溝状遺構

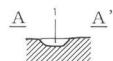
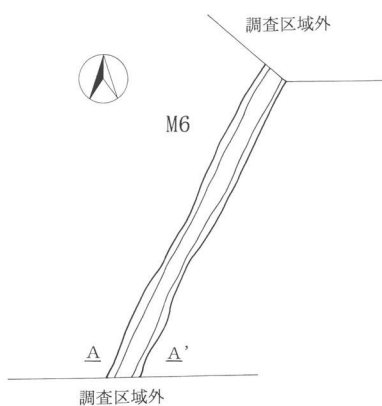
遺構は45-セグリッドに位置し、H31・32を切る。調査区域内での規模は長さ6.0m、確認面での最大幅64cm、底最大幅40cm、確認面からの深さは35cmを測る。周辺の調査状況から南北方向に長い溝状の遺構である。周辺の調査状況から中世以降の溝に切られ、古墳時代の住居址を切る事から古墳時代から中世の遺構と考えられる。



第39図 M5号溝状遺構実測図

#### M6号溝状遺構

遺構は48-セグリッドに位置し、H71の南東コーナー付近を切る。調査区域内での規模は長さ8.4m、確認面での最大幅80cm、底最大幅40cm、確認面からの深さは20cmを測る。北東から南西方向に走る溝状の遺構である。



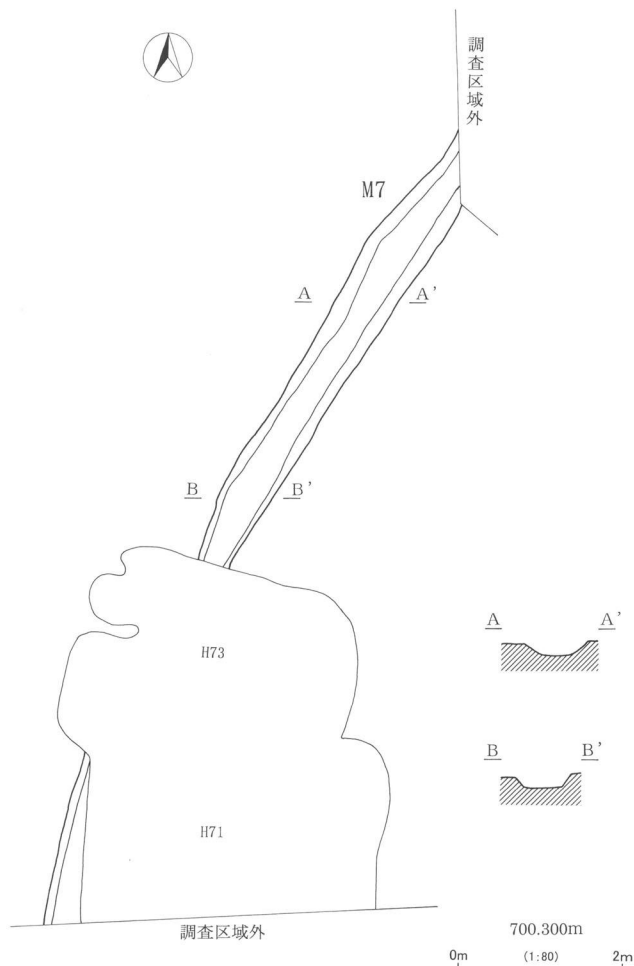
1 黒褐色土 (10YR2/3)  
 □-△粒・軽石・炭化物。

700.400m  
 0m (1:160) 4m

第40図 M6号溝状遺構実測図

M7号溝状遺構

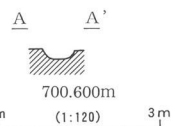
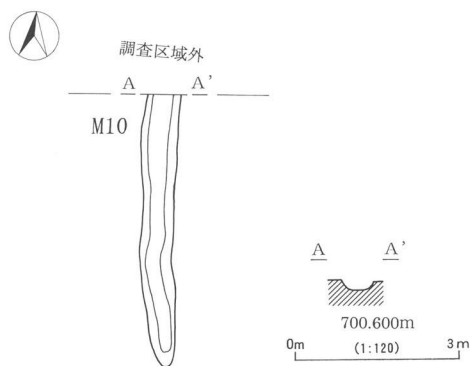
遺構は49-すグリッドに位置し、H71・73を切る。調査区内での規模は長さ10.4m、確認面での最大幅80cm、底最大幅50cm、確認面からの深さは20cmを測る。北東から南西方向に走る溝状の遺構である。



第41図 M7号溝状遺構実測図

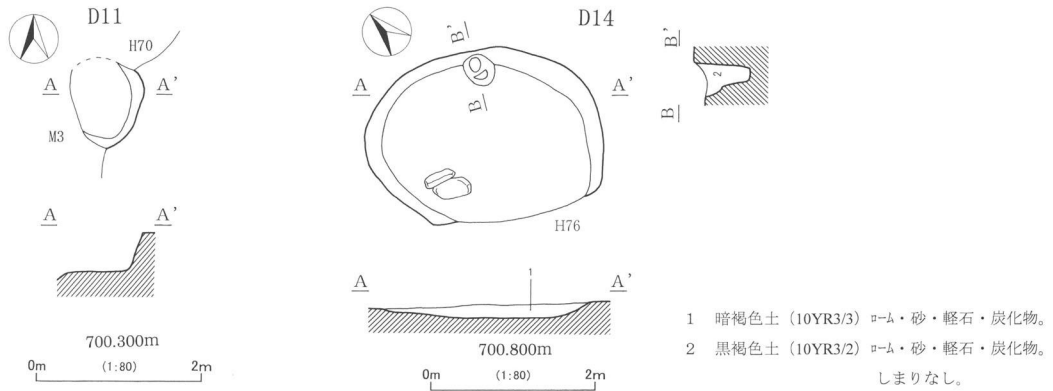
M10号溝状遺構

遺構は46-せグリッドに位置する。調査区内での規模は長さ5.1m、確認面での最大幅66cm、底最大幅42cm、確認面からの深さは18cmを測る。M3の東を平行して南北方向に走る小規模の溝状遺構である。



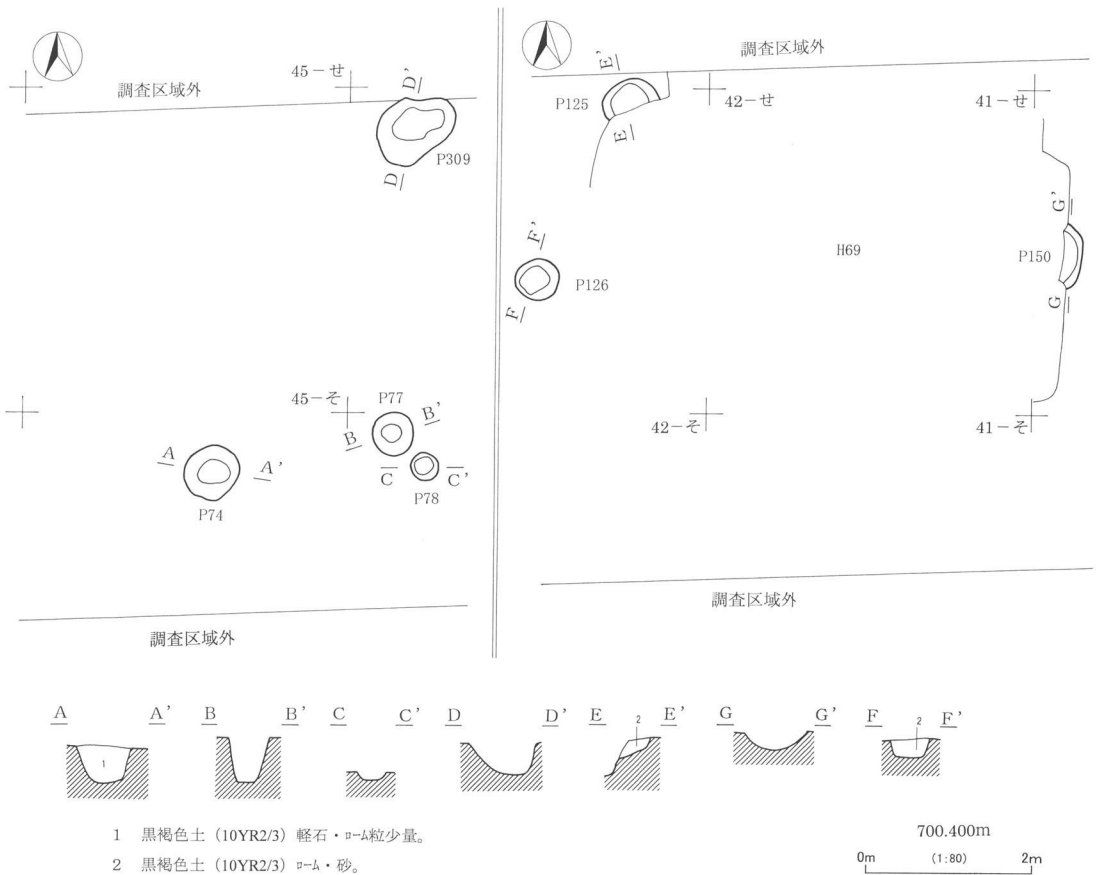
第42図 M10号溝状遺構実測図

第4節 土坑 (D)

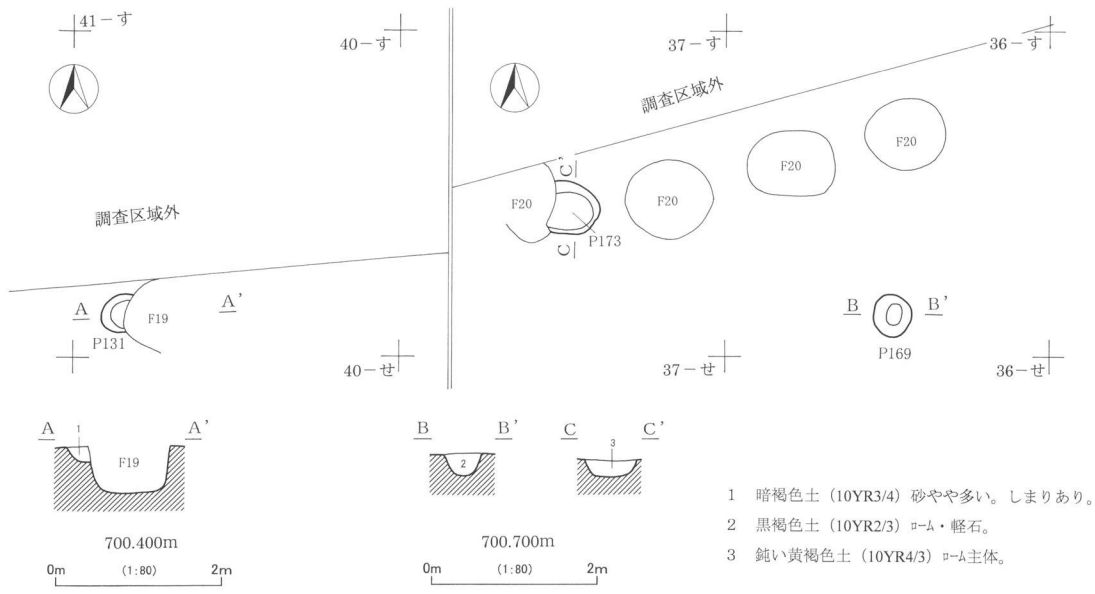


第43図 D11・14号土坑実測図

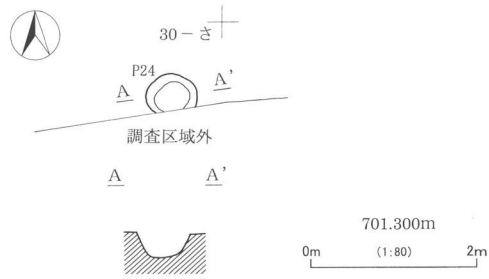
第5節 ピット (P)



第44図 ピット実測図 (1)



第45図 ピット実測図 (2)



第46図 ピット実測図 (3)







西八日町遺跡Ⅴ調査区東側周辺全景（北東から）



西八日町遺跡Ⅴ調査区中央周辺全景（南から）



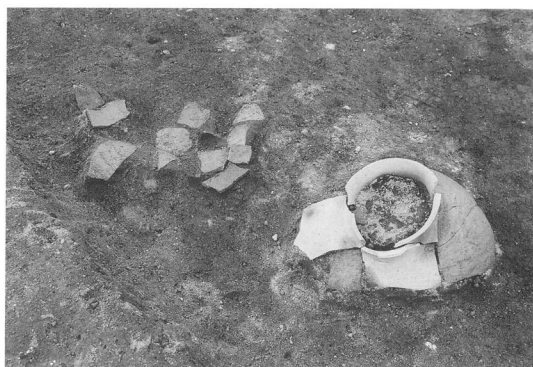
西八日町遺跡V調査区西側周辺全景（北東から）



西八日町遺跡V調査区西側周辺全景（南東から）



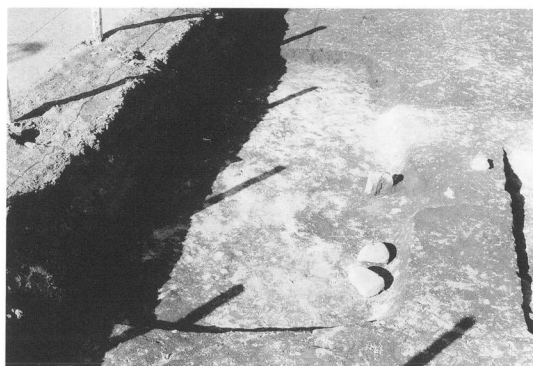
H 2 号住居址全景（南から）



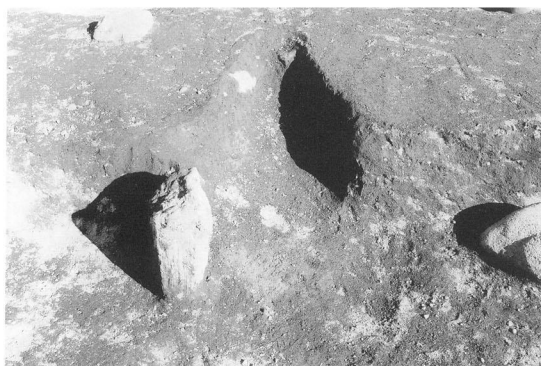
H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址カマド（南から）



H 3 号住居址全景（南から）



H 3 号住居址カマド（西から）



H 3 号住居址カマド掘方（西から）



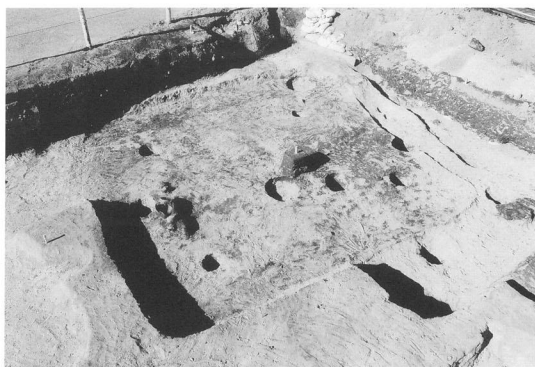
H 3 号住居址掘方全景（南から）



H 7 号住居址全景（北から）



H7号住居址掘方全景（北西から）



H17号住居址全景（南東から）



H17号住居址遺物出土状況



H18号住居址全景（東から）



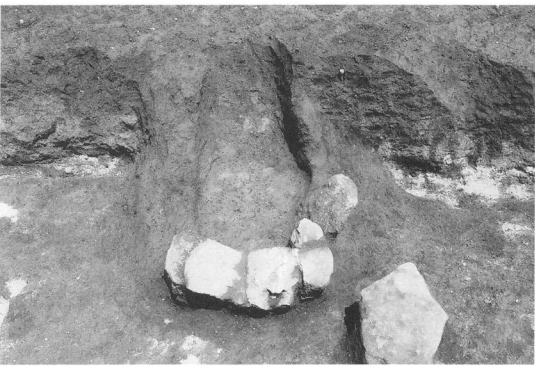
H20号住居址全景（北から）



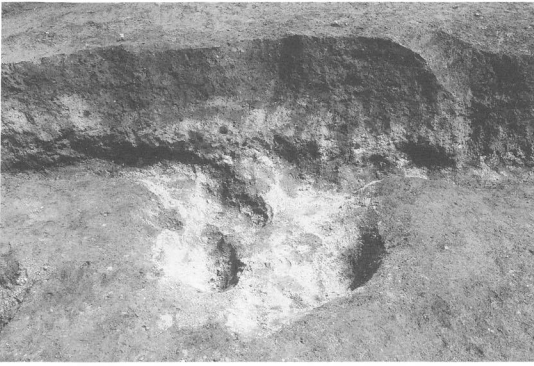
H22号住居址全景（北東から）



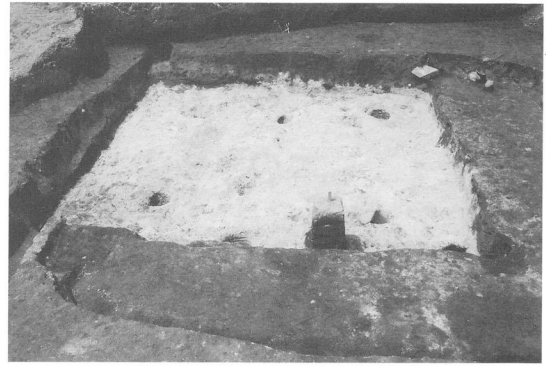
H31号住居址全景（南から）



H31号住居址カマド（南から）



H31号住居址カマド掘方（南から）



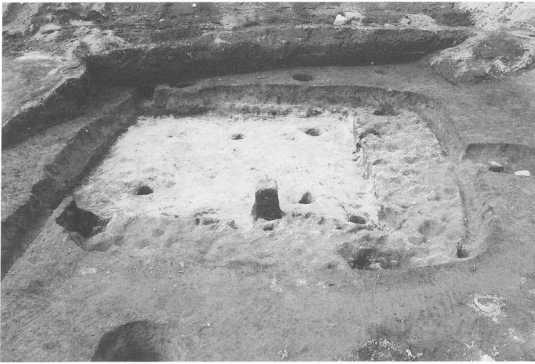
H31号住居址掘方全景（南から）



H32号住居址全景（南から）



H32号住居址遺物出土状況（南から）



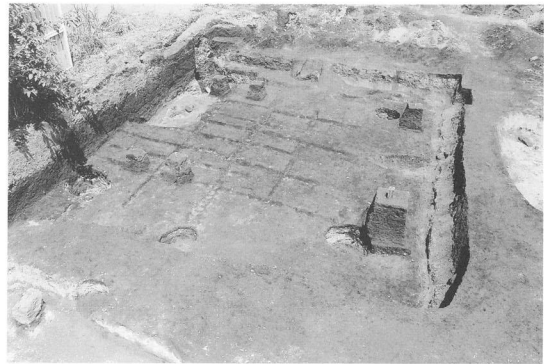
H32号住居址掘方全景（南から）



H39号住居址全景（東から）



H39号住居址掘方全景（東から）



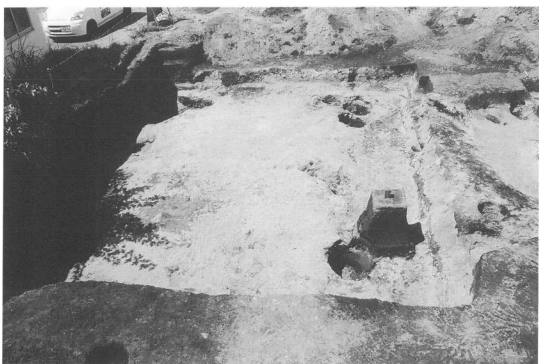
H46号住居址全景（南から）



H46号住居址カマド（南から）



H46号住居址カマド掘方（南から）



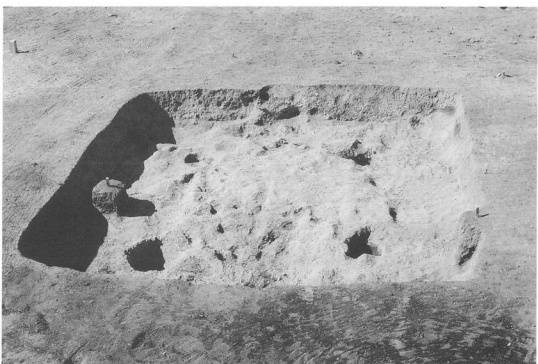
H46号住居址掘方全景（南から）



H48号住居址全景（南東から）



H68号住居址全景（南から）



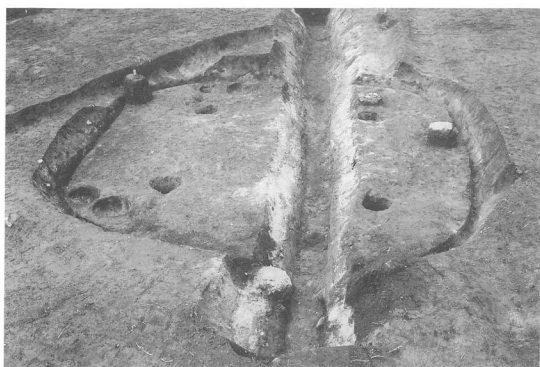
H68号住居址掘方全景（南から）



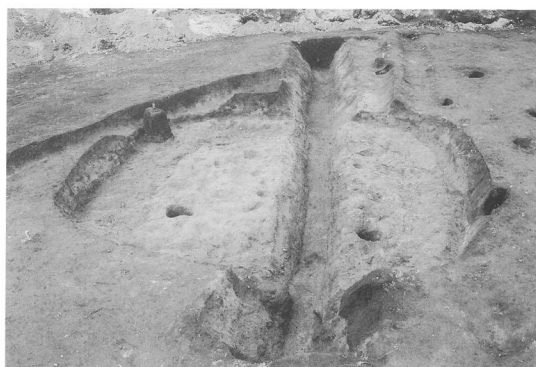
H69号住居址全景（北から）



H69号住居址掘方全景（南から）



H70号住居址全景（南から）



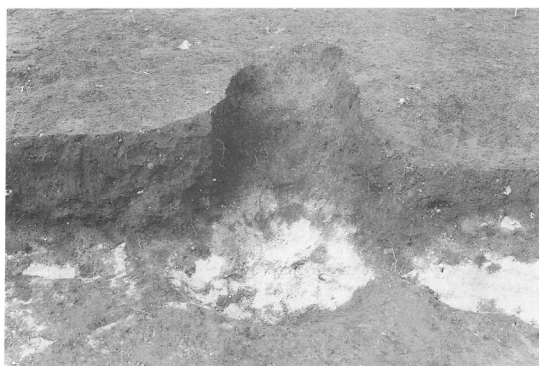
H70号住居址掘方全景（南から）



H71号住居址全景（南から）



H71号住居址カマド（南から）



H71号住居址カマド掘方（南から）



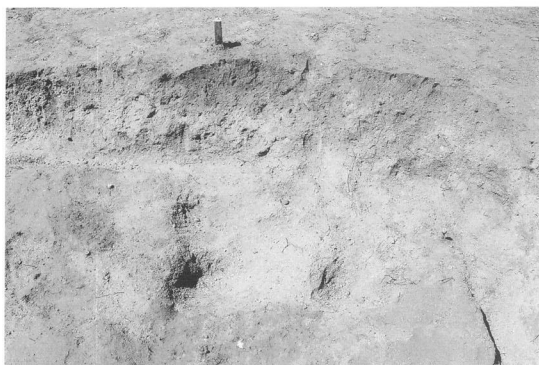
H71号住居址掘方全景（南から）



H73号住居址全景（東から）



H73号住居址カマド（北から）



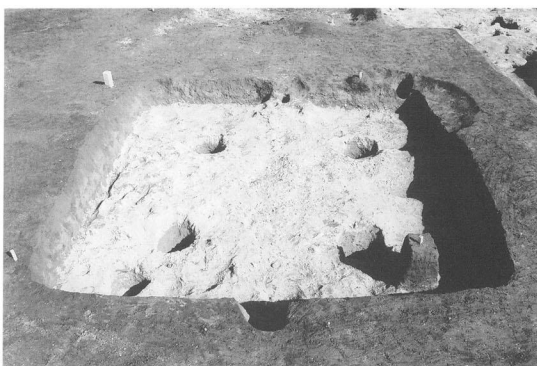
H73号住居址カマド掘方（東から）



H76号住居址全景（南から）



H76号住居址カマド（南から）



H76号住居址掘方全景（南から）



H78号住居址全景（東から）



H78号住居址掘方全景（東から）



H80号住居址全景（南西から）



H80号住居址掘方全景（南西から）





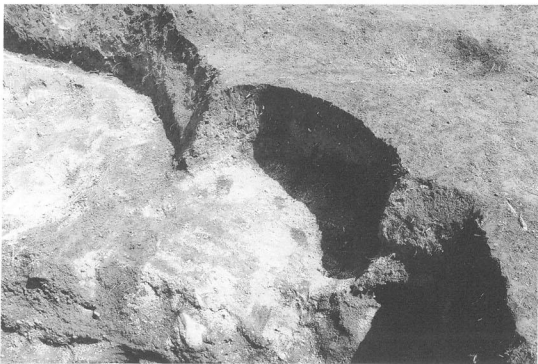
F 4号掘立柱建物址全景（北から）



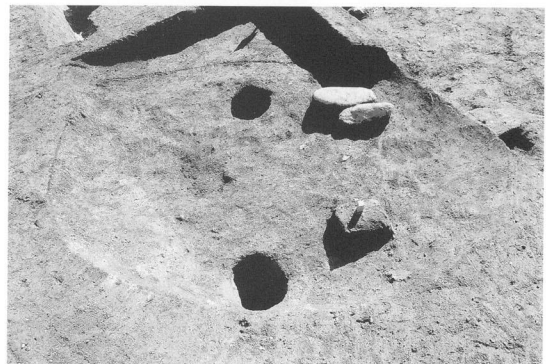
F 18号掘立柱建物址全景（北から）



F 20号掘立柱建物址全景（東から）



D 11号土坑全景（南西から）



D 14号土坑全景（北から）



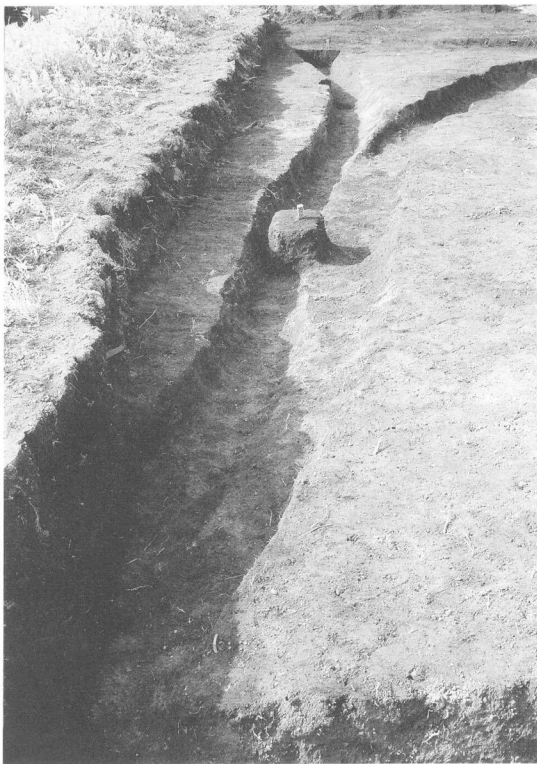
M3号溝状遺構全景（南から）



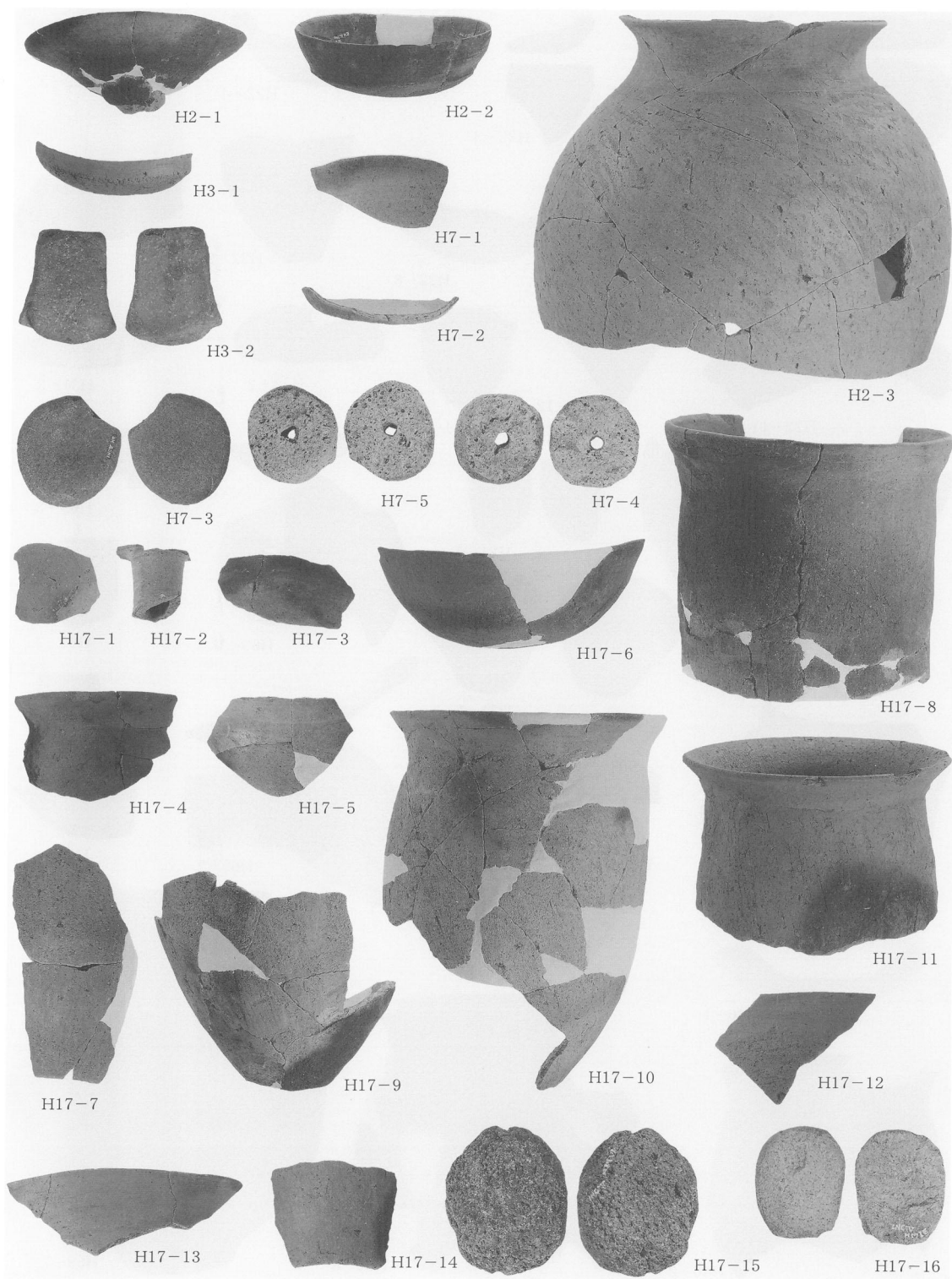
M4号溝状遺構全景（南から）



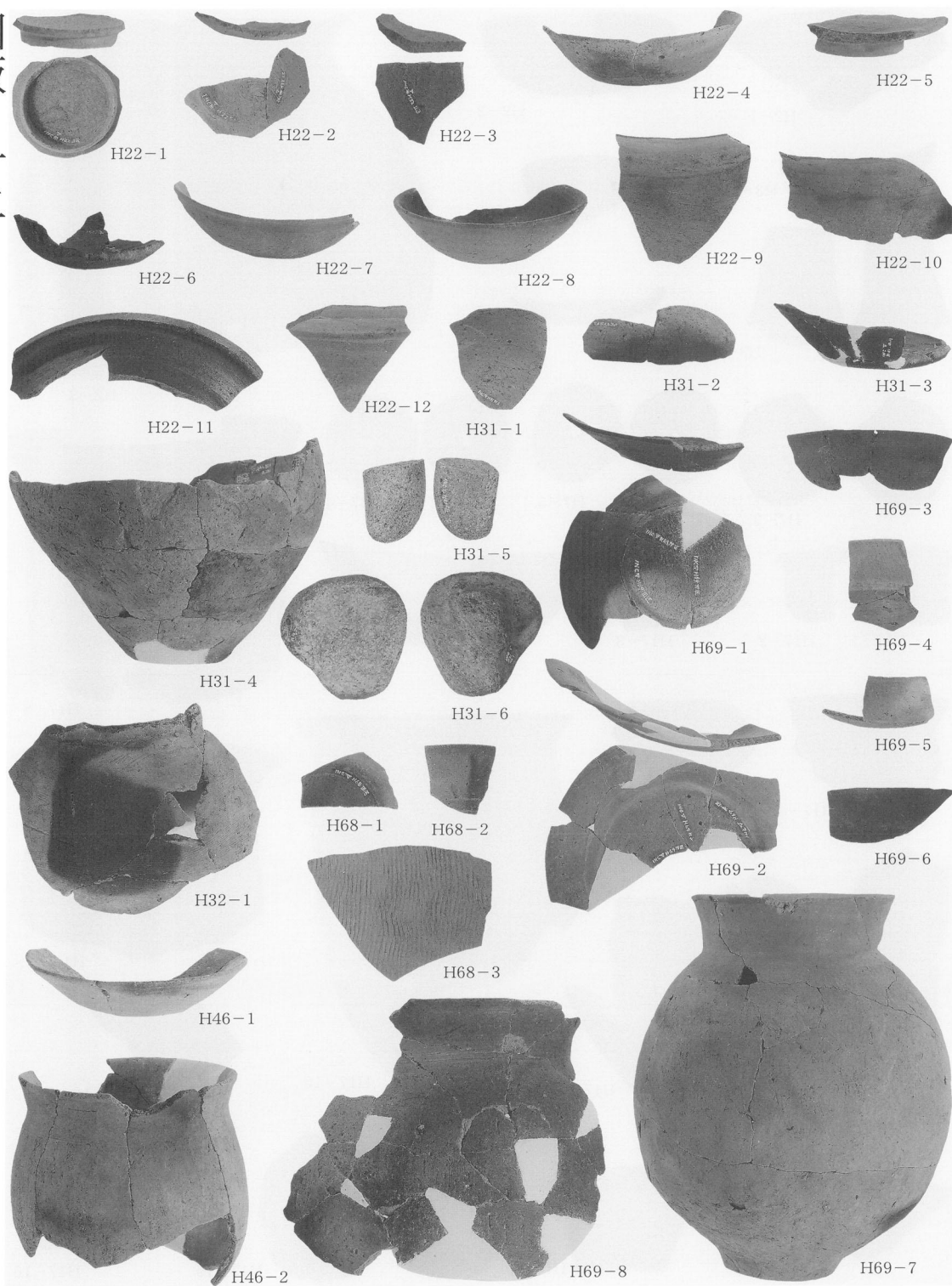
M5号溝状遺構全景（南から）



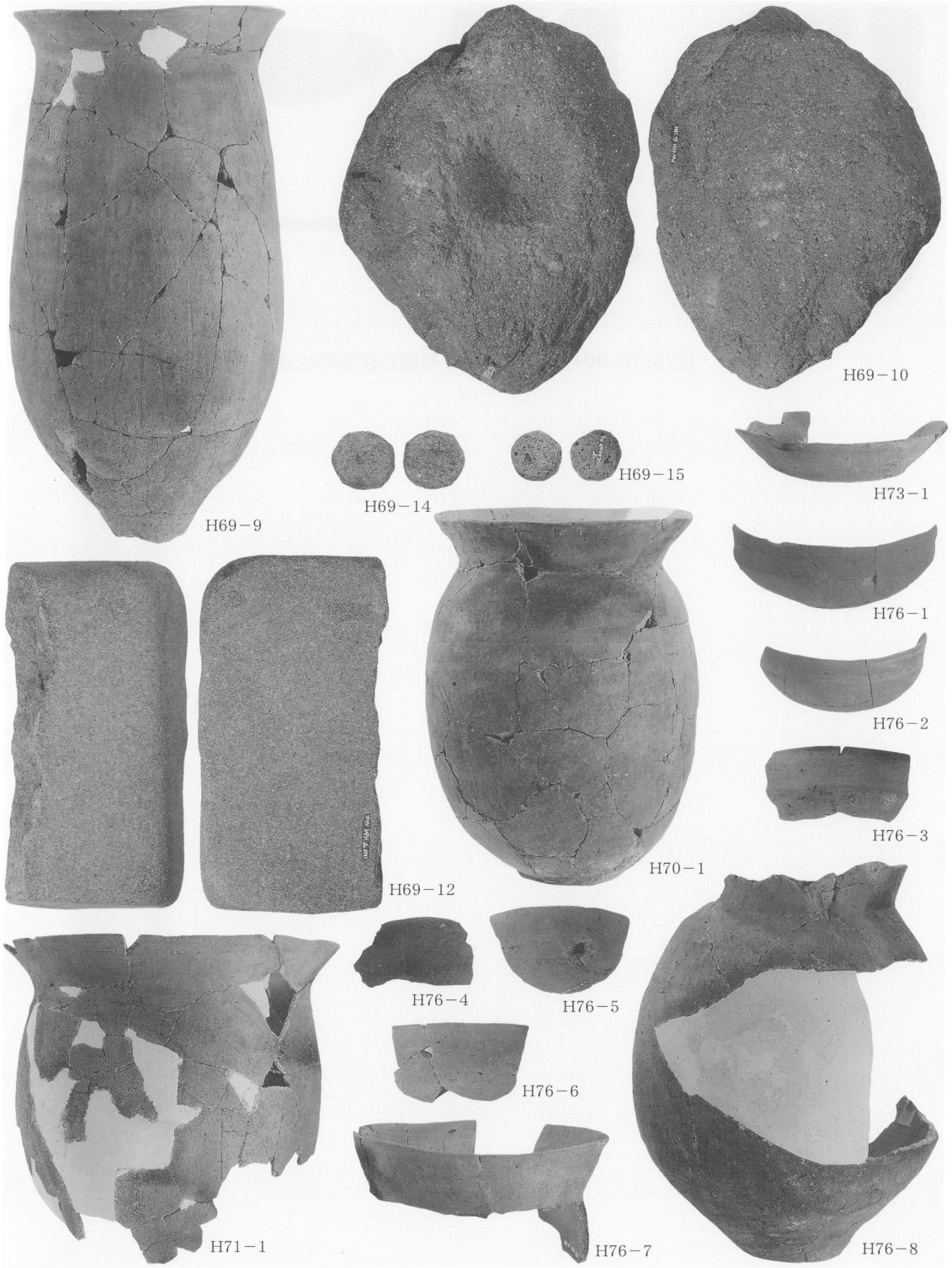
M6・7号溝状遺構全景（南から）



H2・3・7・17号住居址遺物

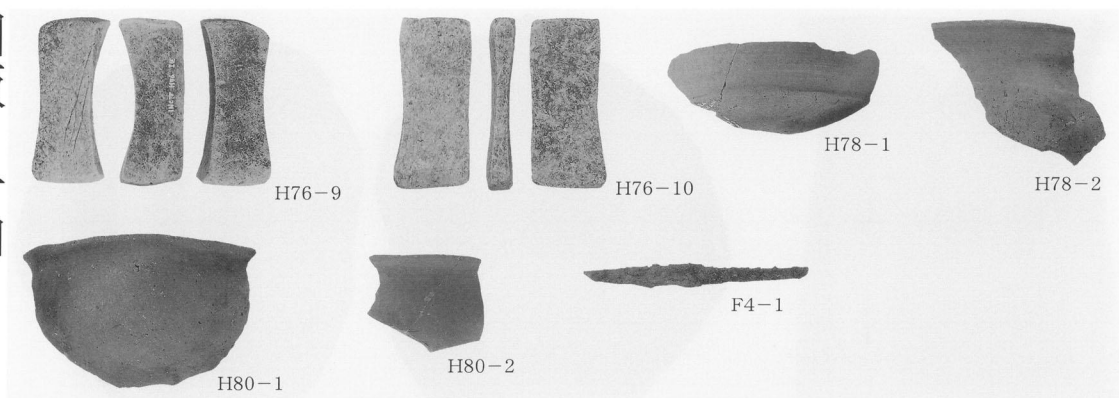


H22·31·32·46·68·69号住居址遺物



H69·70·71·73·76号住居址遺物

図版  
十四



H76・78・80号住居址、F4号掘立柱建物址遺物

岩村田遺跡群 西八日町遺跡VI

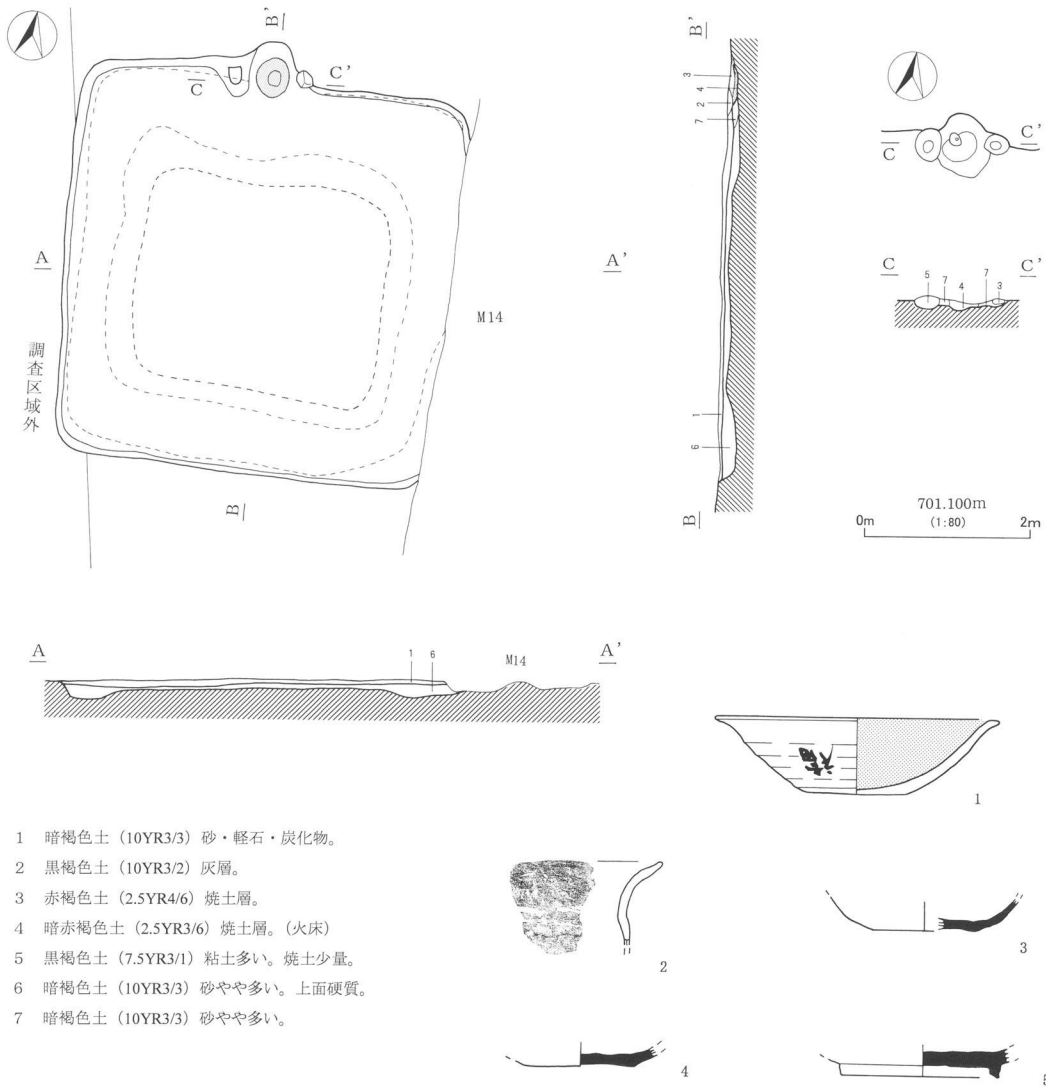
### 第三章 西八日町遺跡VIの遺構と遺物

#### 第1節 竪穴住居址 (H)

##### H95号住居址

遺構は16-ふグリッドに位置し、H97・104を切り、M14に切られる。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西4.8m、南北5.0m、検出面から床面までの深さは5cmと浅い。床面は壁際を除き硬質である。ピットは確認できなかった。カマドは北壁の中央に構築され、西袖の一部と火床のみ確認できた。掘方は周辺部がやや深く、中央部は厚さ3cm内外の床のみであった。

遺物は土師器の碗・甕、須恵器の坏が出土した。底部回転糸切り後未調整の坏、碗の存在から9世紀前半、平安時代としたい。



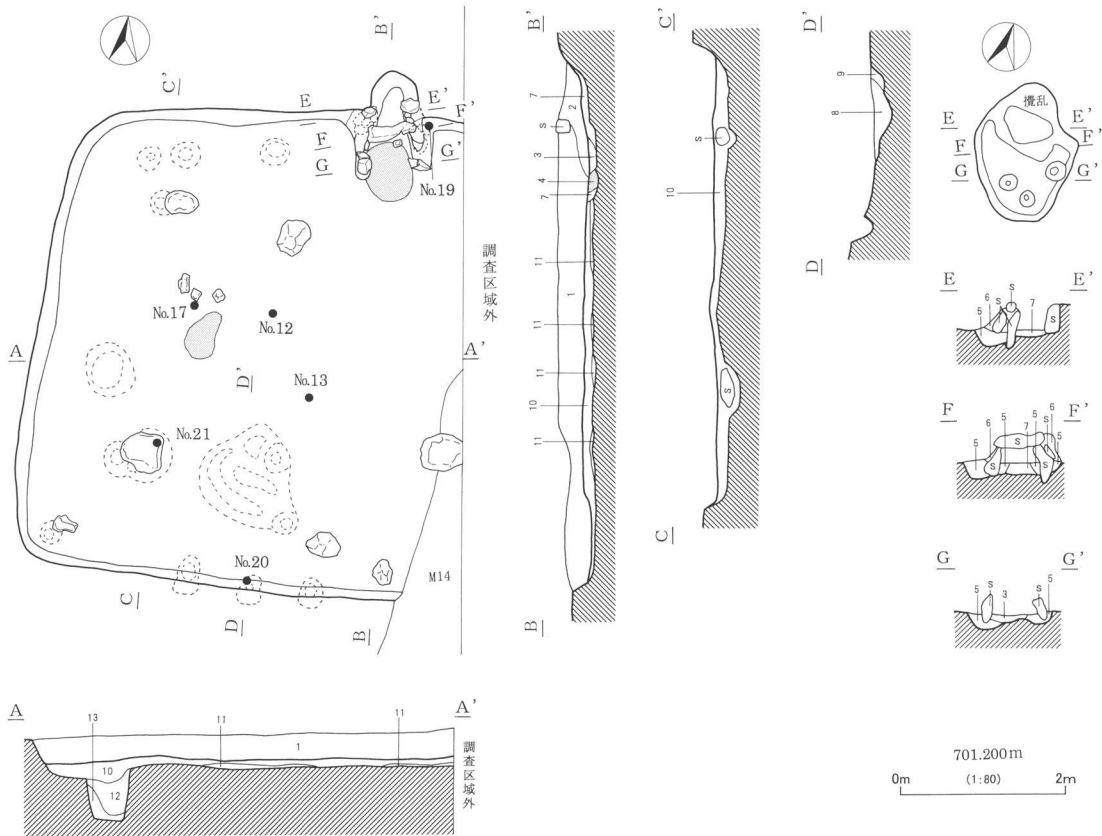
第47図 H95号住居址遺構・遺物実測図



番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏or碗	17.6	6.3	4.7	ロクロナデ 底部回転系切り 底部周辺高台剥がれか？ 内面黒色処理 墨書「福」？	90	外面2.5YR5/8明赤褐色
2	土師器	甕	-	-	-	口縁横ナデ 武蔵甕	口縁破片	外面5YR5/6明赤褐色
3	須恵器	坏	-	[6.3]	(2.1)	ロクロナデ 底部回転系切り	25	外面10YR7/1灰白色
4	須恵器	坏	-	6.5	(1.3)	底部回転系切り 火だすき	底部100	内外面7.5Y6/1灰色
5	須恵器	高台付坏	-	9.7	(1.8)	底部回転系切り後高台貼り付け 高台貼り付け周辺部ナデ	底部高台100	内外面10Y5/1灰色

第18表 H95号住居址遺物観察表

H96号住居址



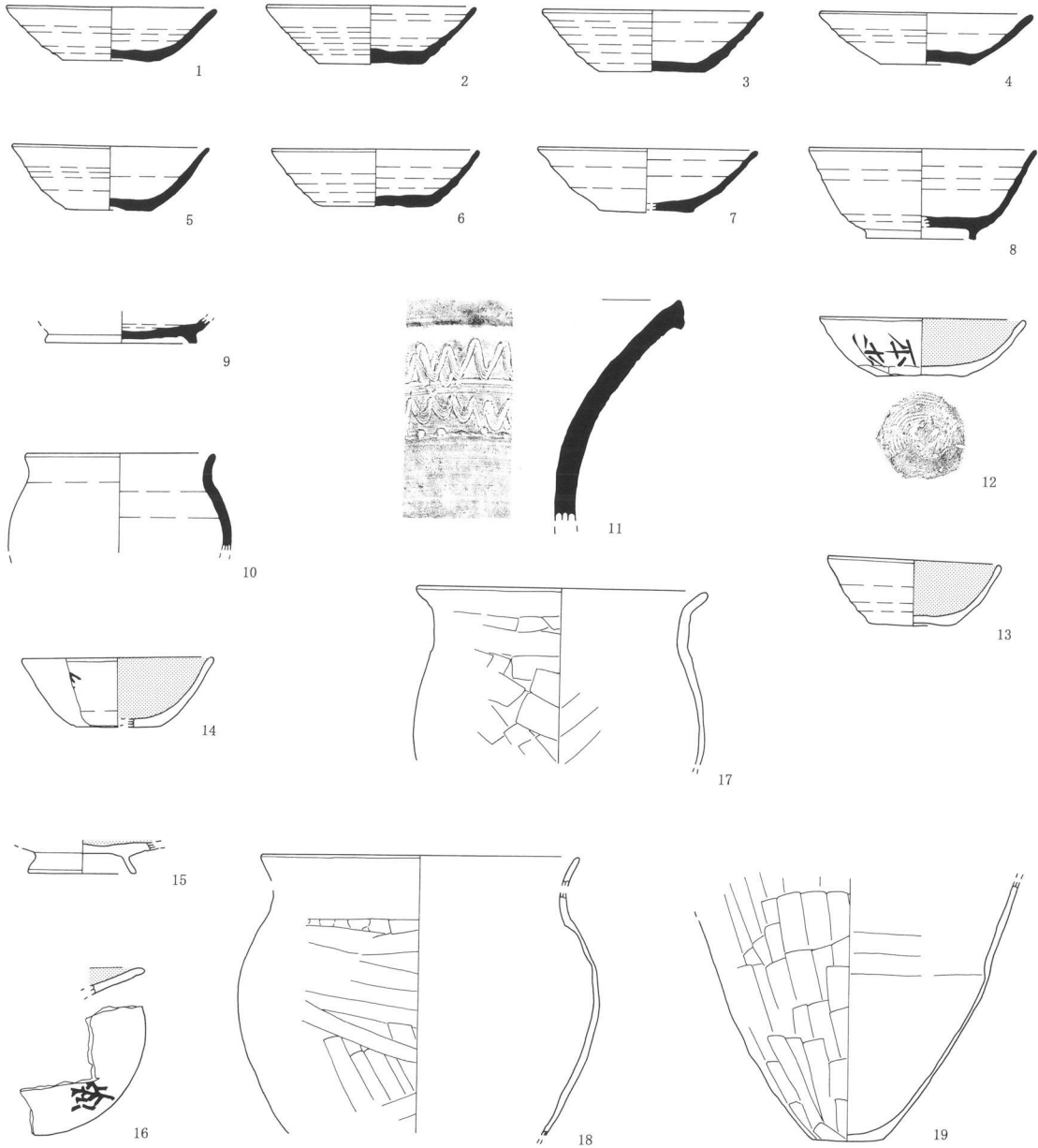
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂やや多い。炭化物・軽石。
- 2 暗赤褐色土 (5YR3/2) 焼土・粘土多い。
- 3 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土・灰多い。
- 4 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。
- 5 赤黒色土 (2.5YR2/1) 粘土・灰多い。
- 6 赤黒色土 (2.5YR2/1) 粘土層。

- 7 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 焼土・粘土・灰。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・砂。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 砂やや多い。
- 10 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質。
- 11 褐色土 (10YR4/6) 砂層。
- 12 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。暗褐色土。
- 13 褐色土 (10YR4/6) 砂主体。暗褐色土。

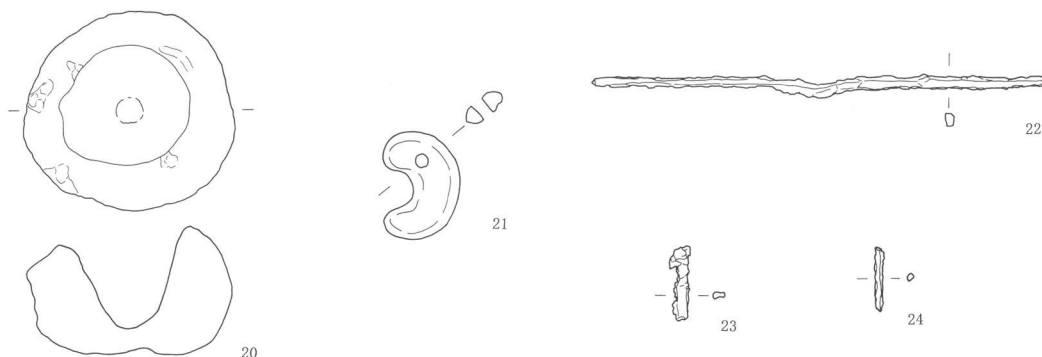
第48図 H96号住居址実測図

遺構は16-はグリッドに位置し、M14に切られ、H100を切る。東側は調査区域外となる。規模は南北5.8m、東西は調査規模で5.2m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。床面は壁際周辺部を除き硬質である。径50cm内外の石が床面に埋め込まれており、位置的に主柱穴の礎石であると考えられた。南に位置するH95も同様に礎石を持つ住居址であった。ピットは床面上からは確認でき

なかったが、掘方調査時に壁際を中心に小ピットが確認できた。カマドは北壁に構築され、煙道の一部を攪乱に破壊されていた。両袖は粘土と石材を利用し構築され、一部が残存していた。火床には焼土の堆積が認められ、火床と煙道部の立ち上がり付近に天井石が架けられていた。掘方は壁際がやや深く、中央付近は、厚さ4cm前後の貼り床のみとなる。遺物は須恵器の坏・甕・壺、土師器の坏・甕が出土した。底部回転糸切り後未調整の須恵器坏及び口縁「コ」の字状の武蔵甕の存在から9世紀前半、平安時代としたい。勾玉についてはH100の混入品である可能性がある。



第49図 H96号住居址遺物実測図



第50図 H96号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	坏	13.85	6.25	3.5	ロクロナデ 底部回転糸切り	60	外面2.5Y7/1灰白色
2	須恵器	坏	[13.8]	6.6	3.8	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	70	外面7.5Y6/1灰色
3	須恵器	坏	[14.4]	6.85	4.1	ロクロナデ 底部回転糸切り	50	外面5Y8/1灰白色
4	須恵器	坏	[14.1]	3.9	3.4	ロクロナデ 底部回転糸切り	55	内外面5Y7/1灰白色
5	須恵器	坏	[13]	5.6	4.3	ロクロナデ 底部回転糸切り	40	外面5Y7/1灰白色他
6	須恵器	坏	[13.4]	[7.4]	4.8	ロクロナデ 底部回転糸切り	40	外面10Y5/1灰色他
7	須恵器	坏	[14.5]	[6.3]	4.1	ロクロナデ 底部回転糸切り	40	内外面10Y4/1灰色
8	須恵器	高台付坏	[15.1]	[7.3]	5.9	ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け	30	内外面N4/0灰色他
9	須恵器	高台付坏	-	9.9	(1.6)	底部回転糸切り後高台貼り付け	高台・底部100	内外面10Y5/1灰色
10	須恵器	壺	[12.3]	-	(6.3)	ロクロナデ 内外面自然釉	口縁~胴部	外面N7/0灰白色
11	須恵器	甕	-	-	(14.5)	ロクロナデ 外面櫛波状文3段 3段目の大半はナデ消し	口縁破片	外面N4/0灰色
12	土師器	坏	13.7	5.8	3.7	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理 墨書「平」	98	外面2.5YR6/8橙色
13	土師器	坏	11.5	5.7	4.5	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理	60	外面5YR6/6橙色
14	土師器	坏or碗	[12.6]	[5.3]	4.5	ロクロナデ 底部回転糸切り 周辺部高台剥がれ痕 内面黒色処理 墨書?	40	外面5YR7/4鈍い橙色
15	土師器	碗	-	7	(2.1)	ロクロナデ 底部高台貼り付け 内面黒色処理	高台・底部90	外面5YR6/6橙色
16	土師器	皿	-	-	-	ロクロナデ 内面黒色処理 外面墨書	口縁破片	外面7.5YR7/6橙色
17	土師器	甕	[19.2]	-	(11.4)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 武蔵甕	口縁~胴部	外面2.5YR5/6明赤褐色
18	土師器	甕	[20.9]	-	(18.3)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 武蔵甕	口縁~胴部	外面2.5YR4/3鈍い赤褐色
19	土師器	甕	-	4.8	(17)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ 武蔵甕	底部~胴下半部	外面2.5YR3/6暗赤褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
20	掲白	12.1	12.95	7.8	495.5	凹径5.3 凹深5.8	23	不明鉄製品	4.39	0.81	0.35	3.71	
21	勾玉	1.65	1.2	0.3	0.93	孔径0.2	24	棒状鉄製品	3.98	0.49	0.45	2.02	
22	不明鉄製品	27.9	0.92	0.77	44.59								

第19表 H96号住居址遺物観察表

### H97号住居址

遺構は16-ひグリッドに位置し、H95に切られ、西側の3分の2は区画整理調査分となる。規模は南北7.2m、東西は調査規模で3.0m、検出面から床面までの深さは最深で30cmを測る。(区画整理分を含めた規模は南北7.2m、東西6.4m) 床面は硬質で壁際に幅10cm内外の溝が巡る。床面には径50cmの石が埋め込まれており。位置的に柱の礎石と考えられる。北に位置するH96も同様に礎石を持つ住居址であった。カマドは北壁の東寄りに位置する。粘土で構築された両袖の残存部と火床が認められた。火床には焼土が広範囲に渡り堆積し、厚さは13cmを測る。掘方は周辺部が30cm内外と深い、中央付近は厚さ5cm内外の貼り床のみであった。



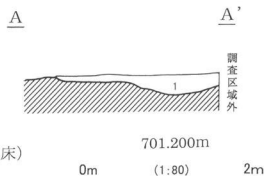
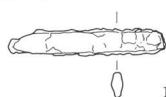
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	坏	12.6	6.6	3.4	ロクロナデ 底部ヘラケズリ 火だすき	50	内外面2.5Y6/1黄灰色
2	須恵器	坏	[15.4]	[8]	4.4	ロクロナデ 底部ヘラケズリ ×ヘラ記号	40	外面10YR6/2灰黄褐色
3	須恵器	高台付坏	[12.8]	[8.9]	3.2	ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け	40	外面2.5Y6/1黄灰色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
4	搦白	7.8	7.5	4.6	115.1	凹径4.2 凹深1.3	5	角釘	8.25	1.53	0.8	8.05	

第20表 H97号住居址遺物観察表

### H100号住居址

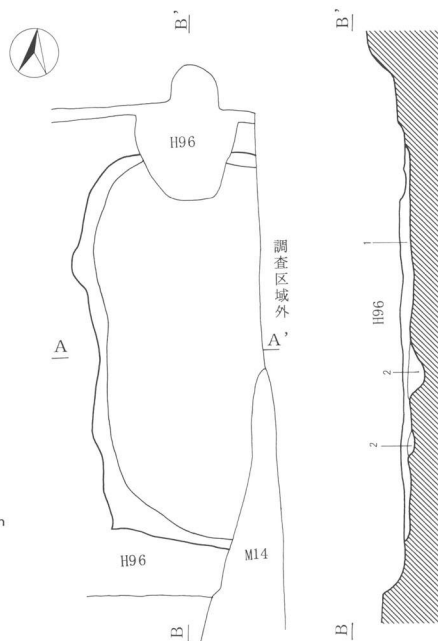
遺構は16一のグリッドに位置し、H96・M14に大半を破壊され、確認できたのは床面の一部と掘方である。東側は区画整理調査分となるが、M14に破壊され、遺構の存在は確認できなかった。平面形態は隅丸方形又は長方形と考えられる。規模は南北4.8m、東西は調査規模で2.0m、確認できた深さは12cmを測る。遺物は古墳時代の土師器片が出土したが僅かである。遺物の特徴から古墳時代としたい。



- 1 黒褐色土 (SYR2/2) 灰・砂・軽石。しまりあり。(床)
- 2 黒褐色土 (SYR2/1) 灰多い。粘土・砂・軽石。

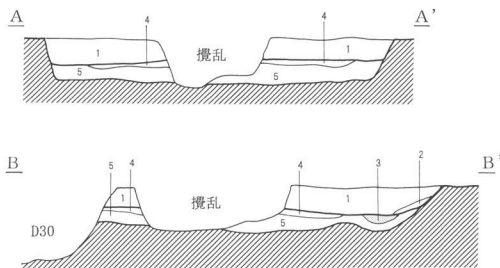
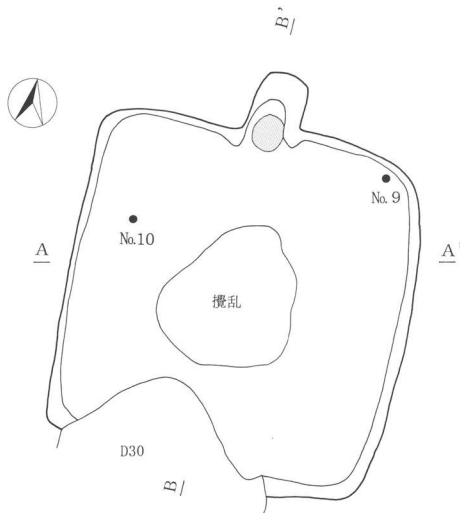
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	刀子	9.68	1.65	0.74	29.65	

第21表 H100号住居址遺物観察表



第52図 H100号住居址遺構・遺物実測図

### H101号住居址

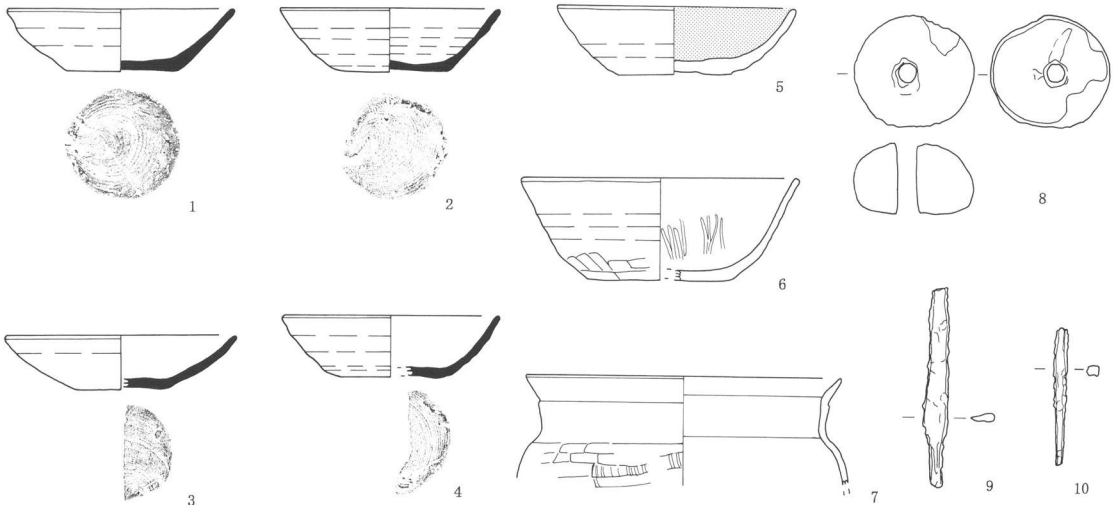


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。
- 2 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土多量。
- 3 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。(火床)
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 硬質。(床)
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 砂やや多い。

第53図 H101号住居址実測図

遺構は20-のグリッドに位置し、H102を切り、南側はD30に切られる。中央は構築物の基礎によって破壊されている。平面形態はやや隅丸の方形である。床面は硬い。ピットは確認できなかった。カマドは北壁の中央に存在し、火床部分が壁外にやや張り出す形状である。袖はほとんど認められず、径40cm、厚さ10cmの火床及び煙道部への立ち上がりが残存していたのみである。掘方は全体に20~30cmと厚く、貼り床直下に地山の砂を多く含む暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は須恵器の坏・甕、土師器の坏・甕が出土した。口縁「コ」の字状の武蔵甕及び底部回転糸切り後未調整の須恵器坏の存在及び切り合い関係からH102よりやや新しい9世紀前半平安時代としたい。



第54図 H101号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	坏	14.1	6.9	3.8	ロクロナデ 底部回転糸切り	80	内外面7.5YR5/3鈍い褐色他
2	須恵器	坏	13.5	6.7	3.9	ロクロナデ 底部回転糸切り	70	内外面10YR6/1灰灰色
3	須恵器	坏	[14.2]	[7.9]	3.3	ロクロナデ 底部回転糸切り	25	内外面10YR7/1灰白色他
4	須恵器	坏	[13.4]	[5.9]	3.8	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	25	外面10YR3/1黒褐色
5	土師器	坏	14.7	7	4.2	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理	70	外面5YR7/4鈍い橙色
6	土師器	坏	[17.1]	[8.8]	6.3	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ミガキ	25	内外面5YR6/6褐色他
7	土師器	甕	[19.5]	-	(6.5)	口縁横ナデ 武蔵甕	口縁破片	内外面5YR4/6赤褐色

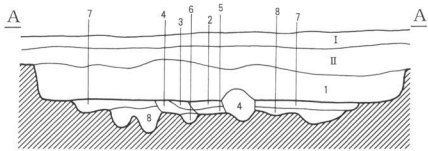
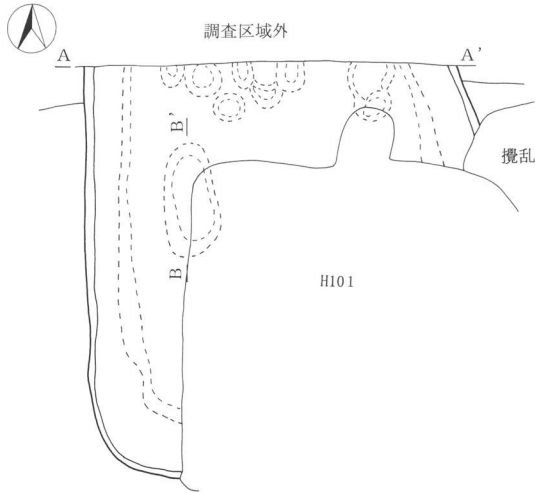
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
8	有孔軽石製品	6.85	7.4	4.4	111.2	孔径1.3~1.2	10	角釘	8.41	0.86	0.76	10.38	先端・頭部欠損
9	刀子	12.28	1.54	0.52	17.22	先端部欠損							

第22表 H101号住居址遺物観察表

### H102号住居址

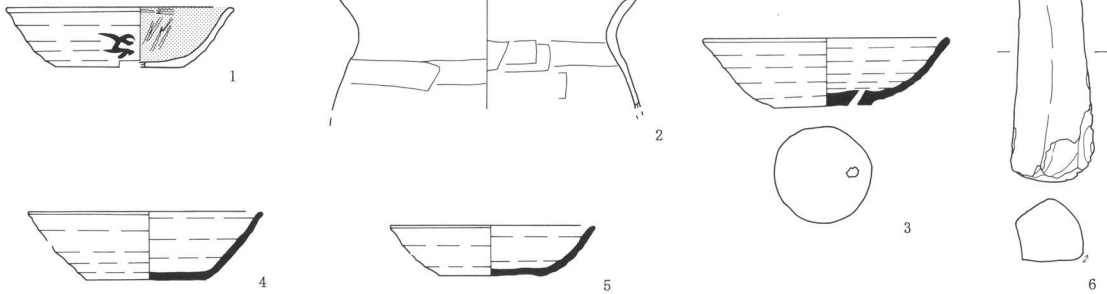
遺構は21-のグリッドに位置し、H101に切られ、北側は調査区域外となる。平面形態は調査状況から隅丸のやや南北に長い長方形と考えられる。規模は東西4.6m、南北は調査規模で5.0m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。床面はやや硬質である。北側調査区境の中央付近から焼土の散布が認められたことからカマドの存在が伺える。床面上でピットは確認できなかったが掘方で小ピットが数個存在した。性格は不明である。掘方は壁際30cmはやや高く、その他の中央付近は15cm程度深くなる形状である。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕が出土した。口縁「コ」の字状気味の武蔵甕及び底部回転糸切り後未調整の須恵器坏の存在、遺構の切り合い関係からH101より古い9世紀前半、平安時代としたい。



- I 表土
- II 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石少量。
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・小石・炭化物。
- 2 明赤褐色土 (2.5YR5/8) 焼土層。
- 3 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土・灰。
- 4 黒褐色土 (5YR2/2) 粘土層。
- 5 赤褐色土 (5YR4/6) 焼土・粘土。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 砂多い。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 硬質。(床)
- 8 極暗褐色土 (7.5YR2/3) やや硬質。砂多い。

701.500m  
0m (1:80) 2m



第55図 H102号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様			残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[14]	[7.7]	3.6	ロクロナデ	底部ヘラケズリ	内面黒色処理 外面墨書	20	外面7.5YR6/6橙色
2	土師器	甕	[18.8]	-	(7.2)	口縁横ナデ	外面ヘラケズリ	内面ヘラナデ	口縁破片	内外面5YR6/6橙色
3	須恵器	坏	15.2	6.1	4.2	ロクロナデ	底部回転糸切り	みこみ部から底部にかけて穿孔	95	内外面2.5Y6/1黄灰色他
4	須恵器	坏	[14.5]	7.3	4.2	ロクロナデ	底部回転糸切り	火だすき	50	内外面10YR7/1灰白色他
5	須恵器	坏	[12.6]	6.5	3.1	ロクロナデ	底部回転糸切り		50	内外面2.5Y5/2暗灰黄色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
6	敲石	15.4	5.15	4.6	485.1	上下・側面に敲打痕

第23表 H102号住居址遺物観察表

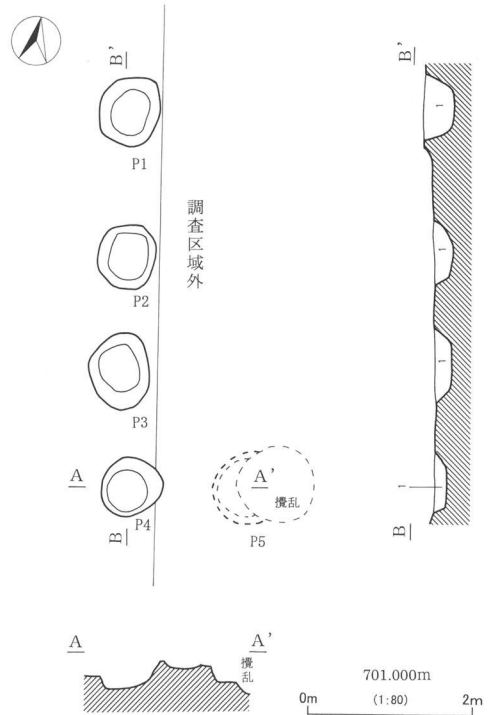
H104号住居址

遺構は17-ひグリッドに位置し、H97を切るが、切り合い関係が逆となり、本調査地域における壁の立ち上がりは確認できなかった。僅かに床面の硬質面を確認できたのみである。区画整理調査分を含めた推定規模は東西約3.2m、南北4.0mを測る。カマドは区画整理調査分に存在し、北壁のほぼ中央に構築されていたと考えられる。火床と僅かな袖が残存していた。遺物は底部回転糸切り後未調整の須恵器坏の存在から平安時代とした。

第2節 掘立柱建物址 (F)

F28号掘立柱建物址

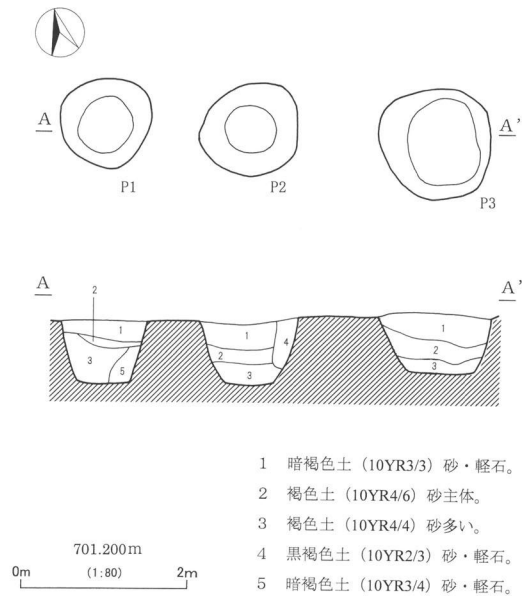
遺構は16-ひグリッドに位置し、東側は調査区域外となる。調査範囲では南北方向に並ぶ径75cm~80cm、深さ20cm内外のピット4個を確認した。区画整理調査分の東側に、対応するピットが1個認められることから本遺構は東側に展開すると考えられる。



1 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。  
第56図 F28号掘立柱建物址実測図

F30号掘立柱建物址

遺構は調査区北端の18-のグリッドに位置する。二間のピット3個が認められた。径は1.1~1.3m、深さは80cmを測る大型である。南側に対応するピットが認められないことから本遺構は北側の調査区域外に展開すると考えられる。



1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石。  
2 褐色土 (10YR4/6) 砂主体。  
3 褐色土 (10YR4/4) 砂多い。  
4 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石。  
5 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石。  
第57図 F30号掘立柱建物址実測図

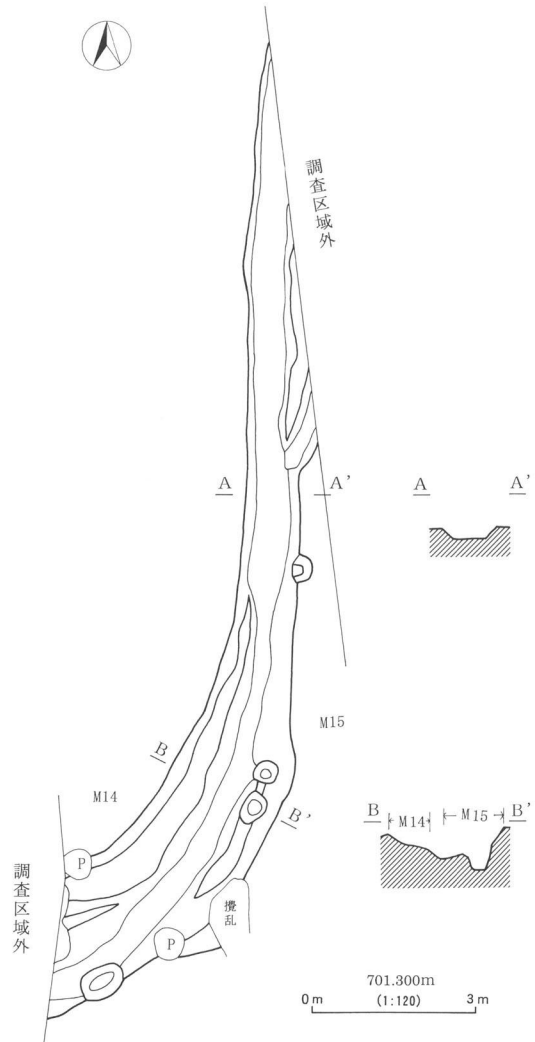


### 第3節 溝状遺構 (M)

#### M14・15号溝状遺構

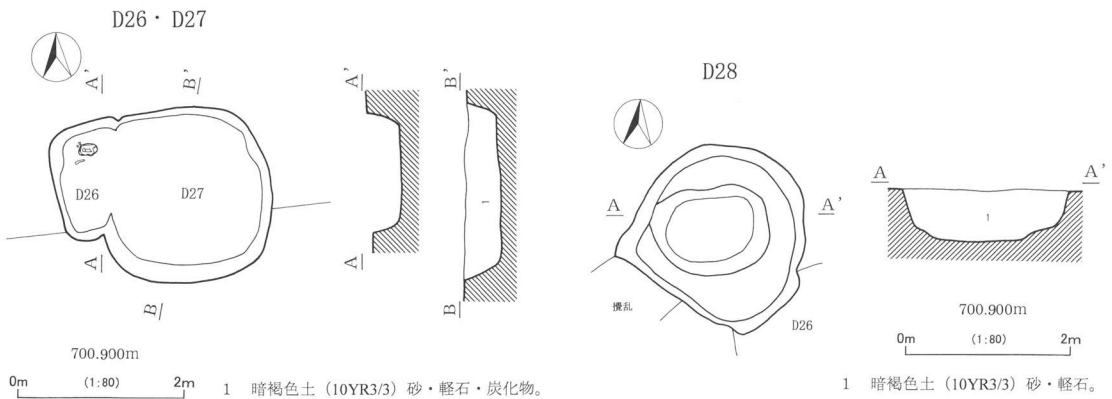
遺構は16-ほグリッドに位置し、H95・96・100を切る。本調査区において2本の溝が交差する状態となる。本調査区域内におけるM15の長さは11m、最大幅は90cm、底幅35cm、深さは最大で50cmを測る。M14の長さは18m、最大幅70cm、底幅40cm、深さは最大で20cmを測る。

遺物はM14にて投げ込まれた状態の獣骨が出土した。時期は中世と考えられる。



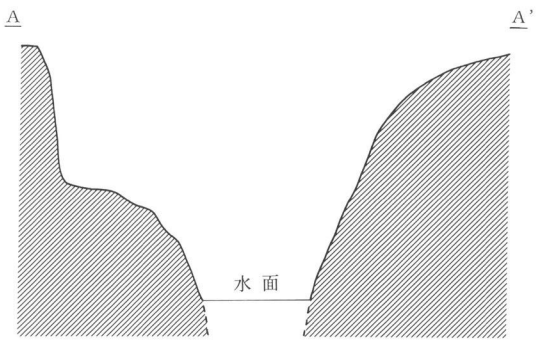
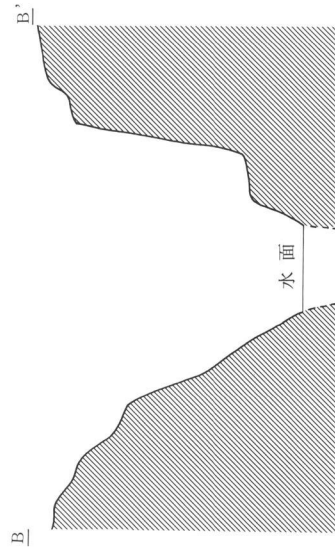
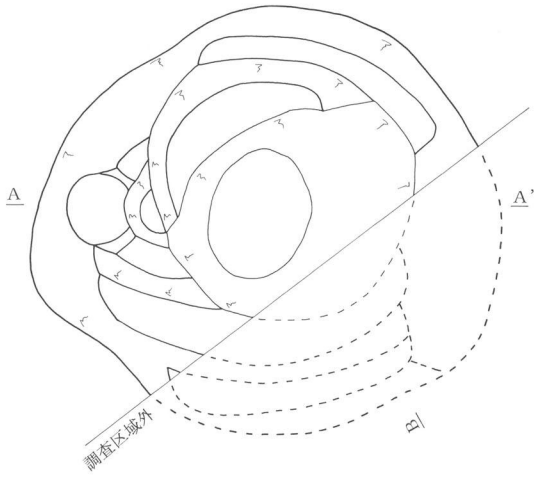
第58図 M14・15号溝状遺構実測図

### 第4節 土坑 (D)

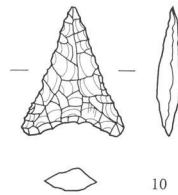
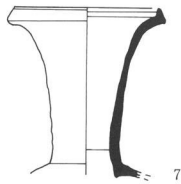
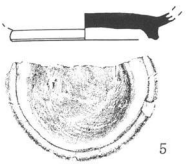
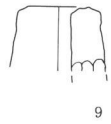
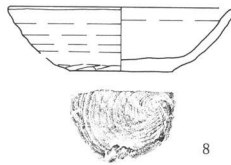
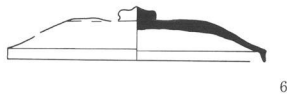
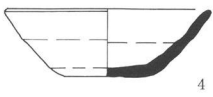
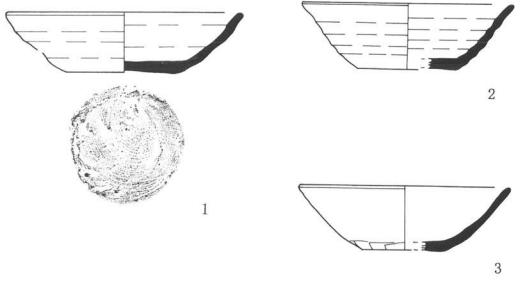


第59図 D26・27・28号土坑実測図

D29



700.900m  
0m (1:80) 2m

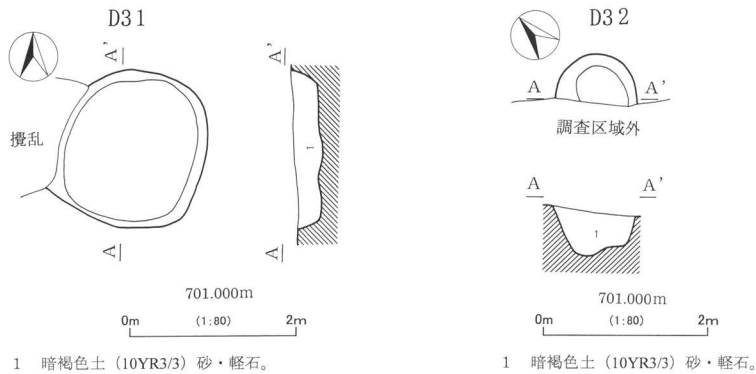


第60図 D29号土坑遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	坏	[14.6]	7.1	3.5	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	40	内外面10YR5/2灰黄褐色
2	須恵器	坏	[13.2]	[6.2]	4.1	ロクロナデ 底部回転糸切り 火だすき	40	内外面10YR6/2灰黄褐色
3	須恵器	坏	[16.2]	[5.2]	4	ロクロナデ 底部回転糸切り 周辺部ヘラケズリ	40	内外面2.5Y6/1黄灰色
4	須恵器	坏	[12.8]	[6.4]	4.2	ロクロナデ 底部回転糸切り	25	内外面2.5Y6/2灰黄色
5	須恵器	高台付坏	—	9.1	(1.6)	底部回転糸切り後高台貼り付け	高台・底部70	内外面N4/1灰色他
6	須恵器	蓋	つまみ径 2.4	[16]	3.4	ロクロナデ 天井部回転ヘラケズリ 宝珠つまみ貼り付け	60	内外面N4/1灰色他
7	須恵器	壺	[8.1]	—	(10.3)	ロクロナデ 内面自然釉付着	口縁～頭部	外面N7/1灰白色
8	土師器	坏	[14]	6.2	3.9	ロクロナデ 底部回転糸切り 底部周辺部ケズリ	50	内外面7.5YR7/4鈍い橙色
9	羽口	外径[5.2]内径[1.8]	—	—	(4)	先端部還元	先端部破片	外面5YR1.7/1黒色

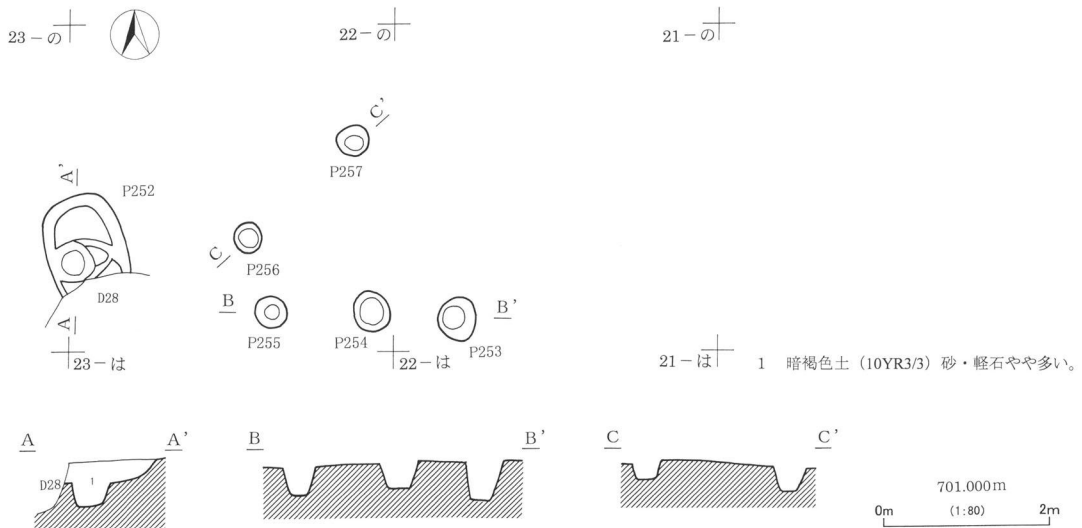
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
10	石鉄	1.95	1.55	0.35	0.71	

第24表 D29号土坑遺物観察表

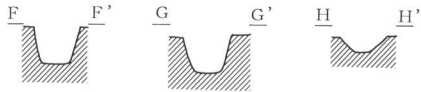
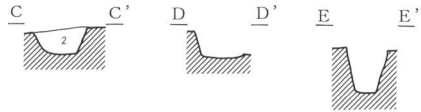
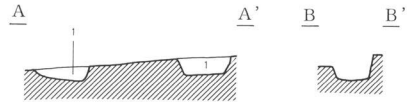
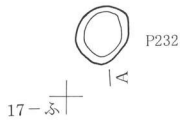
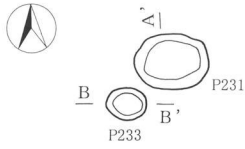


第61図 D31・32号土坑実測図

第5節 ピット (P)

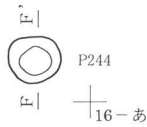
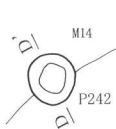
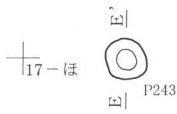


第62図 ピット実測図 (1)



0m 701.200m 2m  
(1:80)

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。

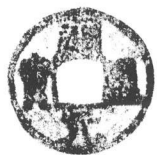


第63図 ピット実測図 (2)

第6節 古錢



H95



H101



D26

第64図 古錢

遺構名	器種	種別	外径cm	内径cm	厚さcm	重量g	備考
H95	古錢	元符通寶	2.38	0.6	0.14	3.32	北宋 1098 行書
H101	古錢	開元通寶	2.31	0.68	0.12	2.94	唐 621
D26	古錢	寬永通寶	2.31	0.55	0.21	2.83	3期 新寬永?

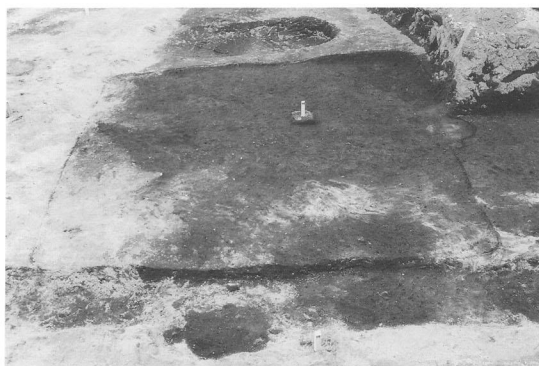
第25表 古錢觀察表



西八日町遺跡Ⅵ東側調査区全景（南から）



西八日町遺跡Ⅵ西側調査区全景（東から）



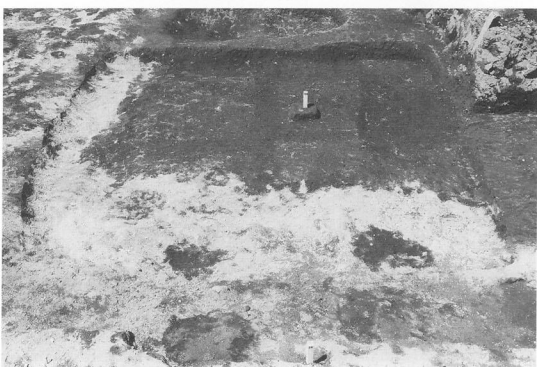
H95号住居址全景（東から）



H95号住居址カマド（南から）



H95号住居址カマド掘方（南から）



H95号住居址掘方全景（東から）



H96号住居址全景（南から）



H96号住居址カマド（南から）



H96号住居址カマド石材状況



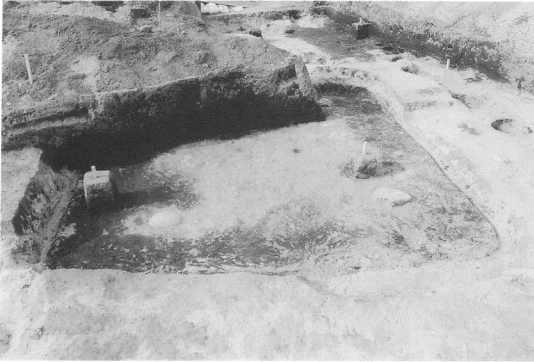
H96号住居址カマド掘方（南から）



H96号住居址掘方全景（南から）



H97号住居址北側調査区全景（南から）



H97号住居址南側調査区全景（南から）



H97号住居址カマド（南から）



H97号住居址カマド掘方（南から）



H97号住居址北側調査区掘方全景（南から）

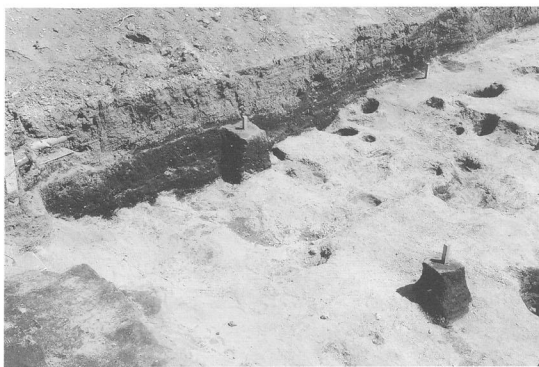


H97号住居址南側調査区掘方全景（南から）

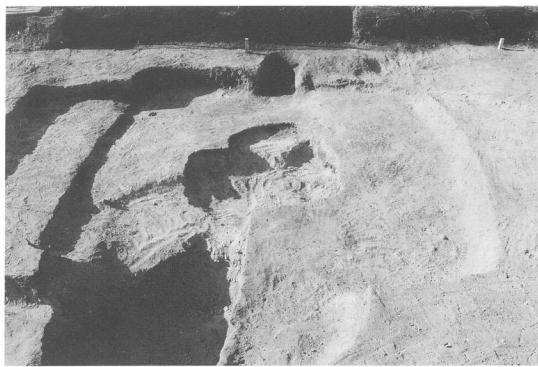


H100号住居址全景（西から）





H100号住居址掘方全景（北西から）



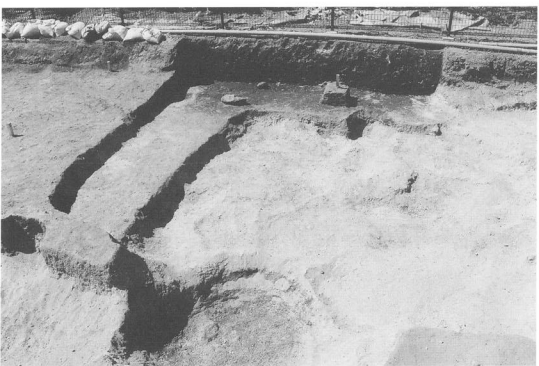
H101号住居址全景（南から）



H101号住居址カマド（南から）



H101号住居址掘方全景（南から）



H102号住居址全景（南から）



H102号住居址掘方全景（南から）



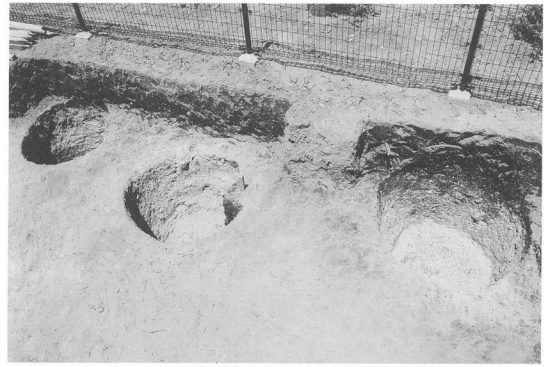
H104号住居址全景（南から）



H104号住居址カマド火床（南から）



F 28号掘立柱建物址全景（南から）



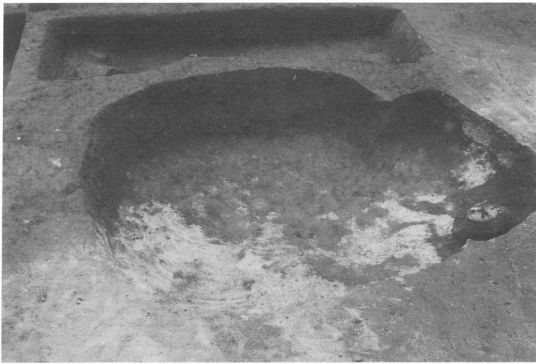
F 30号掘立柱建物址全景（南から）



F 30号掘立柱建物址全景（東から）



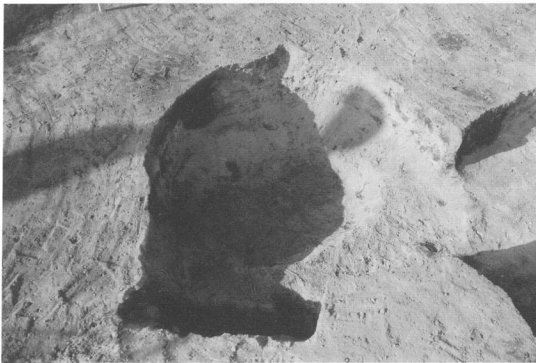
D 26号土坑全景（西から）



D 27号土坑全景（北から）



D 29号土坑全景（南から）



D 31号土坑全景（南から）



D 32号土坑全景（東から）



M14・15号溝状遺構全景（北から）



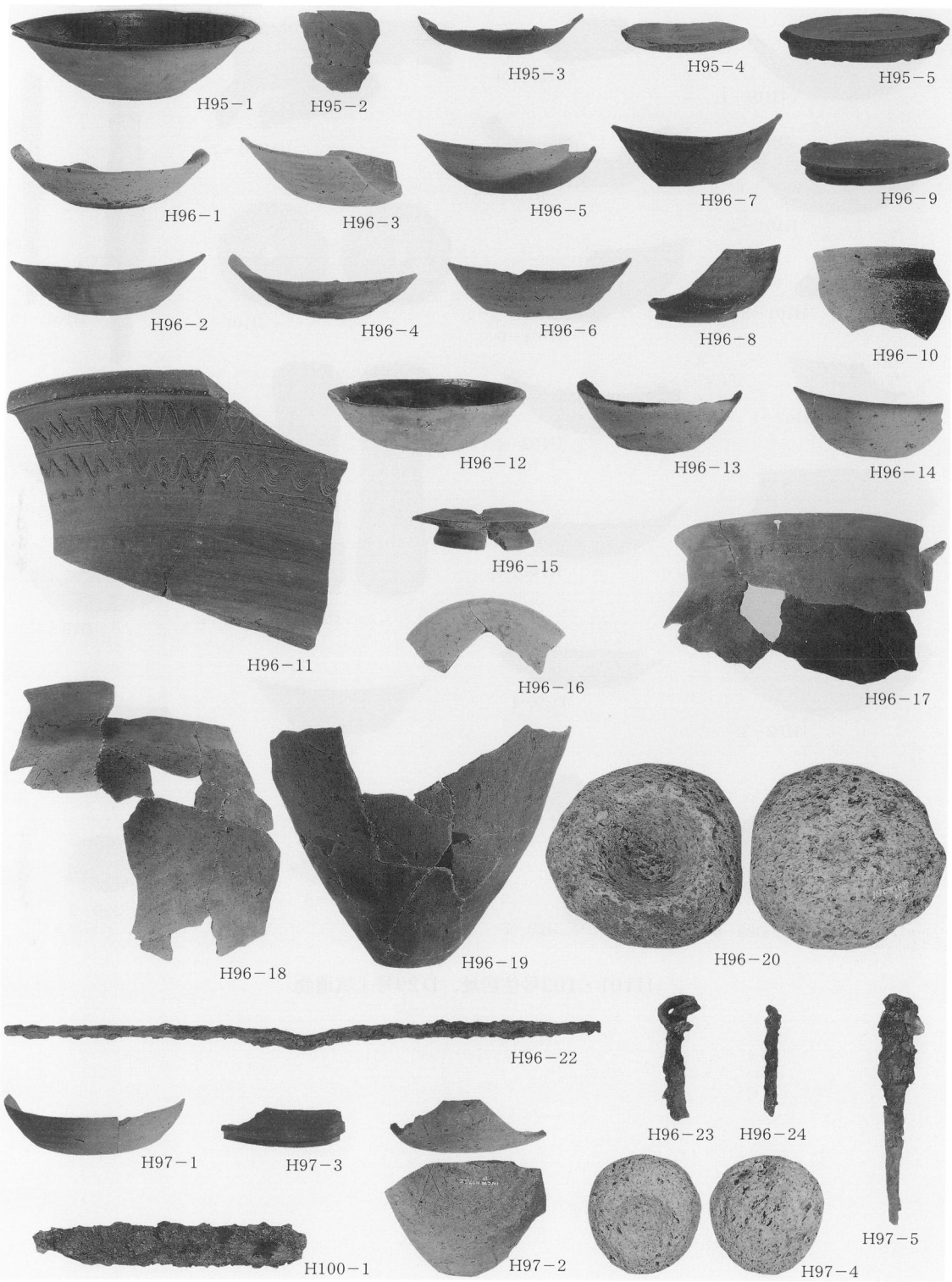
西八日町遺跡VI調査風景（南東から）



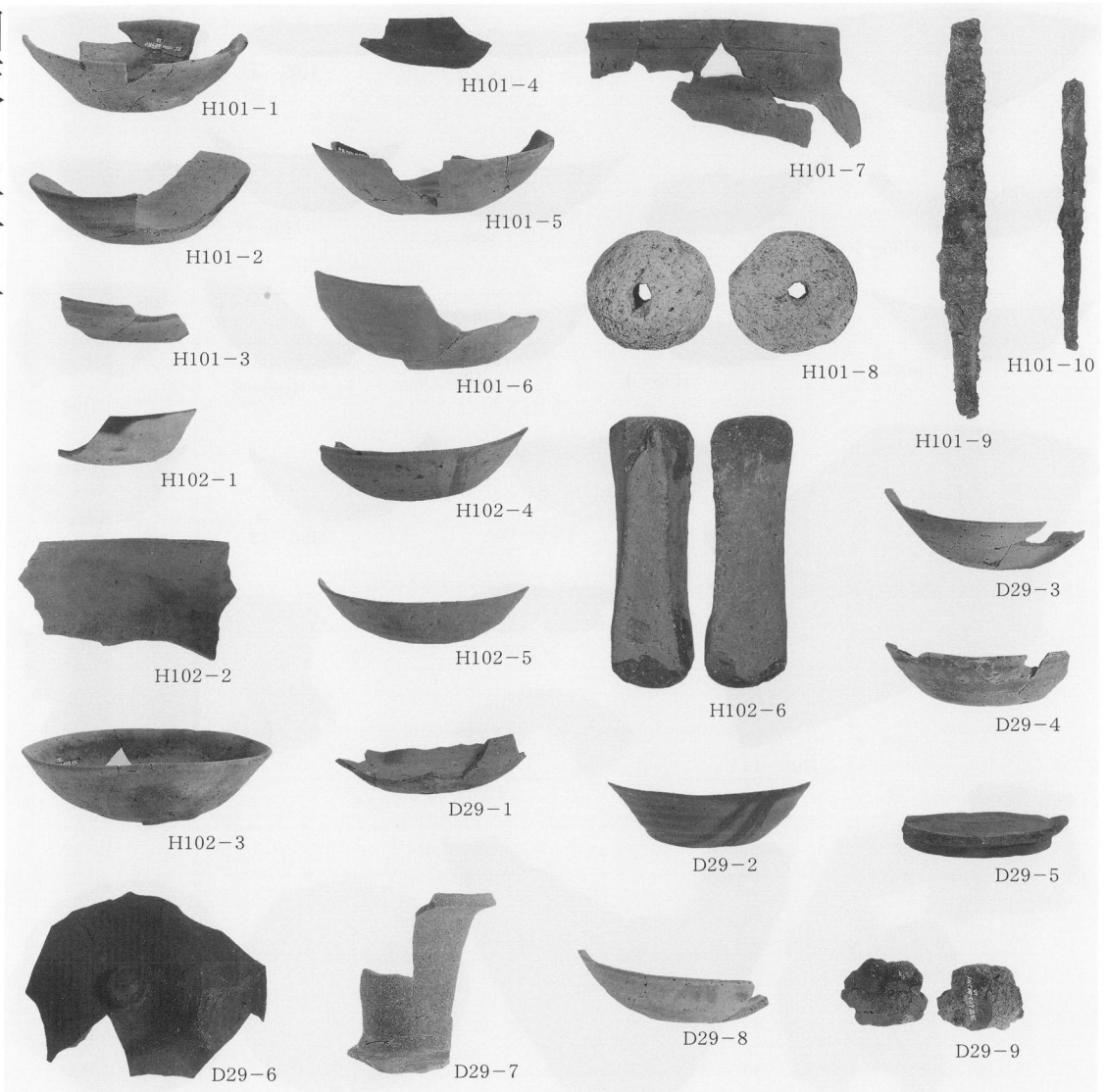
西八日町遺跡VI調査風景（南西から）



西八日町遺跡VI表土除去作業（西から）



H95・96・97・100号住居址遺物



H101・102号住居址、D29号土坑遺物

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第173集  
岩村田遺跡群 西八日町遺跡V・VI

編集・発行 長野県佐久市教育委員会  
長野県佐久市中込3056

文化財課  
長野県佐久市志賀5953  
電話 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク株式会社

---

## 報告書抄録

書名	岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅴ・Ⅵ		
ふりがな	にしょうかまちいせきご・ろく		
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	第173集		
編著者名	上原 学		
編集・発行機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課		
発行年月日	2010.3		
郵便番号	385-0006		
電話番号	0267-68-7321		
住所	長野県佐久市志賀5953		
遺跡名	岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅴ・Ⅵ		
遺跡所在地	佐久市岩村田2130-6、2130-10、2192-1、2194-1（西八日町遺跡Ⅴ）佐久市岩村田2127-7・10、2128-2・3（西八日町遺跡Ⅵ）		
遺跡番号	佐久市 52		
北緯	西八日町遺跡Ⅴ 北緯36度15分59秒	西八日町遺跡Ⅵ 北緯36度16分1秒	
東経	西八日町遺跡Ⅴ 東経139度48分34秒	西八日町遺跡Ⅵ 東経139度48分39秒	
調査期間	西八日町遺跡Ⅴ・Ⅵ 平成19(2007)年10月1日～平成19(2007)年1月10日（現場） 平成19(2007)年7月6日～平成20(2008)年3月26日（整理作業）  平成20(2008)年5月19日～平成21(2009)年3月2日（現場） 平成20(2008)年4月7日～平成21(2009)年3月31日（整理作業）  平成21(2009)年4月13日～平成21(2009)年5月29日（現場） 平成21(2009)年4月7日～平成22(2010)年3月31日（整理作業）		
調査面積	西八日町遺跡Ⅴ（614㎡） 西八日町遺跡Ⅵ(240㎡)		
調査原因	まちづくり交付金事業 区画内道路整備		
種別	集落跡		
主な時代	古墳・奈良・平安・中世		
遺跡概要	集落址-古墳+奈良+平安+中世-竪穴住居址+掘立柱建物址+溝状遺構+土坑+ヒョット土師器+須恵器+金属製品+石製品+土製品+玉類+古銭		
特記事項	遺跡は、古墳時代前期から中世に至る幅広い時期が混在する複合遺跡である。古墳時代から平安時代については住居址等の集落跡、中世では区画溝と考えられる溝状遺構が発見され調査を実施した。今回の調査によって、古墳時代から継続的に集落が営まれていた様子を伺い知ることができた。		